

# 男女共同参画に係る市民の意識と実態調査 結果報告書

平成 27 年 2 月

亀 岡 市



# 目次

I	調査の概要	1
II	調査結果	2
1	回答者属性	2
	問1 性別	2
	問2 年齢	3
	問3 結婚	4
	問4 世帯構成	5
	問5 職業	6
2	男女平等に関する意識について	7
	問6 各分野における男女平等意識	7
	問7 男女共同参画社会を目指すために重要だと思うこと	16
	問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方	18
3	家庭生活・子育てについて	20
	問9 家庭生活での役割分担	20
	問10 男性が女性とともに家庭生活等に積極的に参加するためには	28
4	仕事について	32
	問11-1 職場の男女構成	32
	問11-2 職場の状況	33
	問12 男女がともに働きやすい環境をつくるためには	44
5	配偶者・恋人等からの暴力について	47
	問13 配偶者や恋人等からの暴力	47
	問14 暴力を受けた時の相談先	59
	問15 配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには	61
6	社会活動への参加について	64
	問16 社会活動への参加	64
	問17 参加に支障となること	73
7	災害について	75
	問18 避難が必要になった時	75
	問19 性別に配慮して取り組む必要があること	77
8	男女共同参画に関する施策について	79
	問20 男女共同参画に関する事項	79
9	男女共同参画の推進について	90
	問21 男女共同参画推進に取り組みが不十分な分野	90
	問22 意見・要望など（自由意見）	93
III	調査結果のまとめと課題	100
IV	アンケート調査票	101

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、男女共同参画状況及び市民の考え方や実態を把握し、「亀岡市男女共同参画計画～ゆう・あいステッププラン～」の今後の施策の方向付けや課題の把握の基礎資料とします。

## 2 調査対象

亀岡市在住の満 20 歳以上の男女 2,000 人を無作為抽出

## 3 調査期間

平成 26 年 10 月 1 日から平成 26 年 10 月 24 日


## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
2,000 通	700 通	697 通	34.9%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各設問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してあります。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の設問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査結果を図表にて表示していますが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしています。（無回答を除く）

## II 調査結果

### 1 回答者属性

問1 あなたの性別をお書きください。

**「女性」の割合が57.8%、「男性」の割合が41.2%**

#### ○全体では

「女性」の割合が57.8%、「男性」の割合が41.2%となっています。

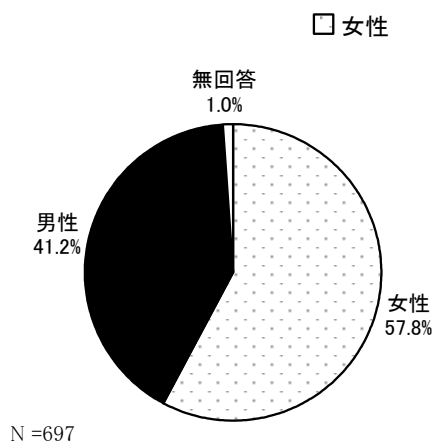
#### ○年齢別では

他の年齢に比べ、30歳代で「女性」の割合が高くなっています。

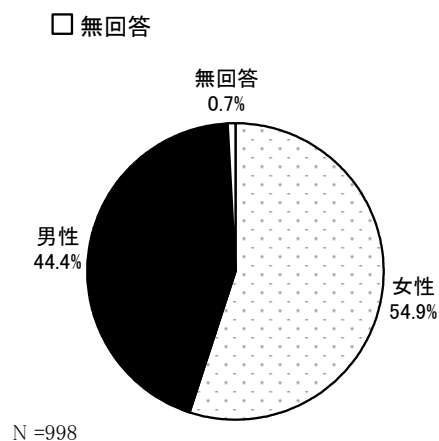
#### ○平成18年度調査との比較

大きな変化はありません。

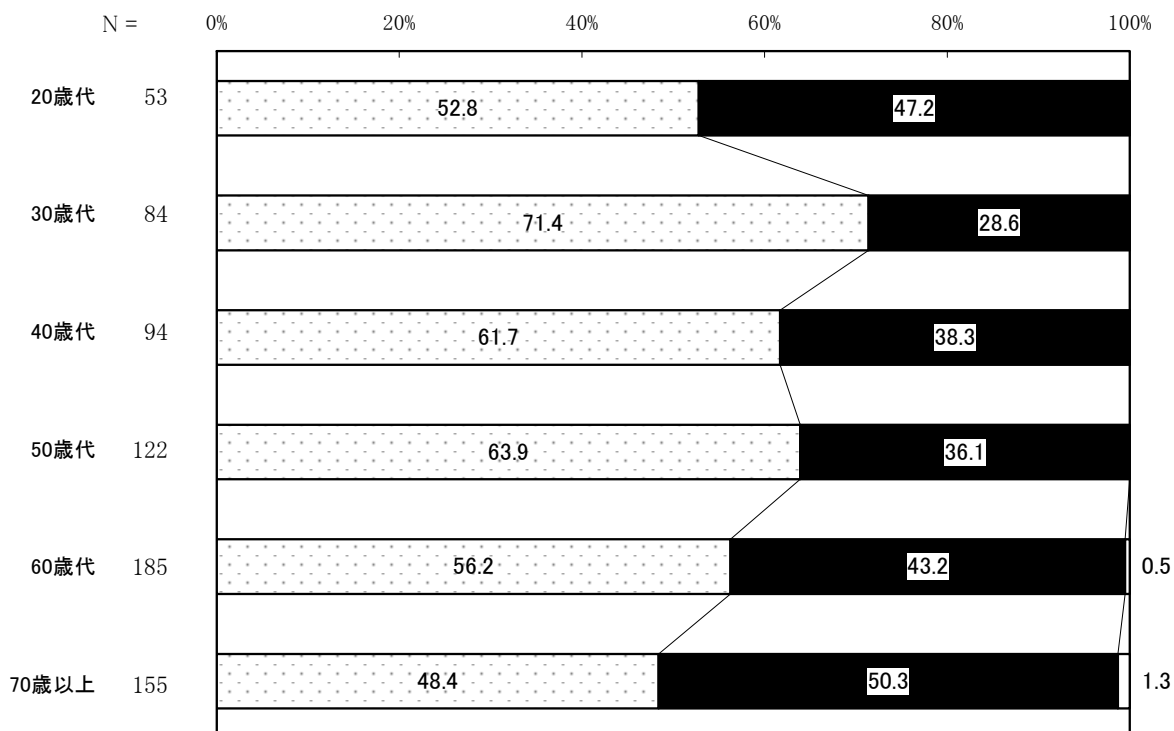
【全 体】



【平成18年度調査（全体）】



【年齢別】



問2 あなたの年齢をお書きください。

**48.7%が60歳以上と回答**

**○全体では**

「60歳代」の割合が26.5%と最も高く、次いで「70歳以上」の割合が22.2%、「50歳代」の割合が17.5%となっています。

**○性別では**

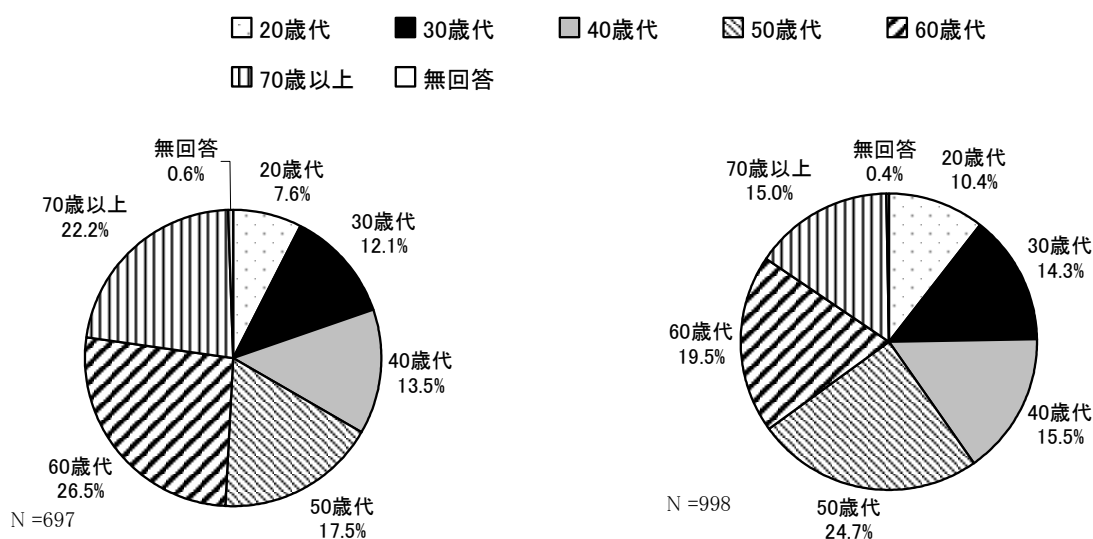
男性に比べ、女性で「30歳代」の割合が6.5ポイント高くなっています。また女性に比べ、男性で「70歳以上」の割合が8.6ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

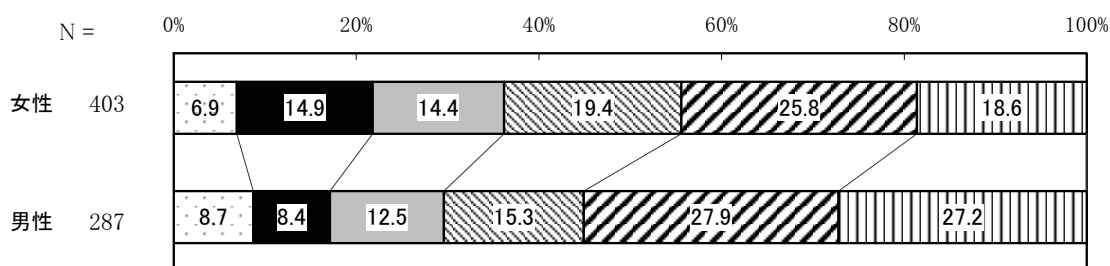
今回調査で「60歳代」の割合が7.0ポイント、「70歳以上」の割合が7.2ポイント高くなっています。

【全 体】

【平成18年度調査（全体）】



**【性 別】**



問3 あなたは結婚されていますか。(1つだけに○印)

**76.9%の人が「結婚している」と回答**

**○全体では**

「結婚している」の割合が76.9%と最も高く、次いで「結婚していない」の割合が11.3%となっています。

**○性別では**

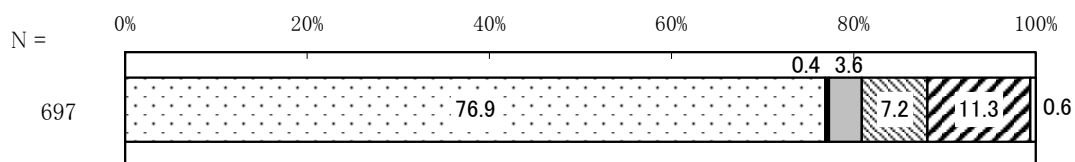
男性に比べ、女性で「死別した」の割合が7.1ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

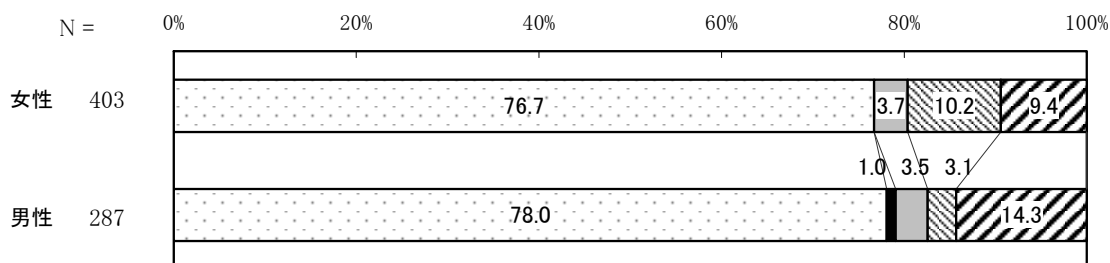
今回調査で「結婚している」の割合が9.7ポイント高くなっています。

- 結婚している
- 結婚していないがパートナーと暮らしている
- ▨ 離別した
- ▩ 死別した
- ▧ 結婚していない
- 無回答

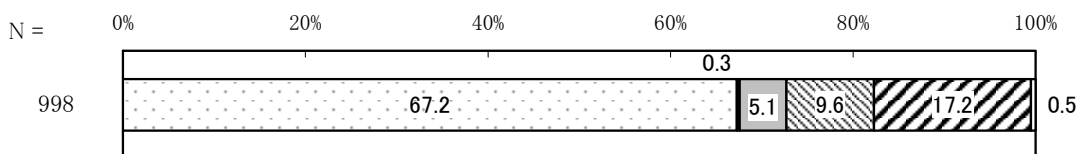
**【全体】**



**【性別】**



**【平成18年度調査 (全体)】**



問4 あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○印)

46.6%の人が「2世代世帯(親と子ども)」と回答

○全体では

「2世代世帯(親と子ども)」の割合が46.6%と最も高く、次いで「1世代世帯(夫婦のみ)(事実婚などを含む)」の割合が30.4%、「3世代世帯(親と子どもと孫)」の割合が11.8%となっています。

○性別では

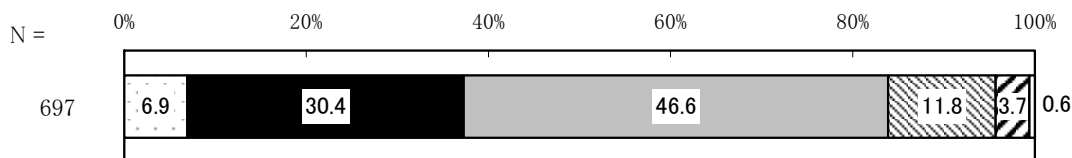
大きな差はありません。

○平成18年度調査との比較

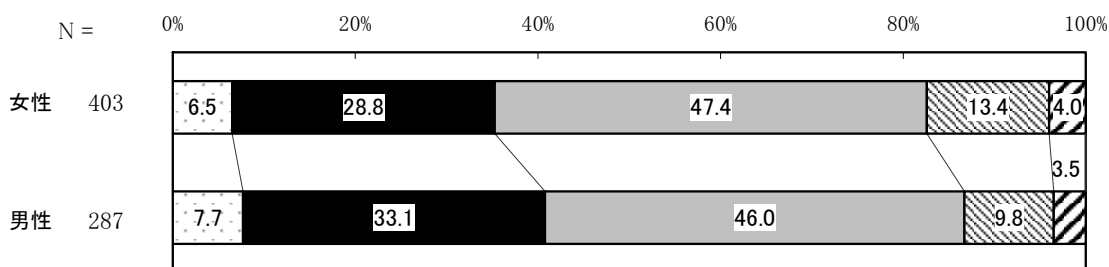
今回調査で「1世代世帯(夫婦のみ)(事実婚などを含む)」の割合が7.6ポイント高くなっています。

- 単身世帯(一人住まい)
- 1世代世帯(夫婦のみ)(事実婚などを含む)
- ▒ 2世代世帯(親と子ども)
- ▨ 3世代世帯(親と子どもと孫)
- ▩ その他
- 無回答

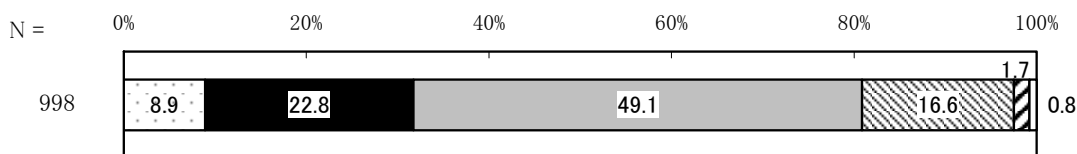
【全体】



【性別】



【平成18年度調査(全体)】





問5 あなたの職業をお答えください。(1つだけに○印) 2つ以上あてはまる場合は、そのうち主なもの1つに○印をつけてください。

**23.4%の人が「家事専業(主婦、主夫)、家族従業者」と回答**

**○全体では**

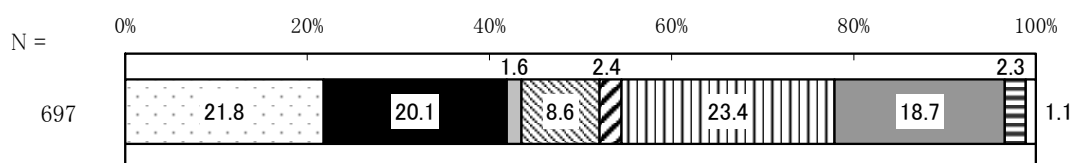
「家事専業(主婦、主夫)、家族従業者」の割合が23.4%と最も高く、次いで「正社員・正職員」の割合が21.8%、「非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)」の割合が20.1%となっています。

**○性別では**

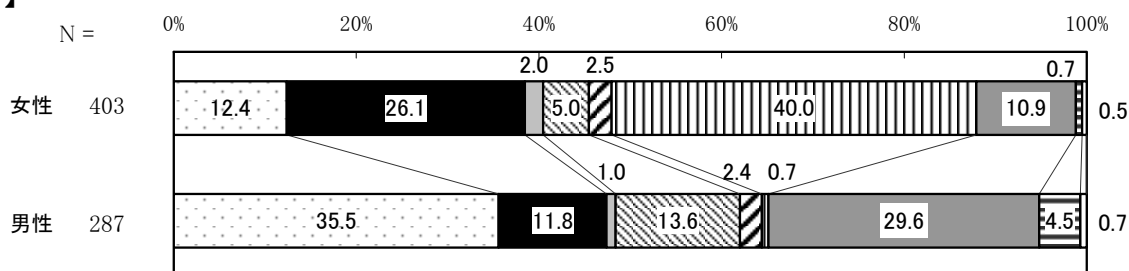
男性に比べ、女性で「非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)」の割合が14.3ポイント、「家事専業(主婦、主夫)、家族従業者」の割合が39.3ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「正社員・正職員」の割合が23.1ポイント、「自営業、自由業」の割合が8.6ポイント、「無職」の割合が18.7ポイント高くなっています。

- 正社員・正職員
- 非正規社員・非正規職員(パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)
- ▨ 役員(法人・団体役員など)
- ▩ 自営業、自由業
- ▧ 学生
- ▦ 家事専業(主婦、主夫)、家族従業者
- ▥ 無職(上記を除く)
- ▤ その他
- 無回答

**【全 体】**

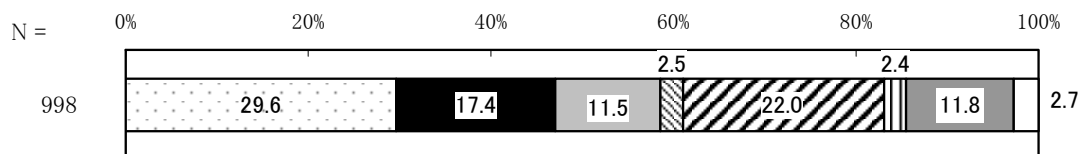


**【性 別】**



**【平成18年度調査(全体)】**

- 常勤(フルタイム)
- ▨ 自営業主・家族従業者
- ▩ 家事専業
- ▧ その他
- パート・アルバイト・派遣社員など
- ▦ 学生
- ▥ 求職・失業中
- 無回答



## 2 男女平等に関する意識について

問6 あなたは、現在、次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○印)

「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」をあわせた割合を“男性の方が優遇されている”、「女性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」をあわせた割合を“女性の方が優遇されている”とします。

### (1) 家庭生活で

#### 50.0%の人が“男性の方が優遇されている”と回答

##### ○全体では

“男性の方が優遇されている”の割合が50.0%、“女性の方が優遇されている”の割合が7.2%、「平等である」の割合が35.3%となっています。

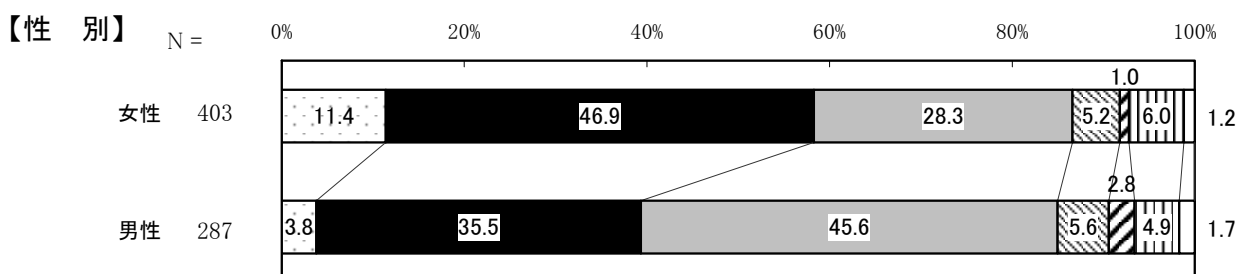
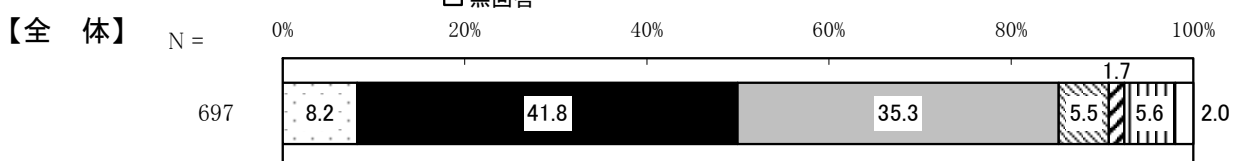
##### ○性別では

男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が7.6ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が11.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が17.3ポイント高くなっています。

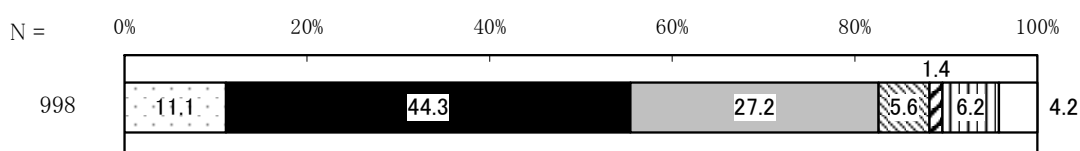
##### ○平成18年度調査との比較

今回調査で「平等である」の割合が8.1ポイント高くなっています。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答



##### 【平成18年度調査（全体）】



## 【比較ポイント】

	今回調査	平成 18 年度調査	前回調査との 数値比較
男性の方が優遇されている	50.0%	55.4%	→
平等である	35.3%	27.2%	→
女性の方が優遇されている	7.2%	7.0%	→

## コラム 男女平等に関する意識について（国・京都府との比較）

国・京都府と比較すると、亀岡市では「（１）家庭生活で」“男性の方が優遇されている”の割合が高くなっています。

一方、「（２）職場で」“男性の方が優遇されている”の割合が低くなっています。

### （１）家庭生活で

単位：％

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
国	8.5	34.7	47.0	6.1	1.3	2.3
京都府	8.2	36.5	26.4	16.6	4.8	7.5
亀岡市	8.2	41.8	35.3	5.5	1.7	5.6

### （２）職場で

単位：％

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
国	15.6	42.1	28.5	4.2	0.5	9.2
京都府	17.5	57.5	10.8	5.6	2.0	6.8
亀岡市	10.5	37.2	24.5	5.3	1.6	14.3

資料：国は、男女共同参画社会に関する世論調査（平成 24 年 10 月）、  
京都府は、男女共同参画に関する府民意識調査（平成 21 年 12 月）

(2) 職場で

**47.7%の人が“男性の方が優遇されている”と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が47.7%、“女性の方が優遇されている”の割合が6.9%、「平等である」の割合が24.5%となっています。

**○性別では**

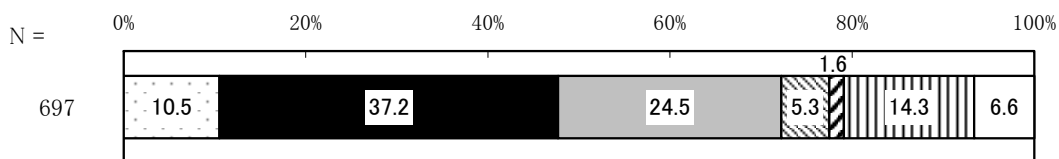
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が6.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が8.5ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

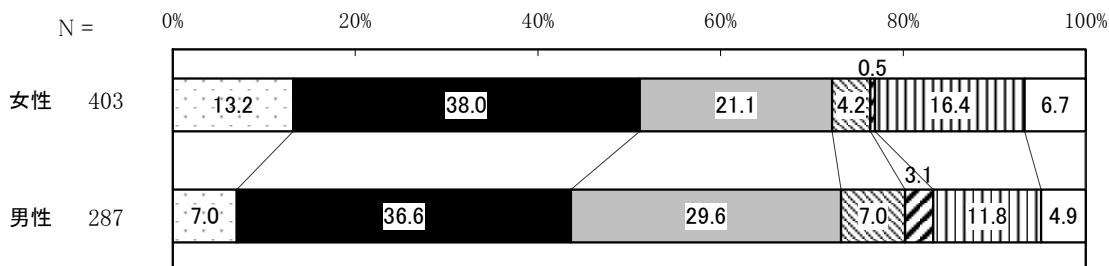
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

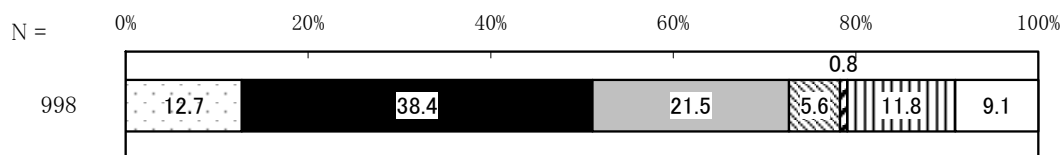
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	47.7%	51.1%	→
平等である	24.5%	21.5%	→
女性の方が優遇されている	6.9%	6.4%	→

(3) 学校教育の場で

**52.9%の人が「平等である」と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が13.6%、“女性の方が優遇されている”の割合が4.1%、「平等である」の割合が52.9%となっています。

**○性別では**

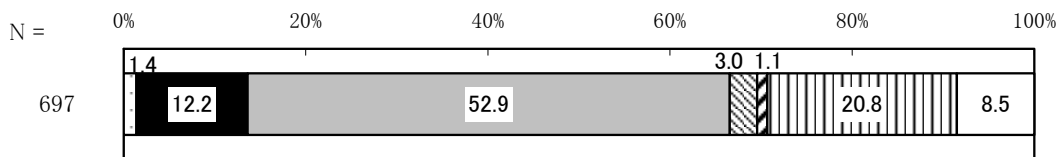
女性に比べ、男性で「平等である」の割合が5.0ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

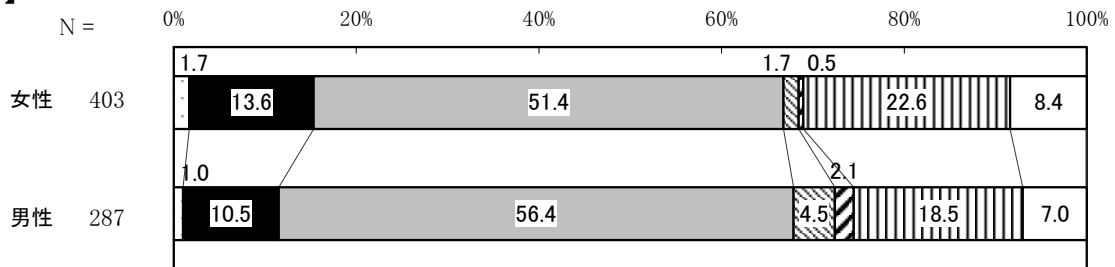
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- どちらかといえば女性の方が優遇されている
- 女性の方が非常に優遇されている
- わからない
- 無回答

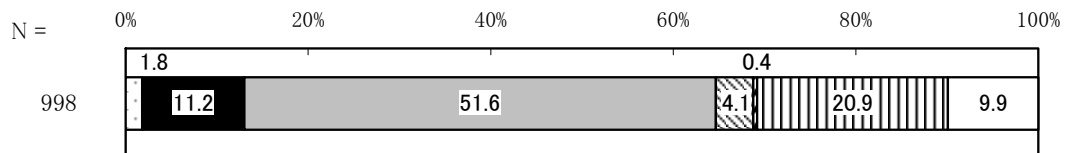
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
男性の方が優遇されている	13.6%	13.0%	➔
平等である	52.9%	51.6%	➔
女性の方が優遇されている	4.1%	4.5%	➡

(4) 自治会やNPOなど地域活動の場で

**37.9%の人が“男性の方が優遇されている”と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が37.9%、“女性の方が優遇されている”の割合が4.4%、「平等である」の割合が35.0%となっています。

**○性別では**

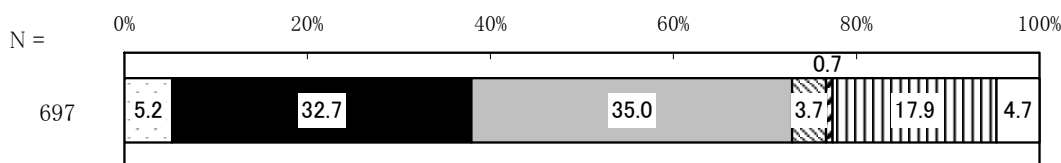
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が5.1ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が10.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が18.2ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

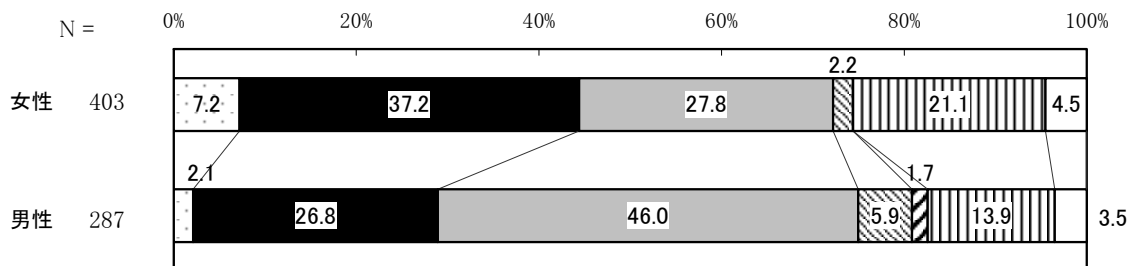
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

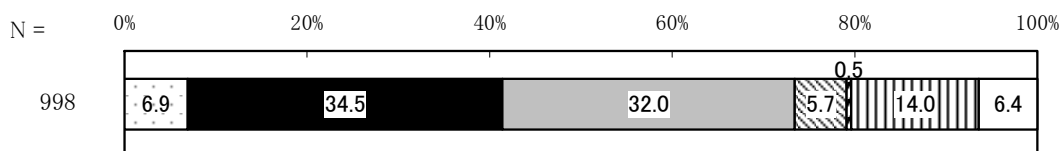
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	37.9%	41.4%	→
平等である	35.0%	32.0%	→
女性の方が優遇されている	4.4%	6.2%	→

(5) 政治の場で

**69.0%の人が“男性の方が優遇されている”と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が69.0%、“女性の方が優遇されている”の割合が2.5%、「平等である」の割合が12.3%となっています。

**○性別では**

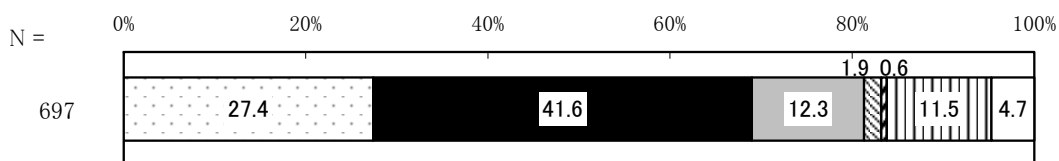
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が15.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が10.0ポイント、「平等である」の割合が11.1ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

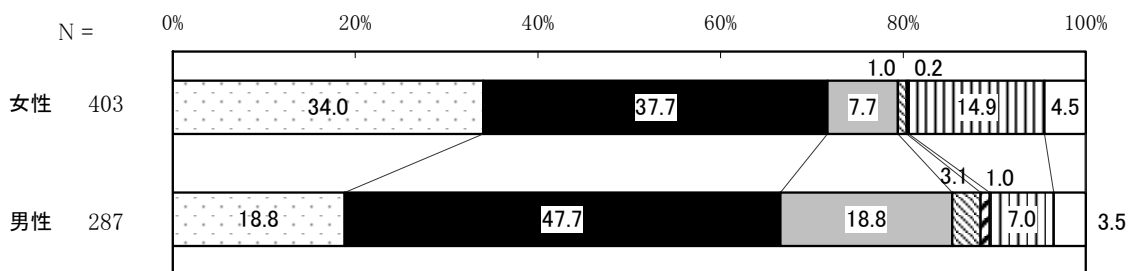
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答

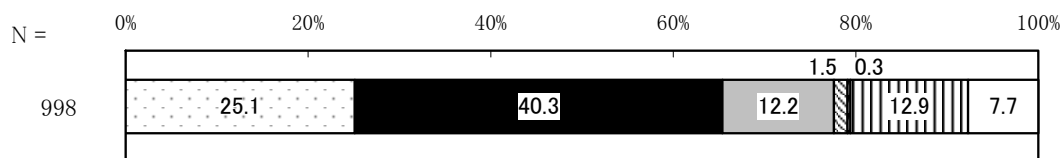
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	69.0%	65.4%	➔
平等である	12.3%	12.2%	➔
女性の方が優遇されている	2.5%	1.8%	➔

(6) 法律や制度のうえで

**45.3%の人が“男性の方が優遇されている”と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が45.3%、“女性の方が優遇されている”の割合が7.4%、「平等である」の割合が28.3%となっています。

**○性別では**

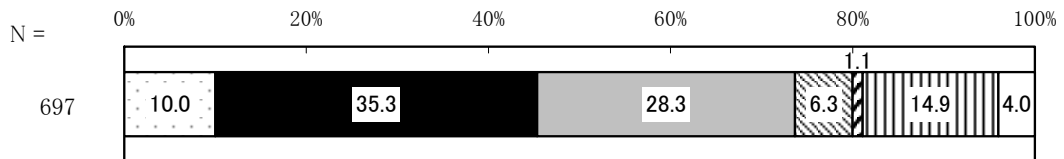
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が11.4ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が9.5ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が22.1ポイント、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」の割合が7.6ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

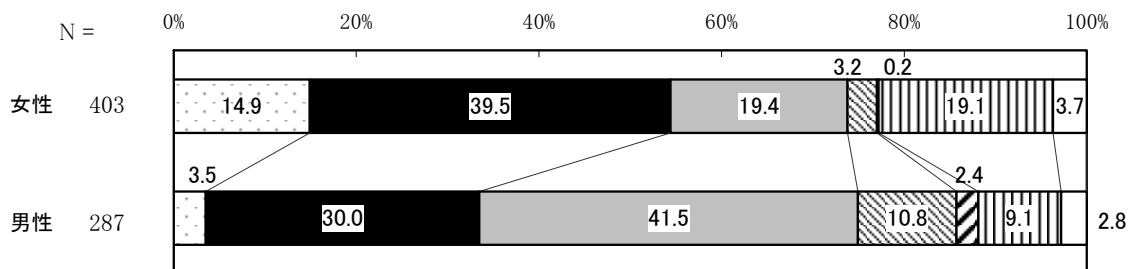
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

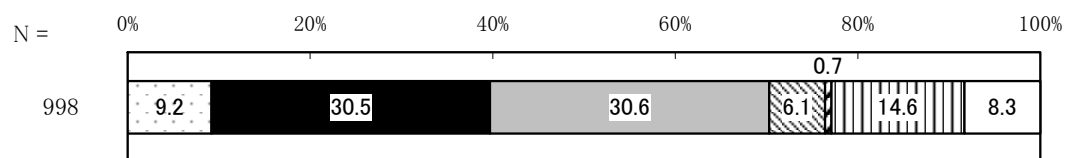
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	45.3%	39.7%	↗
平等である	28.3%	30.6%	↘
女性の方が優遇されている	7.4%	6.8%	↗



(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで

**76.3%の人が“男性の方が優遇されている”と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が76.3%、“女性の方が優遇されている”の割合が2.4%、「平等である」の割合が9.9%となっています。

**○性別では**

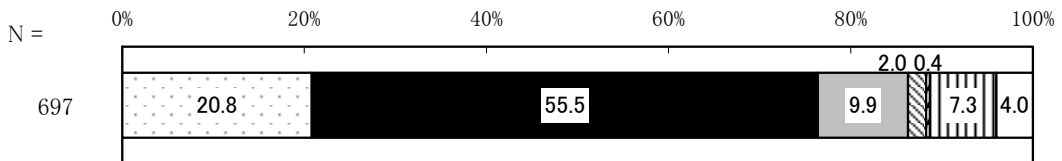
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が13.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が8.6ポイント、「平等である」の割合が5.8ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

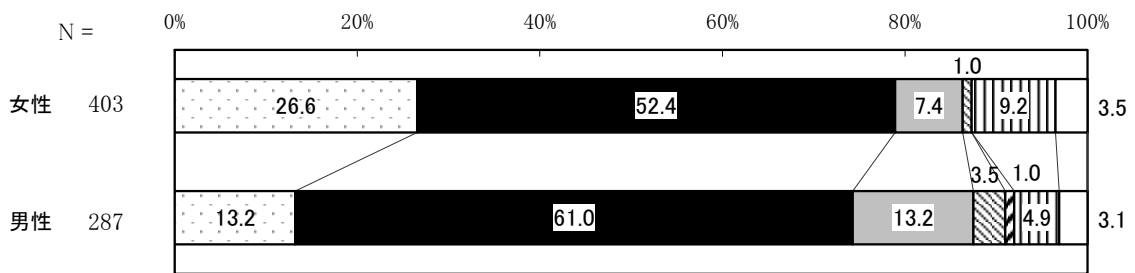
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- ▒ 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▩ 女性の方が非常に優遇されている
- ▧ わからない
- 無回答

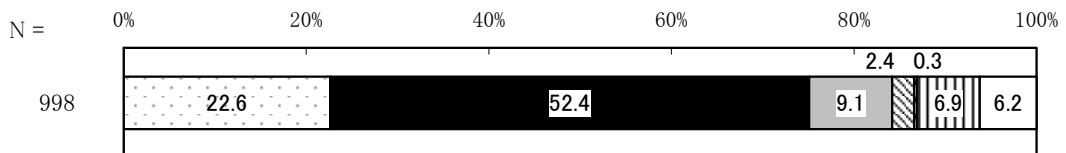
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	76.3%	75.0%	➔
平等である	9.9%	9.1%	➔
女性の方が優遇されている	2.4%	2.7%	➡

(8) 社会全体のなかで

**70.5%の人が“男性の方が優遇されている”と回答**

**○全体では**

“男性の方が優遇されている”の割合が70.5%、“女性の方が優遇されている”の割合が4.5%、「平等である」の割合が14.3%となっています。

**○性別では**

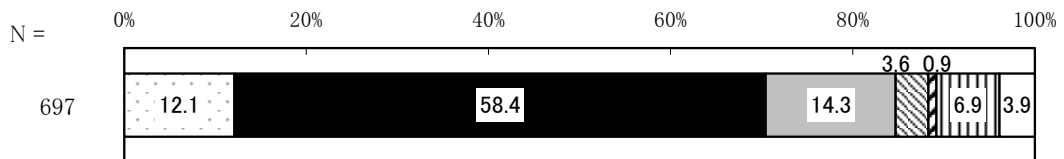
男性に比べ、女性で「男性の方が非常に優遇されている」の割合が9.5ポイント、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の割合が6.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が16.3ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

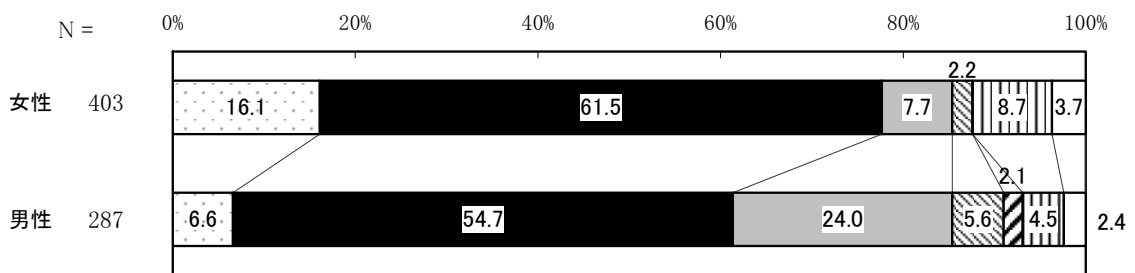
大きな変化はありません。

- 男性の方が非常に優遇されている
- どちらかといえば男性の方が優遇されている
- 平等である
- ▨ どちらかといえば女性の方が優遇されている
- ▨ 女性の方が非常に優遇されている
- ▨ わからない
- 無回答

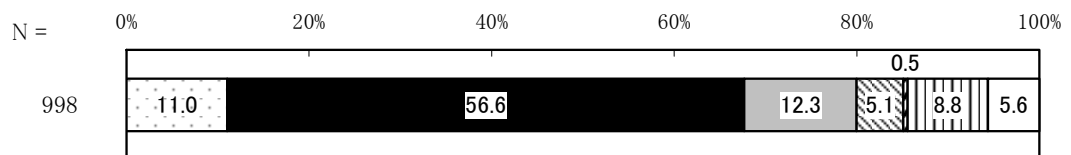
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
男性の方が優遇されている	70.5%	67.6%	↗
平等である	14.3%	12.3%	↗
女性の方が優遇されている	4.5%	5.6%	↘

問7 あなたは、男女共同参画社会を目指すためには、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

### 42.0%の人が「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」と回答

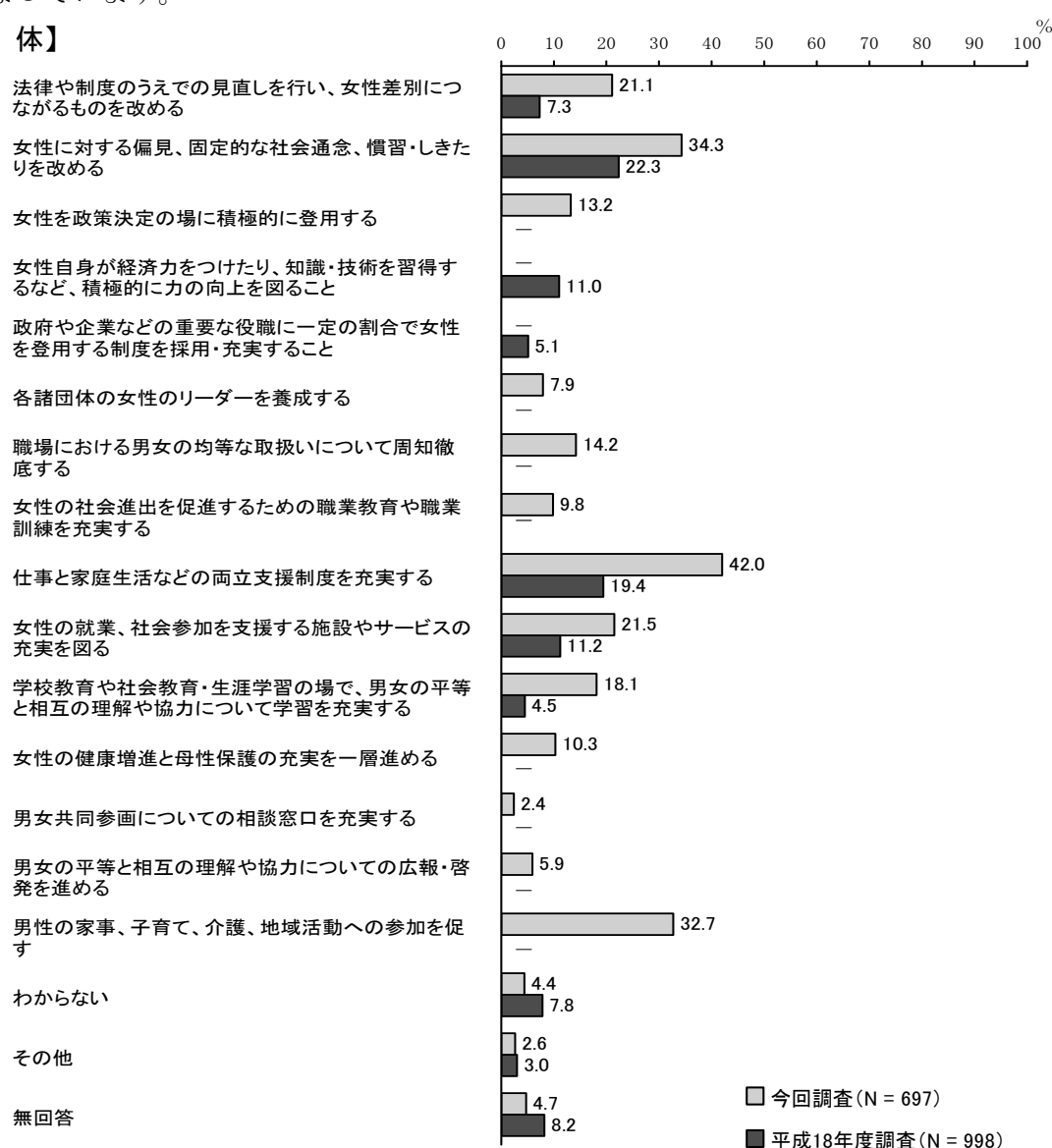
#### ○全体では

「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合が42.0%と最も高く、次いで「女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める」の割合が34.3%、「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す」の割合が32.7%となっています。

#### ○平成18年度調査との比較

今回調査で「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合が22.6ポイント高くなっています。

#### 【全体】



※「—」は、今回調査もしくは平成18年調査でなかった選択肢です。

※「学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する」は、平成18年度調査では「学校教育などで男女平等についての学習を充実すること」でした。

【性別】

男性に比べ、女性で「仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する」の割合が 9.3 ポイント、「男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す」の割合が 13.6 ポイント高くなっています。また女性に比べ、男性で「男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める」の割合が 7.8 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める	女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各諸団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する	女性の社会進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する	仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
女性	403	19.4	36.2	13.2	6.7	12.7	10.4	46.2	21.8
男性	287	24.0	32.4	13.6	9.8	16.4	9.1	36.9	21.6

区分	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する	女性の健康増進と母性保護の充実を一層進める	男女共同参画についての相談窓口を充実する	男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す	わからない	その他	無回答
女性	16.6	11.2	1.7	2.7	38.7	5.2	1.5	4.5
男性	20.6	9.4	3.5	10.5	25.1	3.1	4.2	3.5

問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか。(1つだけに○印)

「同感する(賛成)」と「どちらかといえば賛成」をあわせた割合を“賛成”、「同感しない(反対)」と「どちらかといえば反対」をあわせた割合を“反対”とします。

**45.4%の人が“反対”と回答**

**○全体では**

“賛成”の割合が44.3%、“反対”の割合が45.4%となっています。

**○性別では**

男性に比べ、女性で「同感しない(反対)」の割合が6.1ポイント高くなっています。また女性に比べ、男性で「どちらかといえば賛成」の割合が10.4ポイント高くなっています。

**○性別年齢別では**

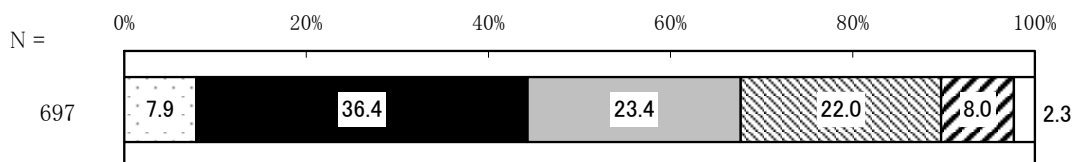
20歳代を除くすべての年代で、女性に比べ、男性で“賛成”の割合が高く、特に男性の30歳代、70歳以上で6割を超えています。また、他に比べ、女性の50歳代で“反対”の割合が高く、6割を超えています。

**○平成18年度調査との比較**

今回調査で「同感しない」の割合が全体で13.1ポイント、女性で13.8ポイント、男性で11.1ポイント高くなっています。

同感する(賛成)       どちらかといえば賛成       どちらかといえば反対  
 同感しない(反対)       わからない       無回答

**【全 体】**

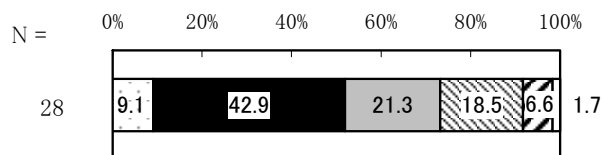


**【性 別】**

**<女性>**



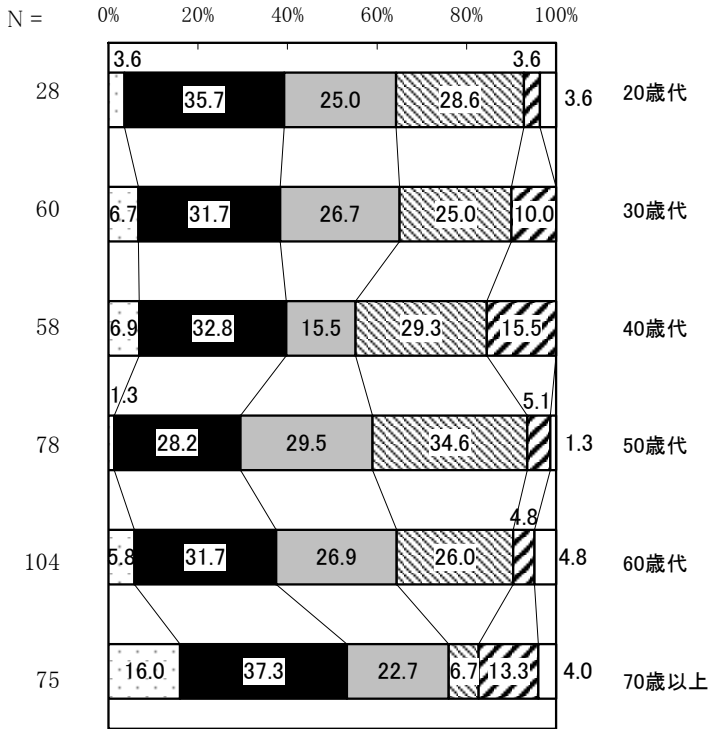
**<男性>**



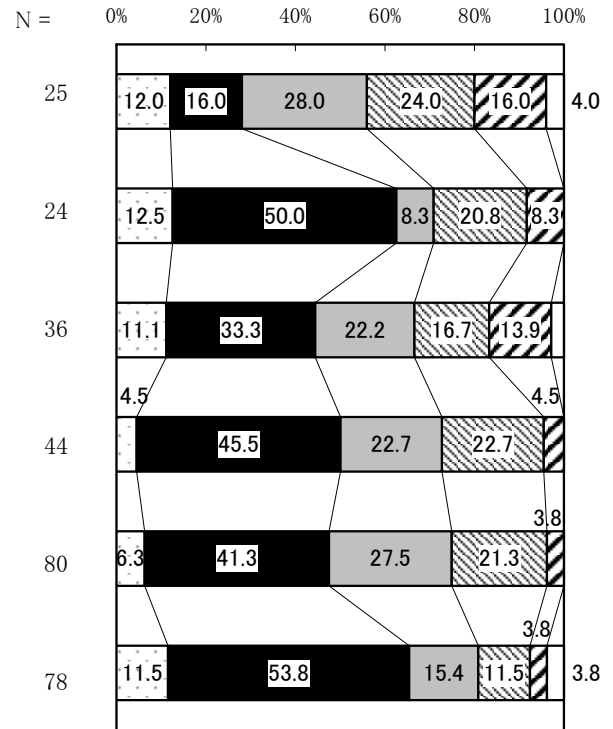
【性別年齢別】

- 同感する(賛成)      ■ どちらかといえば賛成      □ どちらかといえば反対
- ▨ 同感しない(反対)      ▩ わからない      □ 無回答

〈女性〉

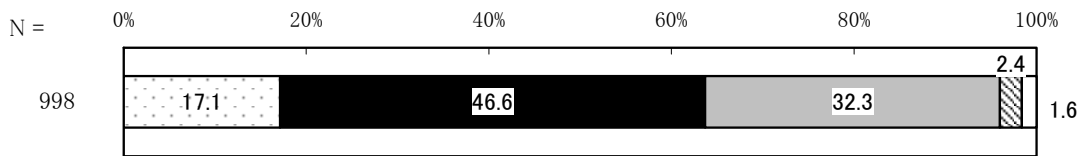


〈男性〉



【平成 18 年度調査 (全体)】

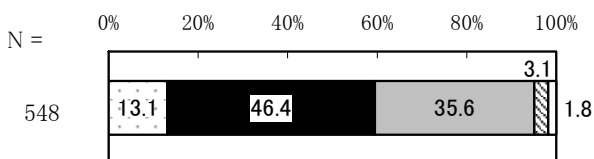
- 同感する      ■ どちらともいえない      □ 同感しない
- ▨ わからない      □ 無回答



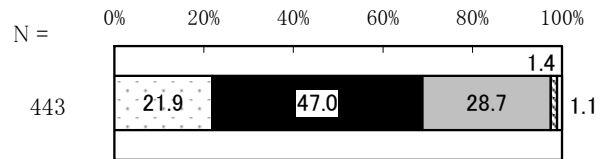
【平成 18 年度調査 (性別)】

- 同感する      ■ どちらともいえない      □ 同感しない
- ▨ わからない      □ 無回答

〈女性〉



〈男性〉



### 3 家庭生活・子育てについて

問9 あなたの家庭では、(1)～(8)のそれぞれについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(それぞれ1つずつに○印)

#### (1) 家事（炊事・洗濯・掃除など）

**76.3%の人が「主に女性」と回答**

##### ○全体では

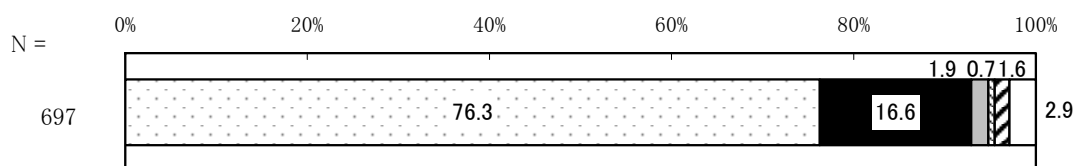
「主に女性」の割合が76.3%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が16.6%となっています。

##### ○性別では

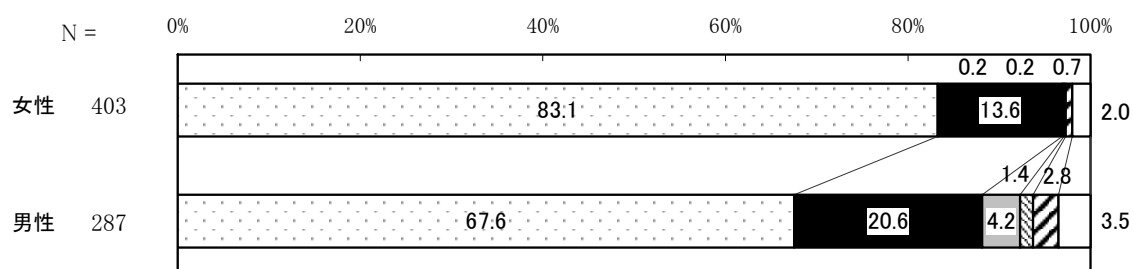
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が15.5ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が7.0ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 ▨主に男性 ▩その他 ▪該当しない □無回答

#### 【全 体】



#### 【性 別】



(2) 子育て（子どもの世話、しつけ、教育など）

**48.4%の人が「主に女性」と回答**

**○全体では**

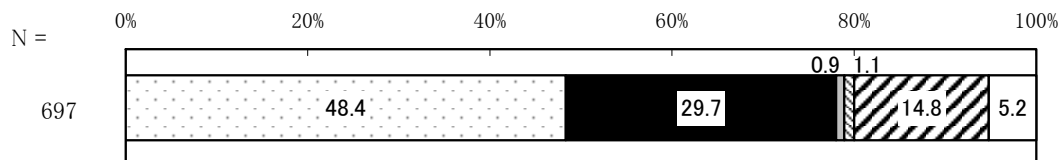
「主に女性」の割合が 48.4%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が 29.7%となっています。

**○性別では**

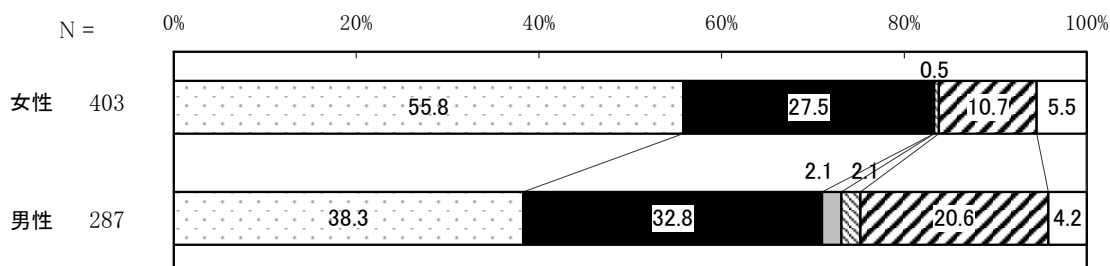
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が 17.5 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が 5.3 ポイント高くなっています。

□ 主に女性 ■ 共同して分担 □ 主に男性 ▨ その他 ▩ 該当しない □ 無回答

**【全 体】**



**【性 別】**





(3) 介護（介護が必要な親の世話、病人の介護など）

**32.9%の人が「主に女性」と回答**

**○全体では**

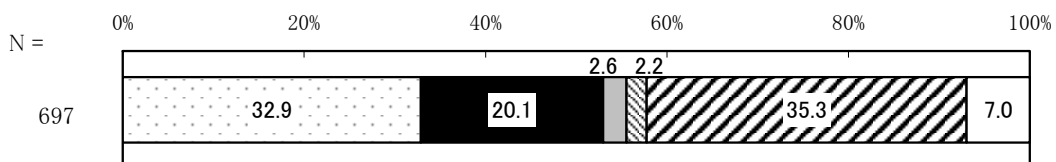
「該当しない」の割合が 35.3%と最も高くなっています。次いで「主に女性」の割合が 32.9%、「共同して分担」の割合が 20.1%となっています。

**○性別では**

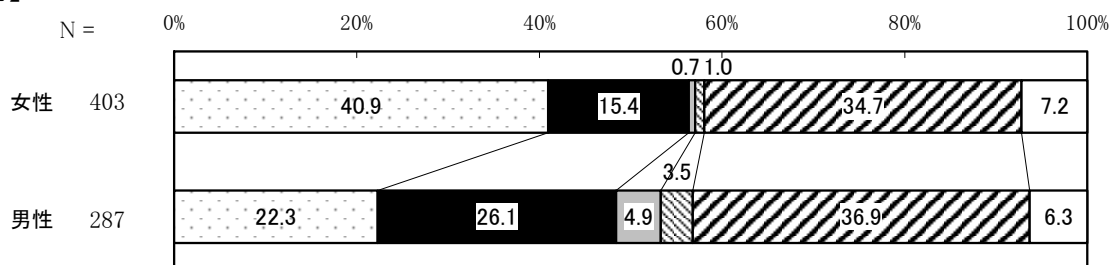
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が 18.6 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が 10.7 ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 □主に男性 ▨その他 ▩該当しない □無回答

**【全 体】**



**【性 別】**



(4) 地域の行事への参加、自治会活動  
37.7%の人が「共同して分担」と回答

**○全体では**

「共同して分担」の割合が37.7%と最も高く、次いで「主に男性」の割合が27.7%、「主に女性」の割合が23.7%となっています。

**○性別では**

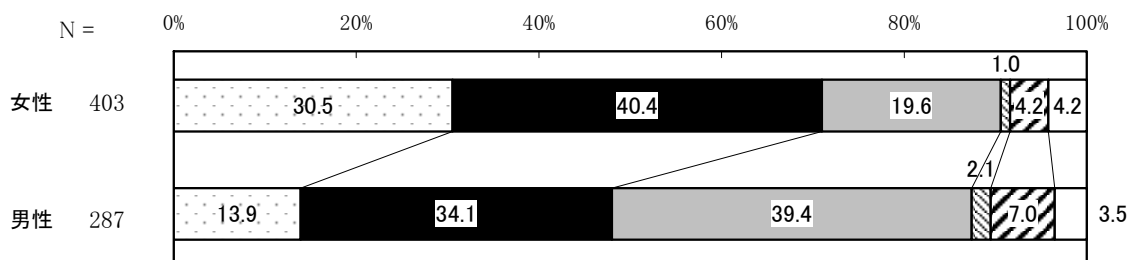
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が16.6ポイント、「共同して分担」の割合が6.3ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「主に男性」の割合が19.8ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 ▨主に男性 ▩その他 ▨該当しない □無回答

**【全 体】**



**【性 別】**



(5) P T A 活動

**49.2%の人が「主に女性」と回答**

**○全体では**

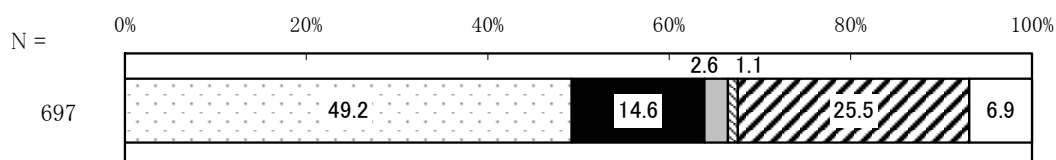
「主に女性」の割合が 49.2%と最も高く、次いで「該当しない」の割合が 25.5%、「共同して分担」の割合が 14.6%となっています。

**○性別では**

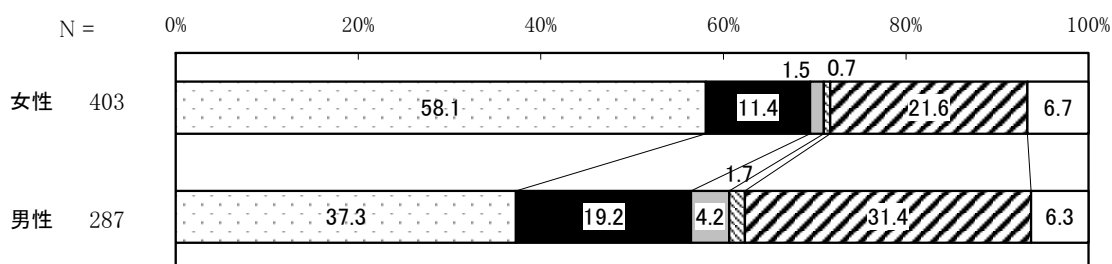
男性に比べ、女性で「主に女性」の割合が 20.8 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「共同して分担」の割合が 7.8 ポイント高くなっています。

□ 主に女性 ■ 共同して分担 □ 主に男性 ▨ その他 ▩ 該当しない □ 無回答

**【全 体】**



**【性 別】**



(6) 生活費（年金を含む）の確保

**49.6%の人が「主に男性」と回答**

**○全体では**

「主に男性」の割合が49.6%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が28.0%、「主に女性」の割合が15.5%となっています。

**○性別では**

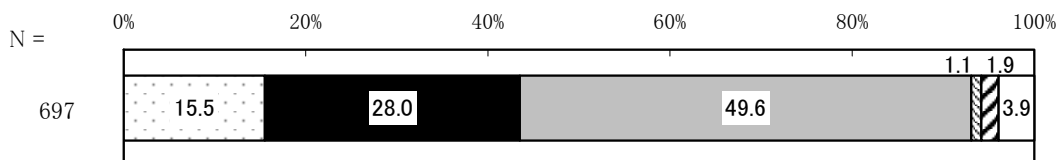
大きな差はありません。

**○平成18年度調査との比較**

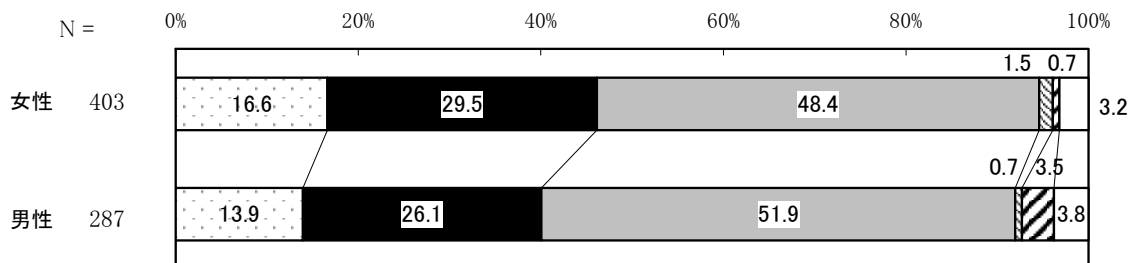
今回調査で、「共同して分担」の割合が10.9ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 □主に男性 ▨その他 ▩該当しない □無回答

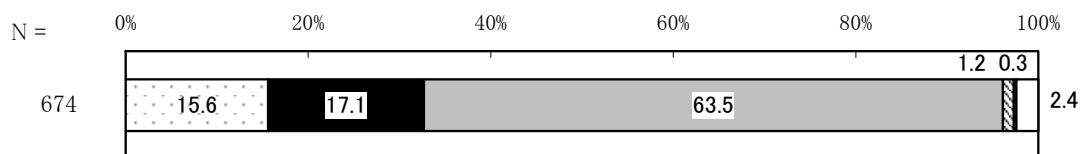
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
主に女性	15.5%	15.6%	→
共同して分担	28.0%	17.1%	→
主に男性	49.6%	63.5%	→

(7) 会計の管理

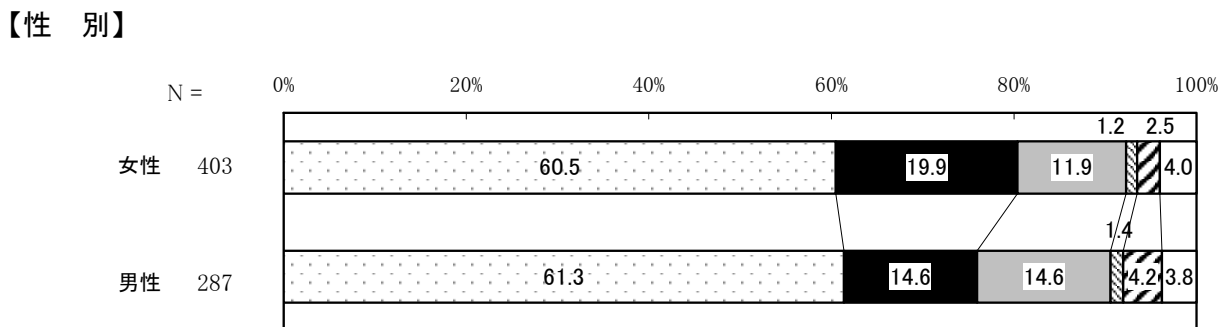
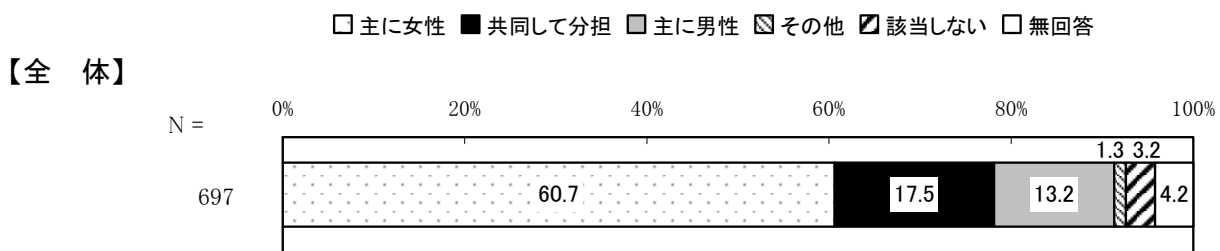
**60.7%の人が「主に女性」と回答**

**○全体では**

「主に女性」の割合が60.7%と最も高く、次いで「共同して分担」の割合が17.5%、「主に男性」の割合が13.2%となっています。

**○性別では**

男性に比べ、女性で「共同して分担」の割合が5.3ポイント高くなっています。



(8) 高価な商品や土地、家屋の購入決定

**43.3%の人が「共同して分担」と回答**

**○全体では**

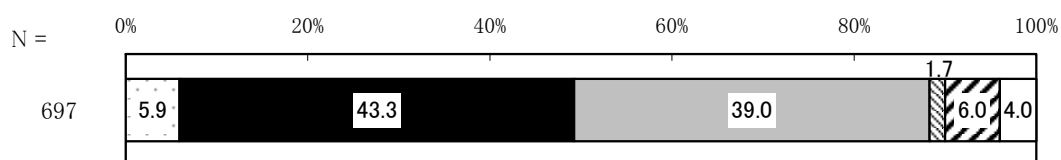
「共同して分担」の割合が43.3%と最も高く、次いで「主に男性」の割合が39.0%となっています。

**○性別では**

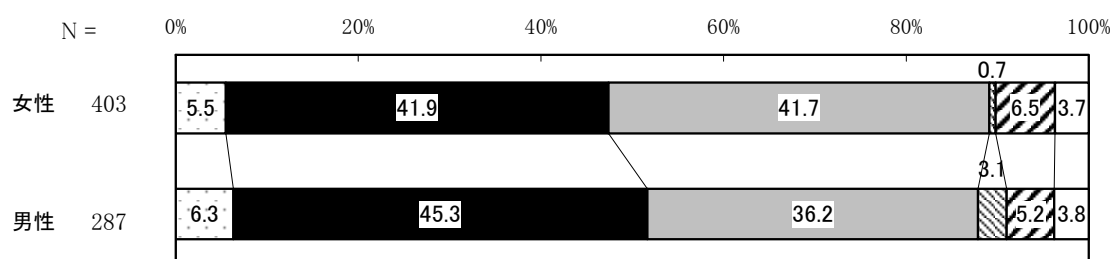
男性に比べ、女性で「主に男性」の割合が5.5ポイント高くなっています。

□主に女性 ■共同して分担 □主に男性 ▨その他 ▩該当しない □無回答

**【全 体】**



**【性 別】**



問 10 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

### 47.5%の人が「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」と回答

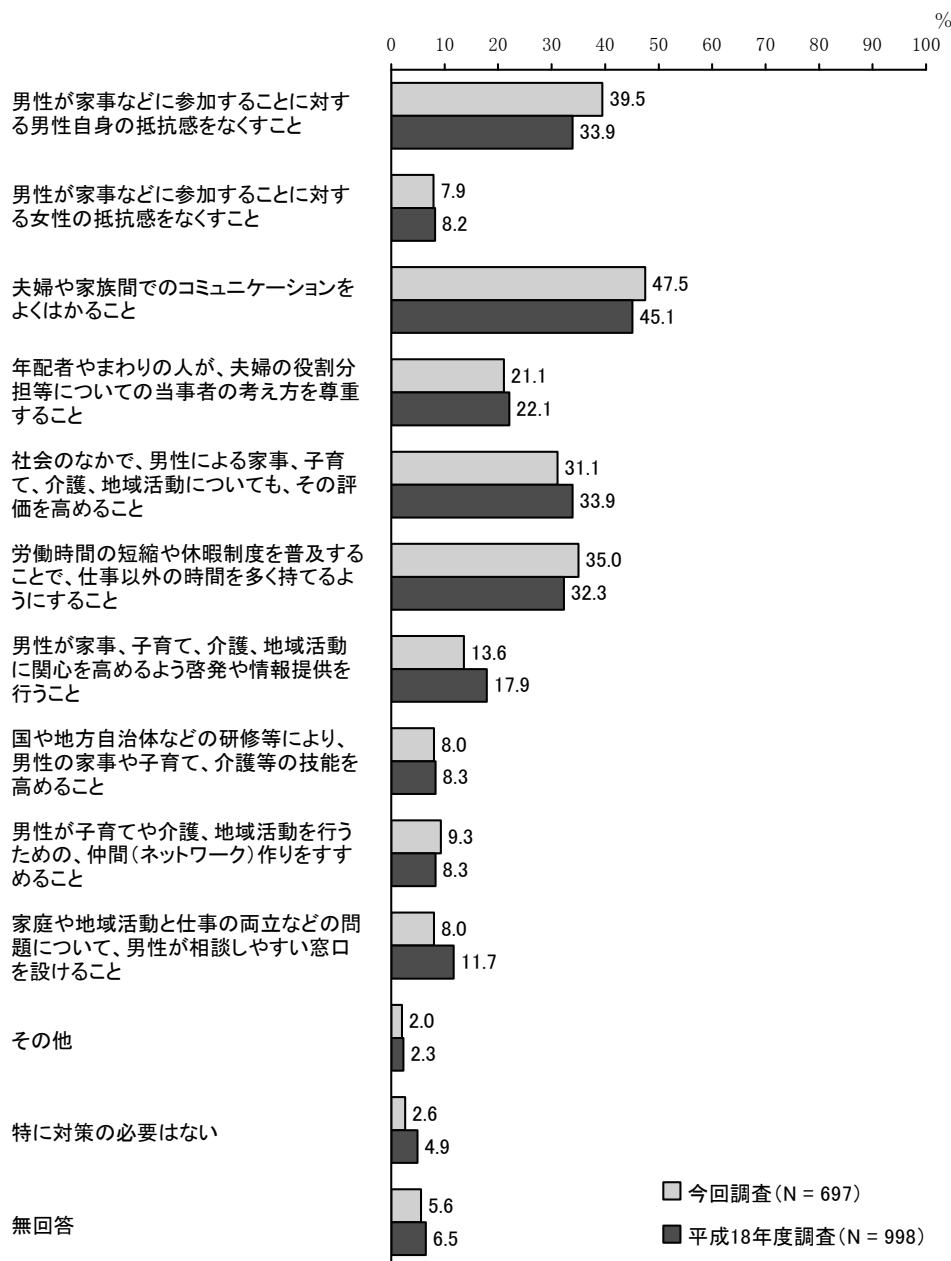
#### ○全体では

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」の割合が47.5%と最も高く、次いで「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が39.5%、「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が35.0%となっています。

#### ○平成18年度調査との比較

今回調査で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が5.6ポイント高くなっています。

#### 【全 体】



【性別】

男性に比べ、女性で「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」の割合が14.0ポイント、「男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること」の割合が6.0ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が5.3ポイント、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」の割合が5.7ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること
女性	403	45.4	6.7	48.4	23.1	32.0	33.0
男性	287	31.4	9.4	46.7	18.8	30.3	38.3

区分	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性	11.4	7.7	11.9	7.7	1.7	1.7	5.2
男性	17.1	8.7	5.9	8.7	2.4	3.8	4.9

コラム

男性が女性とともに家事・子育て等に積極的に参加していくために必要なこと

国では、亀岡市と同じく、男女ともに「家族間でコミュニケーションをはかる」の割合（女性70.2%、男性62.7%）が高くなっていますが、府では、男女ともに「休暇制度の充実」の割合（女性38.7%、男性47.7%）が高くなっています。

資料：国は、男女共同参画社会に関する世論調査（平成24年10月）、  
京都府は、男女共同参画に関する府民意識調査（平成21年12月）



## 【性別年齢別】

女性では年齢が高くなるにつれて「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」「男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと」「家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること」の割合が高い傾向にあります。また、女性の20歳代から40歳代、男性の20歳代から50歳代とともに「労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	男性が家事などに参加することに對する男性自身の抵抗感をなくすこと	男性が家事などに参加することに對する女性の抵抗感をなくすこと	夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること	社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること	労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること
女性 20歳代	28	42.9	—	35.7	28.6	35.7	42.9
30歳代	60	40.0	5.0	50.0	11.7	28.3	63.3
40歳代	58	48.3	5.2	36.2	24.1	51.7	41.4
50歳代	78	44.9	6.4	51.3	24.4	37.2	26.9
60歳代	104	51.0	9.6	54.8	25.0	29.8	25.0
70歳以上	75	41.3	8.0	49.3	25.3	16.0	16.0
男性 20歳代	25	20.0	12.0	44.0	20.0	36.0	68.0
30歳代	24	37.5	12.5	54.2	25.0	20.8	50.0
40歳代	36	19.4	5.6	52.8	11.1	36.1	55.6
50歳代	44	27.3	6.8	29.5	18.2	27.3	45.5
60歳代	80	33.8	8.8	48.8	20.0	30.0	33.8
70歳以上	78	38.5	11.5	50.0	19.2	30.8	17.9

単位：%（つづき）

区分	男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと	能を高めること	国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技	間（ネットワーク）作りをすすめること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間（ネットワーク）作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性 20 歳代	3.6	14.3	25.0	3.6	—	—	10.7		
30 歳代	8.3	3.3	11.7	8.3	—	—	5.0		
40 歳代	6.9	5.2	17.2	5.2	1.7	3.4	—		
50 歳代	14.1	7.7	9.0	6.4	2.6	1.3	1.3		
60 歳代	13.5	10.6	11.5	8.7	1.0	1.9	4.8		
70 歳以上	14.7	6.7	6.7	10.7	4.0	2.7	12.0		
男性 20 歳代	8.0	8.0	8.0	4.0	4.0	4.0	4.0		
30 歳代	4.2	4.2	—	8.3	—	—	4.2		
40 歳代	8.3	5.6	2.8	19.4	5.6	5.6	2.8		
50 歳代	6.8	4.5	4.5	9.1	4.5	6.8	6.8		
60 歳代	25.0	11.3	8.8	7.5	1.3	3.8	3.8		
70 歳以上	25.6	11.5	6.4	6.4	1.3	2.6	6.4		

## 4 仕事について

問 11-1 勤めている人（パート・アルバイトなどを含む）におたずねします。あなたの職場の男女構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。  
（1つだけに○印）

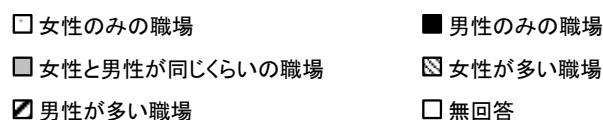
### 29.6%の人が「女性が多い職場」と回答

#### ○全体では

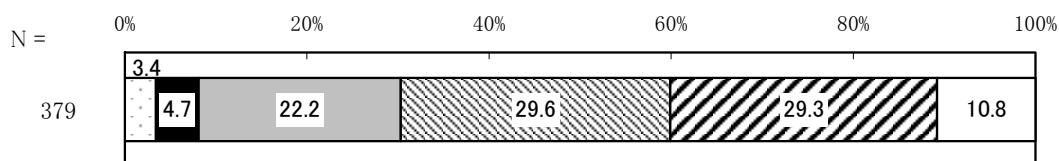
「女性が多い職場」の割合が 29.6%と最も高く、次いで「男性が多い職場」の割合が 29.3%、「女性と男性が同じくらいの職場」の割合が 22.2%となっています。

#### ○性別では

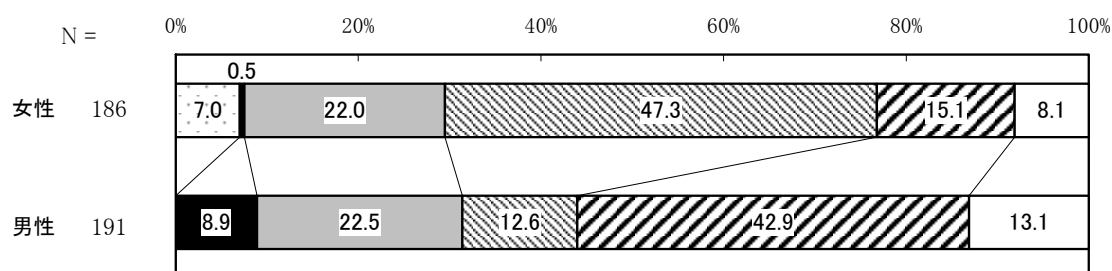
男性に比べ、女性で「女性が多い職場」の割合が 34.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「男性のみの職場」の割合が 8.4ポイント、「男性が多い職場」の割合が 27.8ポイント高くなっています。



#### 【全 体】



#### 【性 別】



問 11-2 問 11-1 で「女性と男性が同じくらいの職場」、「女性が多い職場」、「男性が多い職場」のいずれかに○印をつけた人におたずねします。（「女性だけの職場」、「男性だけの職場」のどちらかに○印をつけた人は、問 12 に進んでください。）あなたの職場では、次のようなことがありますか。（1）～（11）の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は1つずつ）

「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」をあわせた割合を“思う”、「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」をあわせた割合を“思わない”とします。

（1） 採用条件が女性に不利

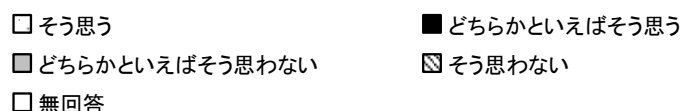
**75.6%の人が“思わない”と回答**

**○全体では**

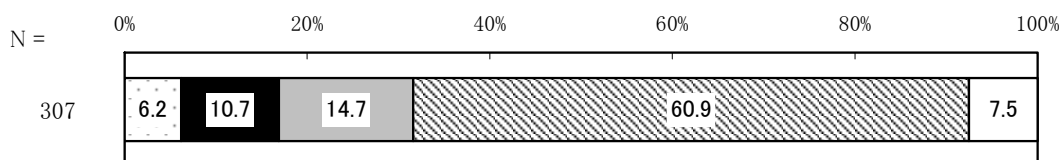
“思う”の割合が16.9%、“思わない”の割合が75.6%となっています。

**○性別では**

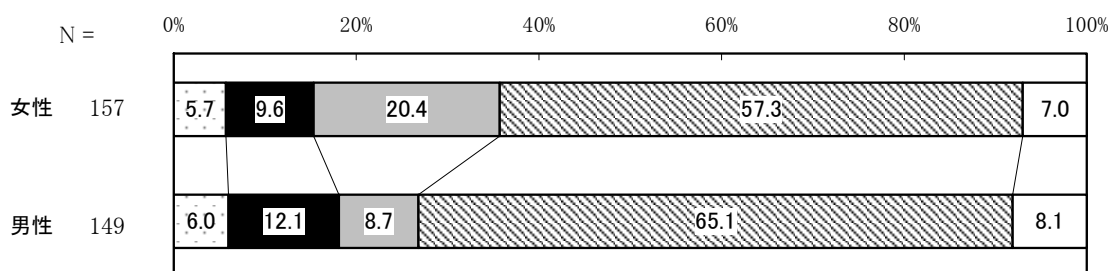
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が11.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思わない」の割合が7.8ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**





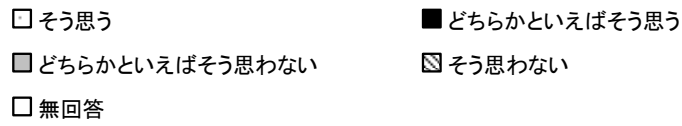
(3) 能力評価が男女平等ではない  
**62.6%の人が“思わない”と回答**

**○全体では**

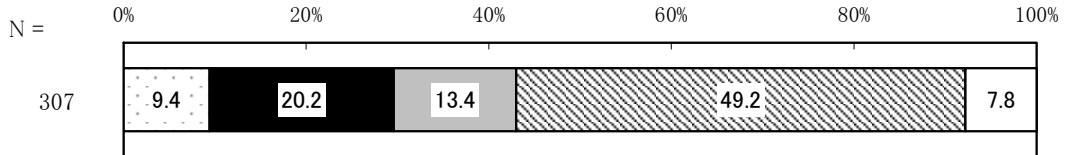
“思う”の割合が29.6%、“思わない”の割合が62.6%となっています。

**○性別では**

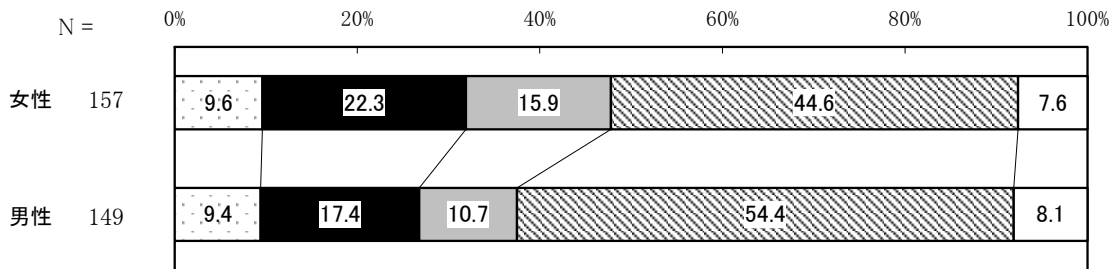
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が5.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思わない」の割合が9.8ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**



(4) 女性は管理職に登用されにくい

**54.1%の人が“思わない”と回答**

**○全体では**

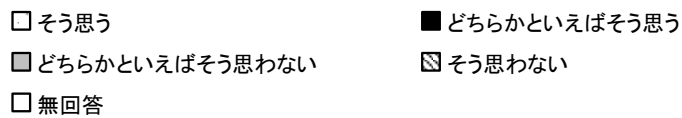
“思う”の割合が37.8%、“思わない”の割合が54.1%となっています。

**○性別では**

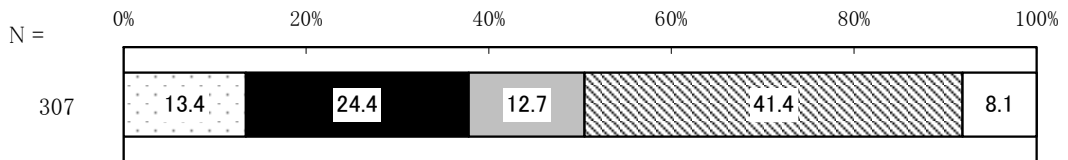
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が7.9ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

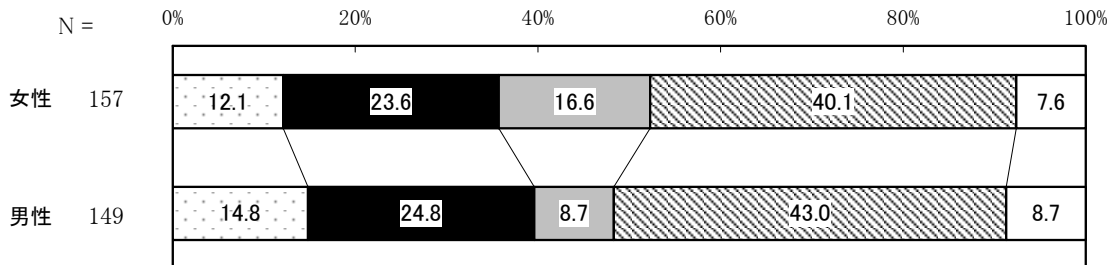
今回調査で「そう思わない」の割合が17.1ポイント高くなっています。



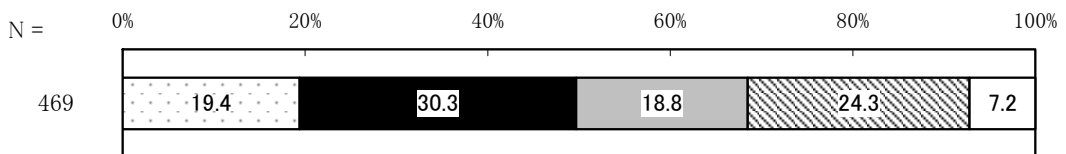
**【全体】**



**【性別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
思う	37.8%	49.7%	→
そう思わない	54.1%	43.1%	→

(5) 配置転換に性別による差がある

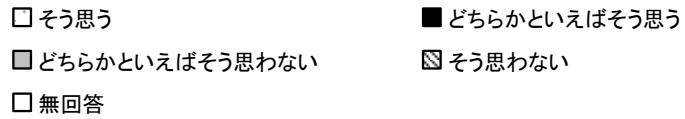
**58.6%の人が“思わない”と回答**

**○全体では**

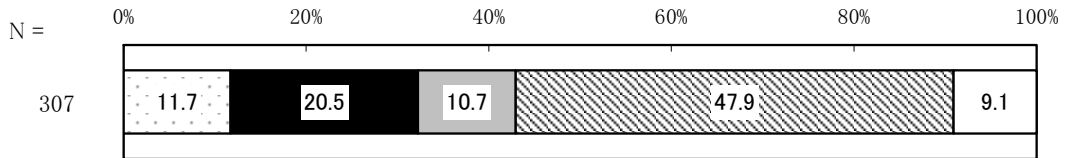
“思う”の割合が32.2%、“思わない”の割合が58.6%となっています。

**○性別では**

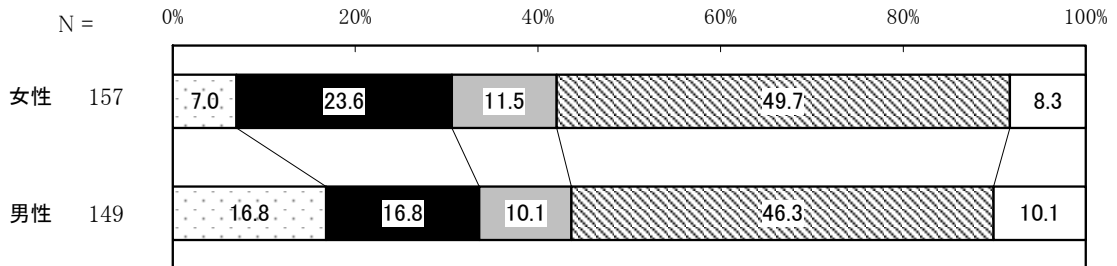
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思う」の割合が6.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が9.8ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**





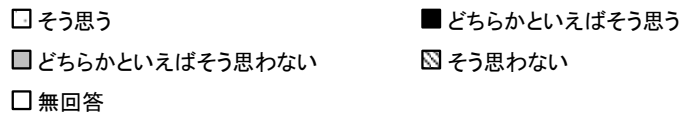
(6) 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある  
50.5%の人が“思わない”と回答

**○全体では**

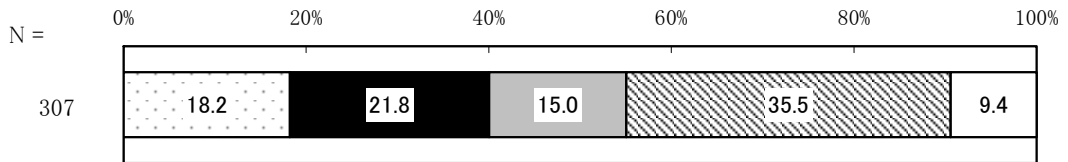
“思う”の割合が40.0%、“思わない”の割合が50.5%となっています。

**○性別では**

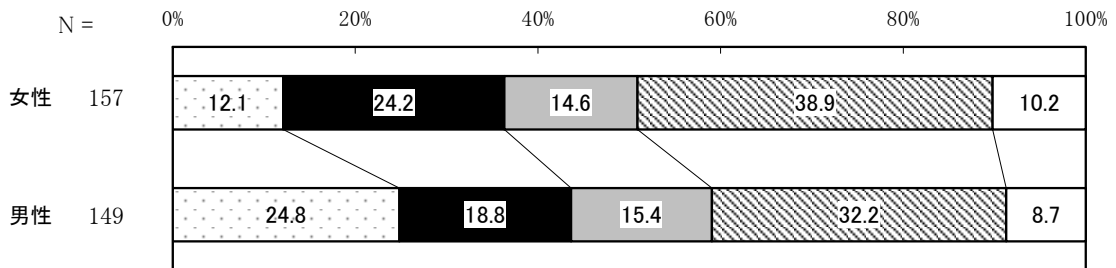
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思う」の割合が5.4ポイント、「そう思わない」の割合が6.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が12.7ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**



(7) 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている

**51.5%の人が“思わない”と回答**

**○全体では**

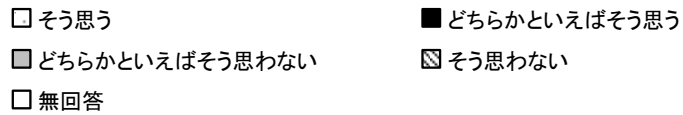
“思う”の割合が38.8%、“思わない”の割合が51.5%となっています。

**○性別では**

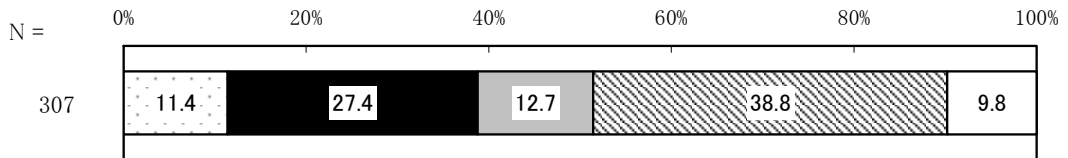
男性に比べ、女性で「そう思う」の割合が7.9ポイント、「どちらかといえばそう思わない」の割合が5.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思わない」の割合が15.1ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

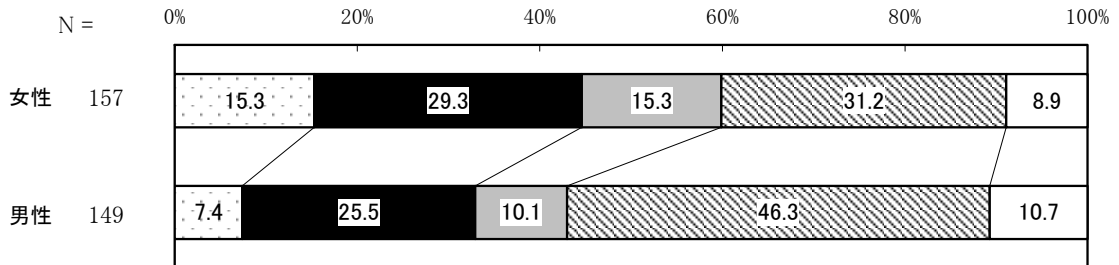
今回調査で「そう思わない」の割合が15.6ポイント高くなっています。



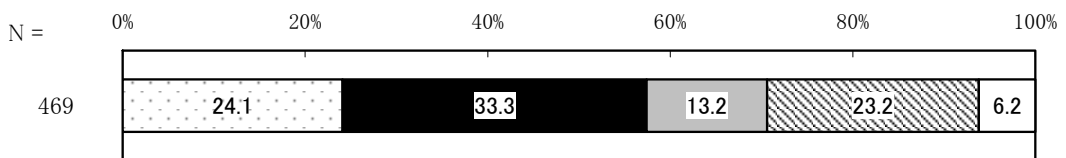
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との数値比較
そう思う	38.8%	57.4%	→
そう思わない	51.5%	36.4%	→

(8) 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい

**47.6%の人が“思わない”と回答**

**○全体では**

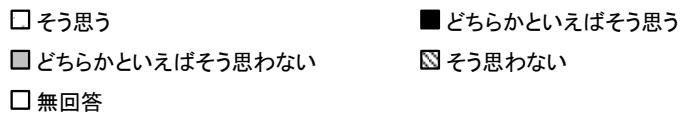
“思う”の割合が44.3%、“思わない”の割合が47.6%となっています。

**○性別では**

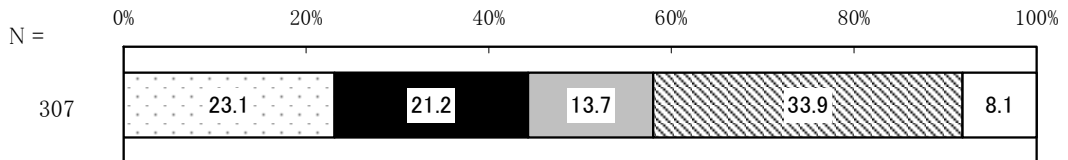
男性に比べ、女性で「そう思う」の割合が5.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どちらかといえばそう思わない」の割合が6.0ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

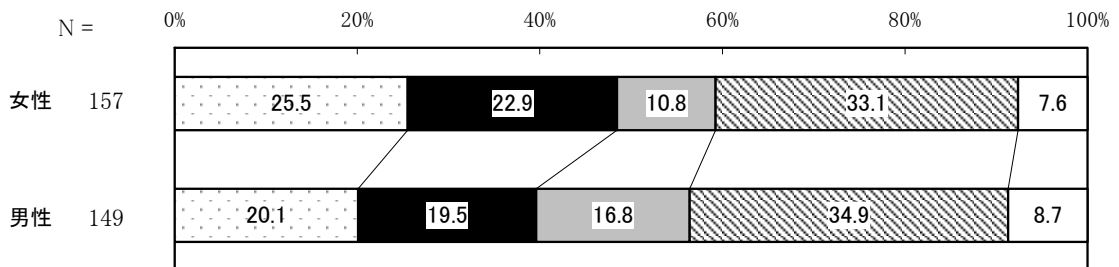
今回調査で「そう思わない」の割合が20.0ポイント高くなっています。



**【全 体】**

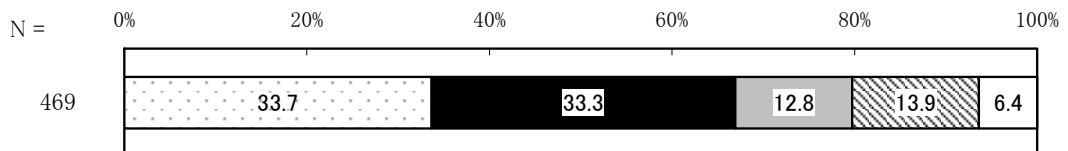
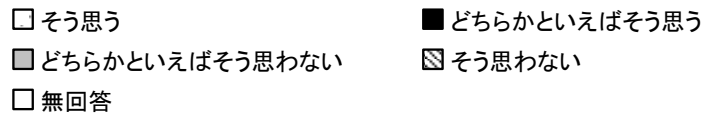


**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**

(仕事と家庭生活などとの両立のための制度・職場環境が整っていない)



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
そう思う	44.3%	67.0%	→
そう思わない	47.6%	26.7%	→

(9) 男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい

**66.1%の人が“思う”と回答**

**○全体では**

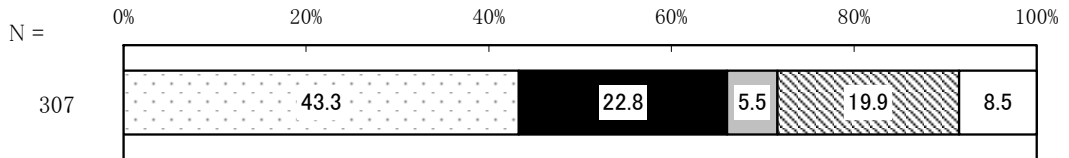
“思う”の割合が66.1%、“思わない”の割合が25.4%となっています。

**○性別では**

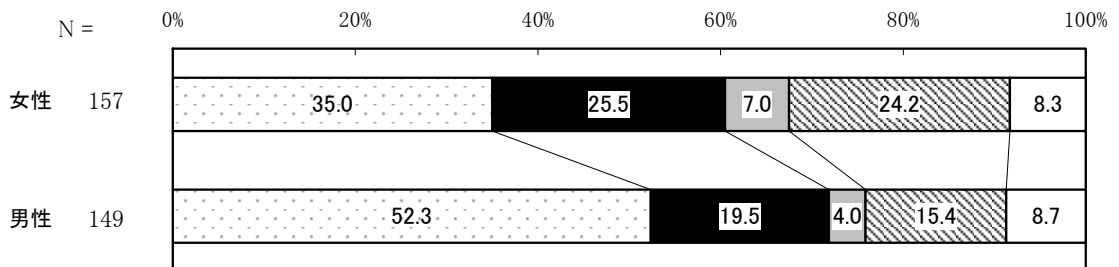
男性に比べ、女性で「どちらかといえばそう思う」の割合が6.0ポイント、「そう思わない」の割合が8.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思う」の割合が17.3ポイント高くなっています。

- そう思う
- どちらかといえばそう思う
- ▨ どちらかといえばそう思わない
- ▩ そう思わない
- 無回答

**【全 体】**



**【性 別】**





(11) 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい

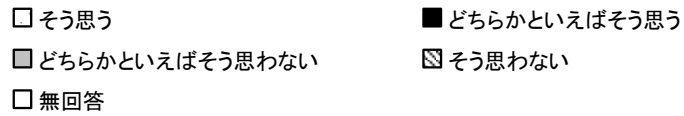
63.2%の人が“思わない”と回答

○全体では

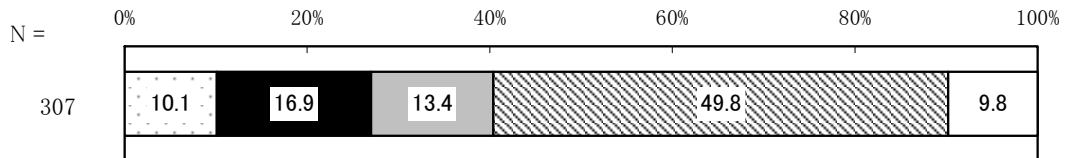
“思う”の割合が27.0%、“思わない”の割合が63.2%となっています。

○性別では

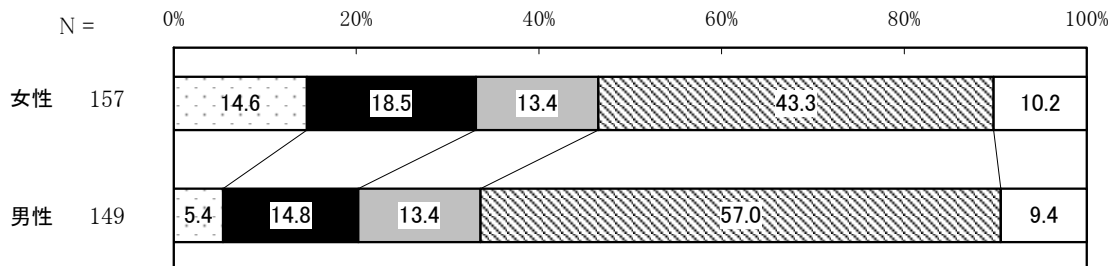
男性に比べ、女性で「そう思う」の割合が9.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「そう思わない」の割合が13.7ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**



問 12 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

### 32.3%の人が「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」と回答

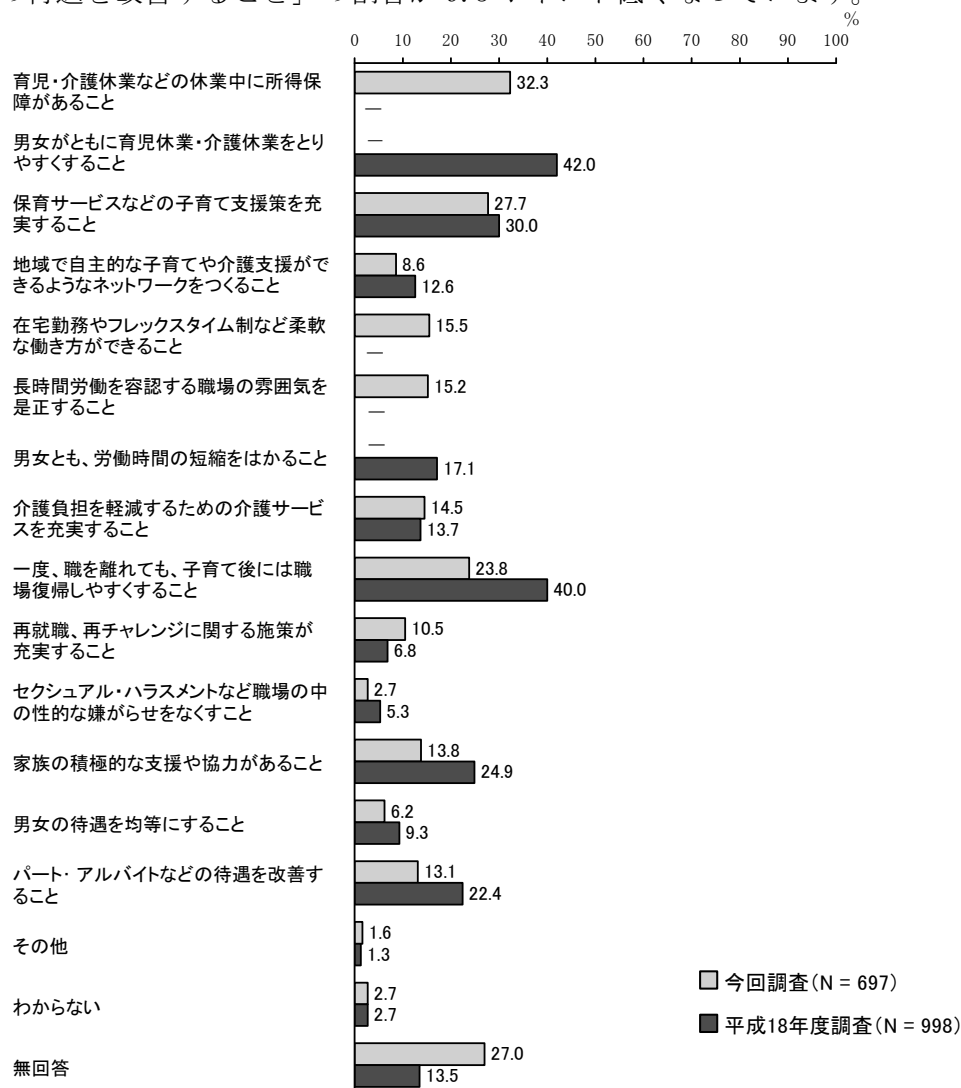
#### ○全体では

「育児・介護休業などの休業中に所得保障があること」の割合が32.3%と最も高く、次いで「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」の割合が27.7%、「一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること」の割合が23.8%となっています。

#### ○平成18年度調査との比較

今回調査で「一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること」の割合が16.2ポイント、「家族の積極的な支援や協力があること」の割合が11.1ポイント、「パート・アルバイトなどの待遇を改善すること」の割合が9.3ポイント低くなっています。

#### 【全 体】



※「—」は、今回調査もしくは平成18年調査でなかった選択肢です。

※平成18年度調査では、「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」の選択肢は「保育所・学童保育などの充実をはかること」、「介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること」の選択肢は「ホームヘルパーなどの高齢者に対する福祉を充実すること」、「再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること」の選択肢は「再就職のための訓練やセミナーを開くこと」、「セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと」の選択肢は「セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の女性差別をなくすこと」でした。

【性別】

性別でみると、女性に比べ、男性で「保育サービスなどの子育て支援策を充実すること」の割合が 5.7 ポイント、「在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること」の割合が 6.3 ポイント、「長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること」の割合が 7.1 ポイント高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数（件）	育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	保育サービスなどの子育て支援策を充実すること	地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること	在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること	長時間労働を容認する職場の雰囲気を是正すること	介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること
女性	403	31.8	25.3	8.2	12.9	12.4	15.6	23.1
男性	287	33.8	31.0	9.4	19.2	19.5	12.2	25.1

区分	再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること	セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと	家族の積極的な支援や協力があること	男女の待遇を均等にする事	パート・アルバイトなどの待遇を改善すること	その他	わからない	無回答
女性	9.4	3.0	14.9	5.2	13.9	0.7	2.5	31.3
男性	11.8	2.4	11.8	7.0	12.2	2.8	2.8	20.9



## 【結婚の有無別】

結婚の有無別で見ると、他に比べ、結婚していないで「長時間労働を容認する職場の雰囲気は是正すること」の割合が2割近くと高くなっています。また、結婚している、結婚していないで「一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること」の割合が高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	保育サービスなどの子育て支援策を充実すること	地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること	在宅勤務やフレックスタイト制など柔軟な働き方ができること	長時間労働を容認する職場の雰囲気を是正すること	介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること
結婚している	536	32.5	28.2	8.8	15.5	14.7	13.8	23.1
結婚していないがパートナーと暮らしている	3	66.7	33.3	33.3	—	33.3	—	—
離別した	25	44.0	24.0	12.0	20.0	4.0	12.0	16.0
死別した	50	28.0	14.0	8.0	6.0	8.0	24.0	14.0
結婚していない	79	30.4	32.9	6.3	20.3	26.6	12.7	38.0

区分	セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと	家族の積極的な支援や協力があること	男女の待遇を均等にすること	パート・アルバイトなどの待遇を改善すること	その他	わからない	無回答
結婚している	3.2	13.6	5.8	13.2	1.7	2.6	28.2
結婚していないがパートナーと暮らしている	—	—	—	—	—	—	33.3
離別した	8.0	20.0	12.0	16.0	—	8.0	20.0
死別した	—	18.0	4.0	14.0	—	4.0	42.0
結婚していない	—	10.1	7.6	11.4	2.5	1.3	11.4

## 5 配偶者・恋人等からの暴力について

問 13 あなたはこれまでに、あなたの配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。（1）～（12）の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は1つずつ）

（1） 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた

**87.9%の人が「まったくない」と回答**

### ○全体では

「まったくない」の割合が87.9%と最も高くなっています。

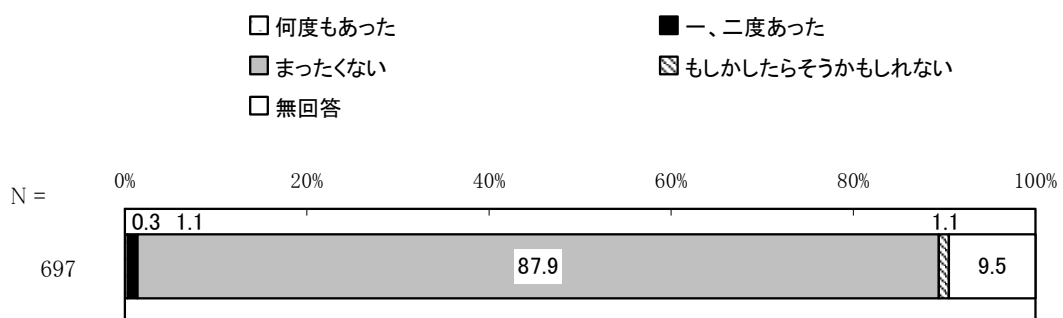
### ○性別では

大きな差はありません。

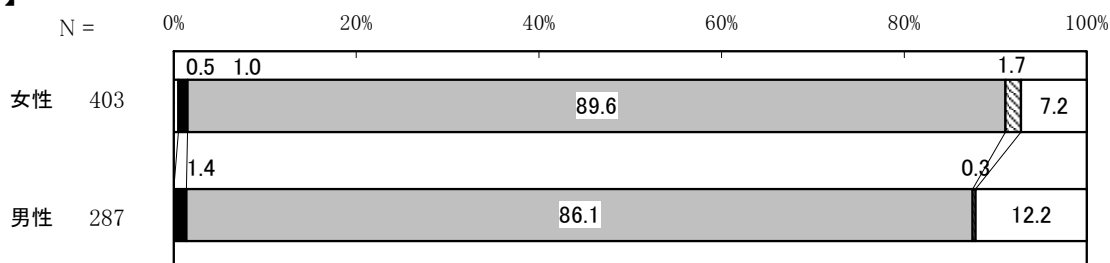
### ○平成 18 年度調査との比較

大きな変化はありません。

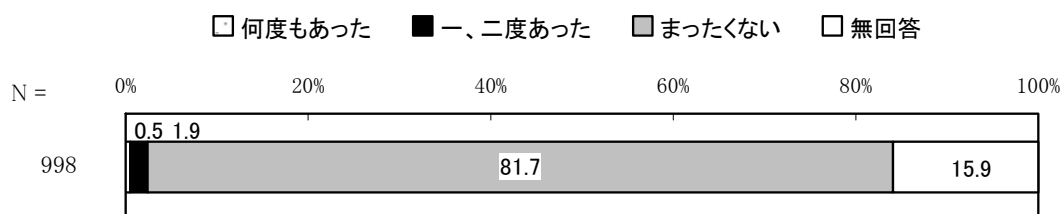
### 【全 体】



### 【性 別】



### 【平成 18 年度調査（全体）】



### 【比較ポイント】

	今回調査	平成 18 年度調査	前回調査との 数値比較
何度もあった	0.3%	0.5%	→

(2) 医師の治療が必要となるような暴行を受けた

**87.2%の人が「まったくない」と回答**

○全体では

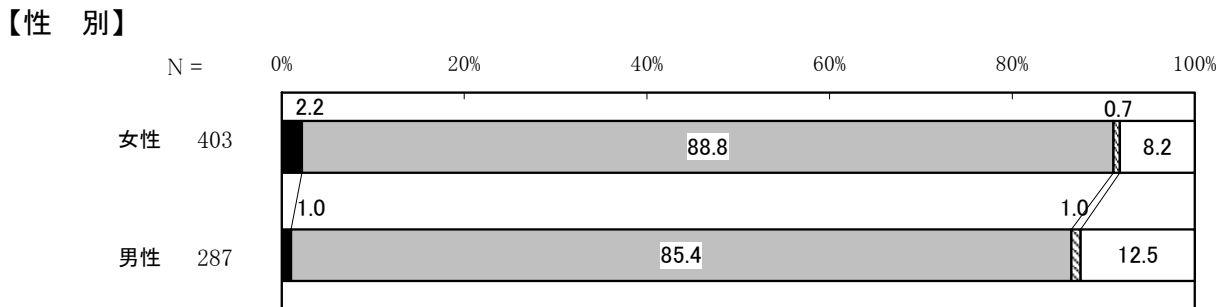
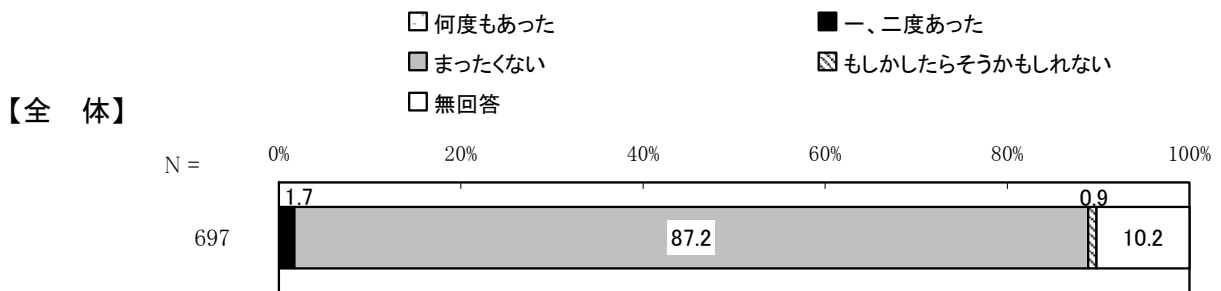
「まったくない」の割合が87.2%と最も高くなっています。

○性別では

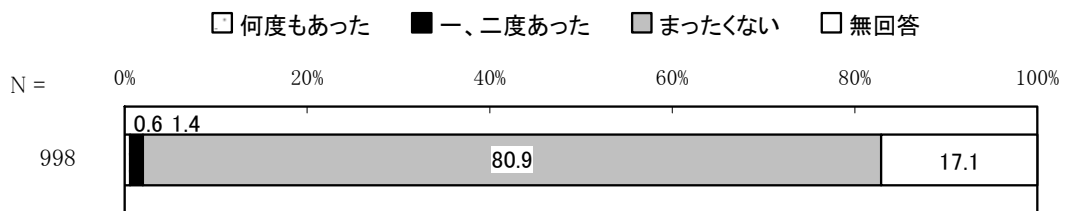
大きな差はありません。

○平成18年度調査との比較

今回調査で「まったくない」の割合が6.3ポイント高くなっています。



【平成18年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	0.0%	0.6%	→

(3) 医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた  
83.9%の人が「まったくない」と回答

○全体では

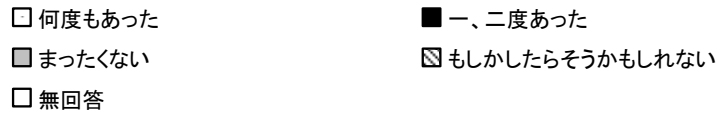
「まったくない」の割合が83.9%と最も高くなっています。

○性別では

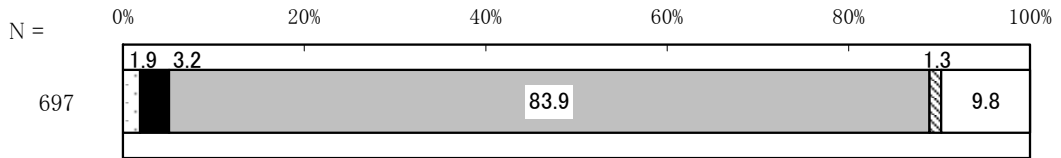
大きな差はありません。

○平成18年度調査との比較

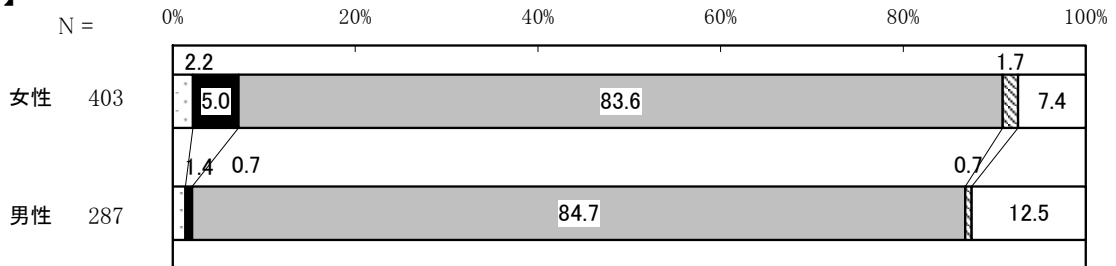
今回調査で「まったくない」の割合が7.0ポイント高くなっています。



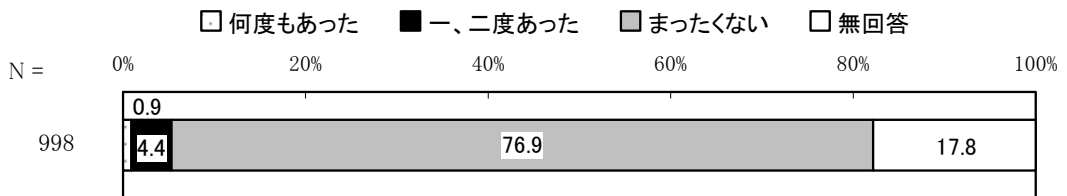
【全 体】



【性 別】



【平成18年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	1.9%	0.9%	➔

(4) いやがっているのに、性的な行為を強要された  
**79.8%の人が「まったくない」と回答**

**○全体では**

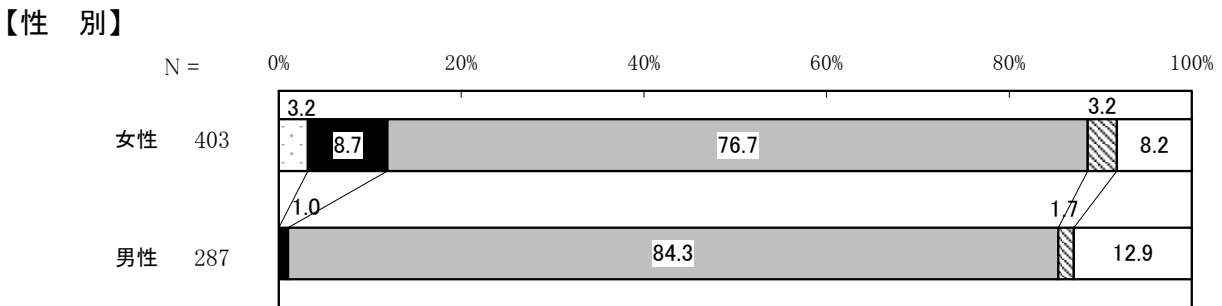
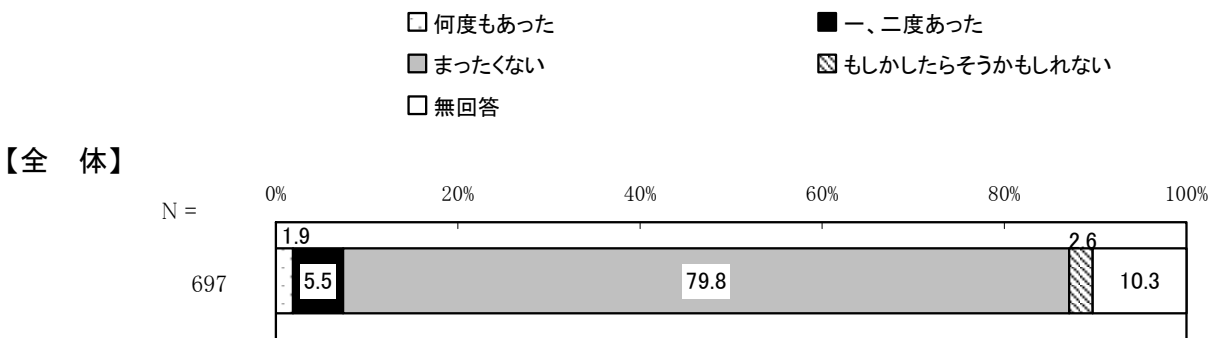
「まったくない」の割合が79.8%と最も高くなっています。

**○性別では**

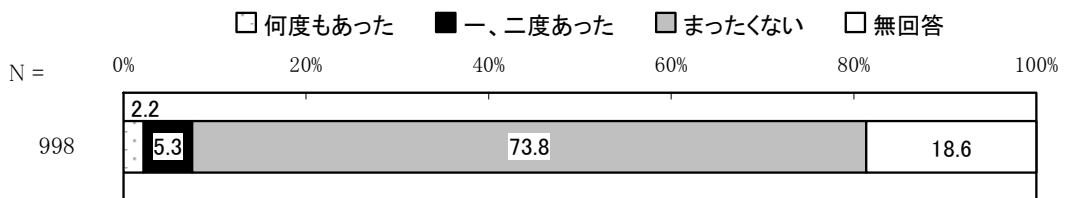
男性に比べ、女性で「一、二度あった」の割合が7.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が7.6ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

今回調査で「まったくない」の割合が6.0ポイント高くなっています。



**【平成18年度調査（全体）】**



**【比較ポイント】**

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
何度もあった	1.9%	2.2%	→

(5) 目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして威嚇された  
76.5%の人が「まったくない」と回答

○全体では

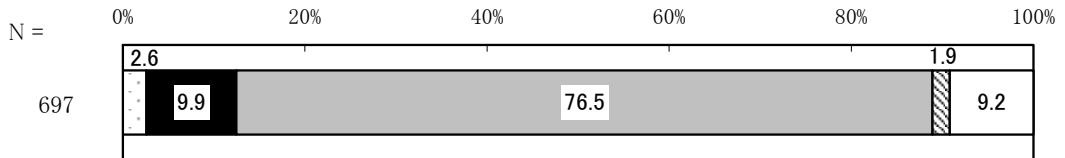
「まったくない」の割合が76.5%と最も高くなっています。

○性別では

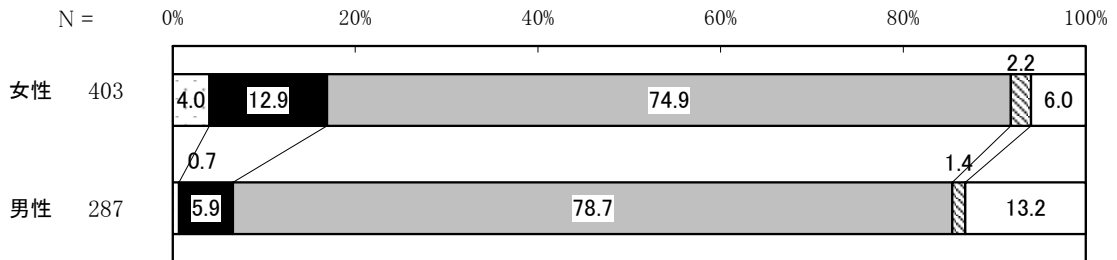
男性に比べ、女性で「一、二度あった」の割合が7.0ポイント高くなっています。



【全 体】



【性 別】



(6) 避妊に協力しなかった

81.8%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が81.8%と最も高くなっています。

○性別では

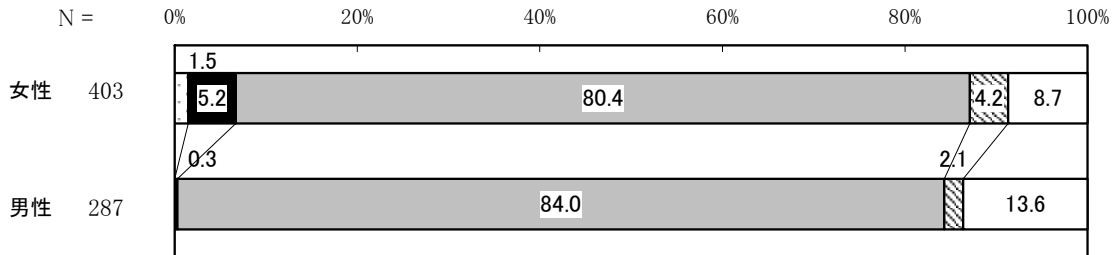
大きな差はありません。



【全 体】



【性 別】



(7) 何を言っても、無視され続けた  
71.9%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が71.9%と最も高くなっています。

○性別では

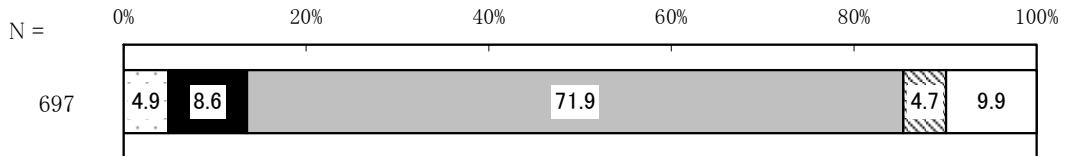
大きな差はありません。

○平成18年度調査との比較

今回調査で「まったくない」の割合が6.2ポイント高くなっています。



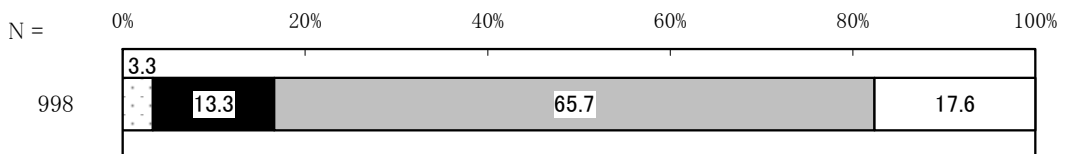
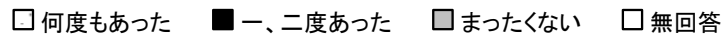
【全 体】



【性 別】



【平成18年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	4.9%	3.3%	↑



(8) 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された

**82.9%の人が「まったくない」と回答**

○全体では

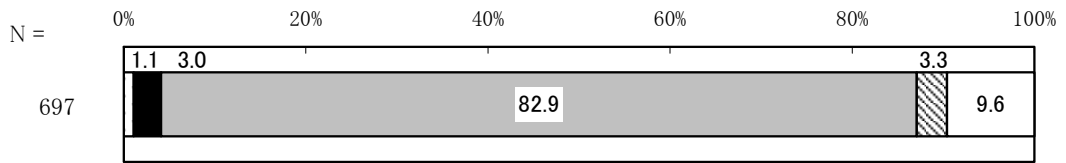
「まったくない」の割合が82.9%と最も高くなっています。

○性別では

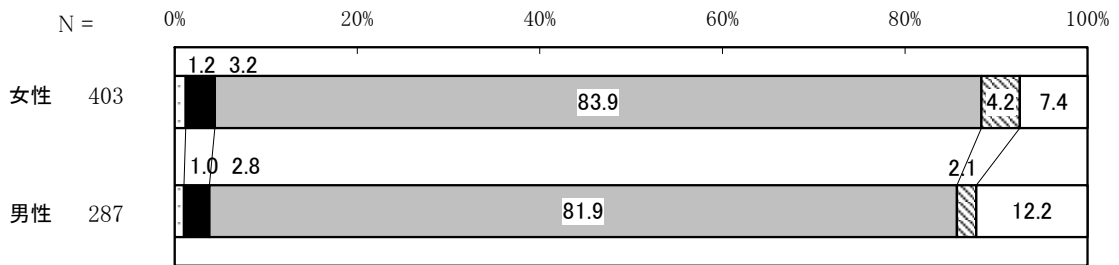
大きな差はありません。



【全 体】



【性 別】



(9) 「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、人格を否定することを言われた  
77.2%の人が「まったくない」と回答

**○全体では**

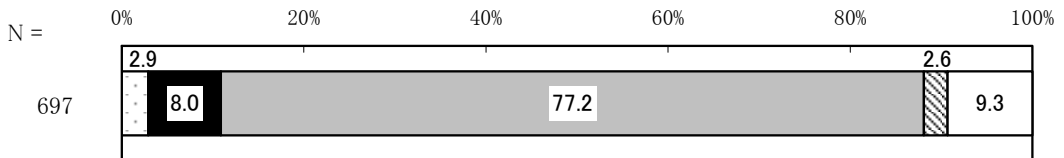
「まったくない」の割合が77.2%と最も高くなっています。

**○性別では**

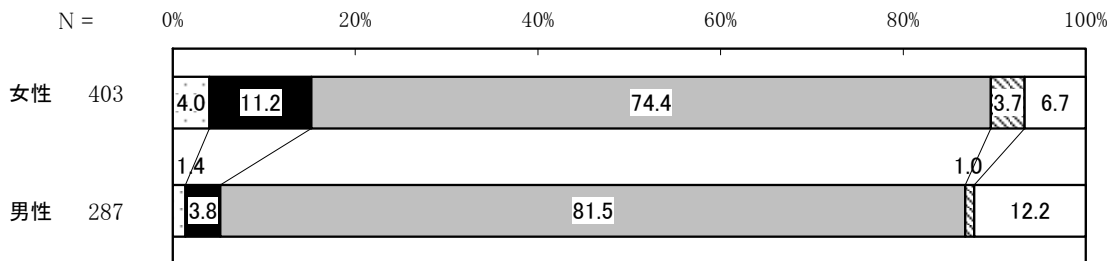
男性に比べ、女性で「一、二度あった」の割合が7.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が7.1ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**



(10) 大声でどなられた

**62.3%の人が「まったくない」と回答**

**○全体では**

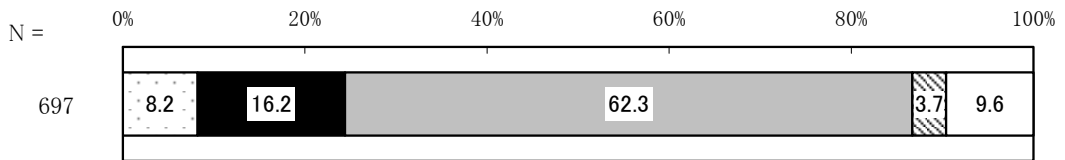
「何度もあった」と「一、二度あった」という「あった」割合が24.4%となっています。

**○性別では**

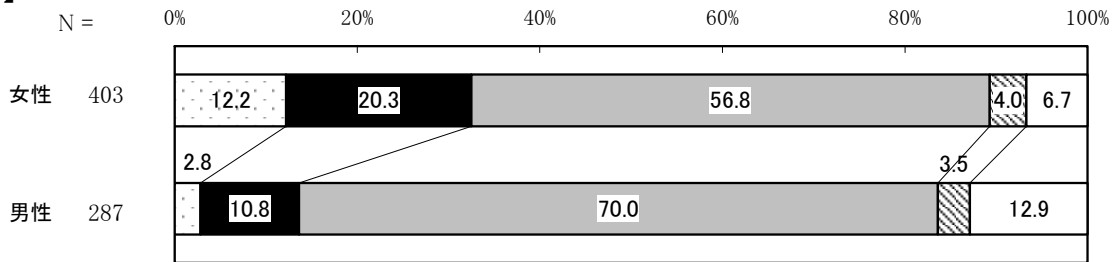
男性に比べ、女性で「何度もあった」の割合が9.4ポイント、「一、二度あった」の割合が9.5ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったくない」の割合が13.2ポイント高くなっています。



**【全 体】**



**【性 別】**



(11) 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた  
85.8%の人が「まったくない」と回答

○全体では

「まったくない」の割合が85.8%と最も高くなっています。

○性別では

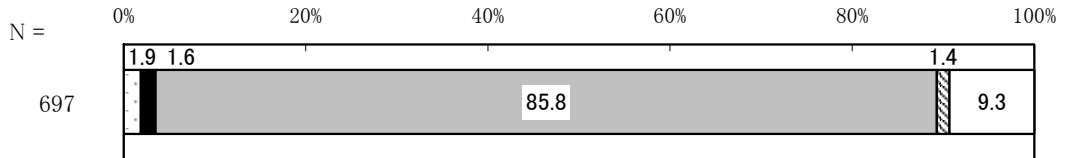
大きな差はありません。

○平成18年度調査との比較

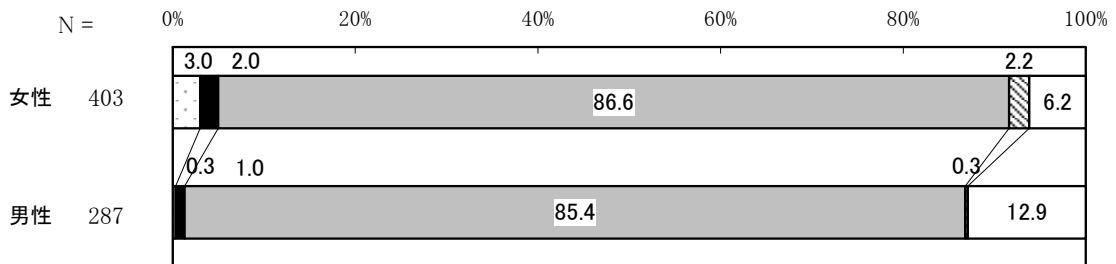
今回調査で「まったくない」の割合が7.5ポイント高くなっています。



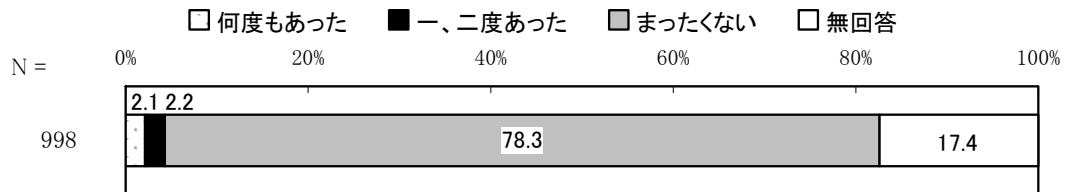
【全 体】



【性 別】



【平成18年度調査（全体）】



【比較ポイント】

	今回調査	平成18年度調査	前回調査との 数値比較
何どもあった	1.9%	2.1%	→

(12) 子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口を言うなどされた  
80.5%の人が「まったくない」と回答

○全体では

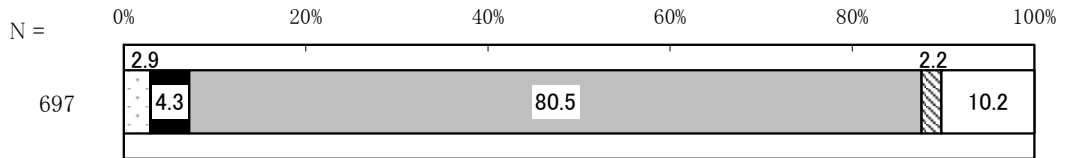
「まったくない」の割合が80.5%と最も高くなっています。

○性別では

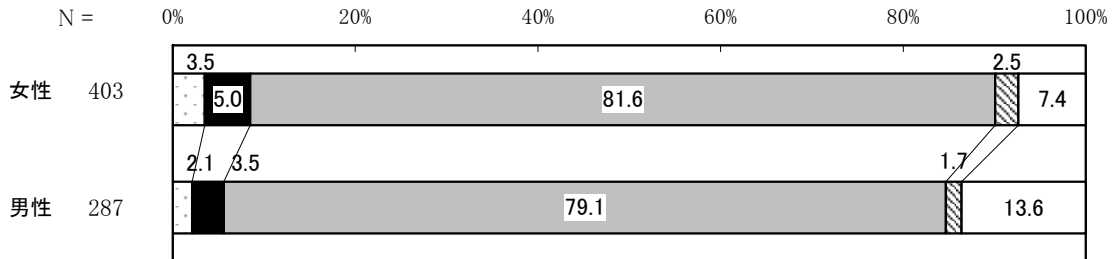
大きな差はありません。



【全 体】



【性 別】



問14 問13で「何度もあった」、「一、二度あった」、「もしかしたらそうかもしれない」に○をつけた人におたずねします。（「まったくない」に○をつけた人は、問15に進んでください。）あなたは、その行為について、誰かにうちあけたり相談したりしましたか。あてはまる番号に○印をつけてください。

### 51.4%の人が「どこにも相談しなかった」と回答

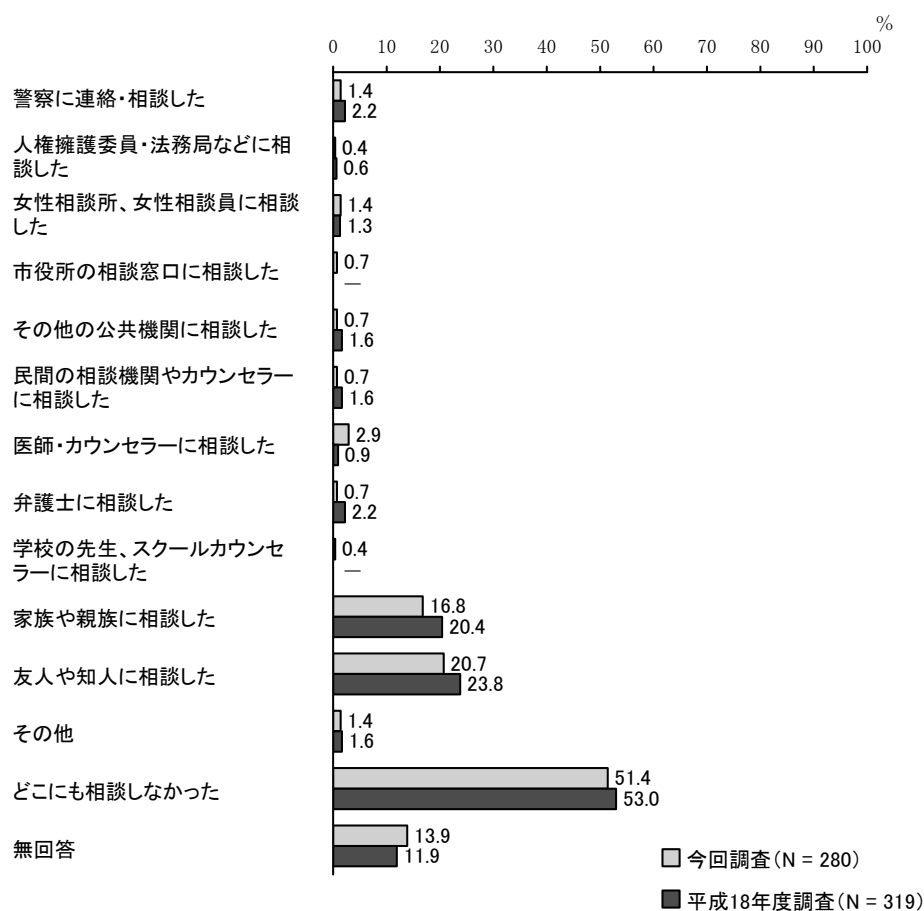
#### ○全体では

「どこにも相談しなかった」の割合が51.4%と最も高く、次いで「友人や知人に相談した」の割合が20.7%、「家族や親族に相談した」の割合が16.8%となっています。

#### ○平成18年度調査との比較

大きな変化はありません。

#### 【全 体】



※「—」は、平成18年調査ではなかった選択肢です。

※平成18年度調査では、「医師・カウンセラーに相談した」の選択肢は、「医師に相談した」でした。

【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家族や親族に相談した」の割合が 16.8 ポイント、「友人や知人に相談した」の割合が 19.0 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「どこにも相談しなかった」の割合が 15.2 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	警察に連絡・相談した	人権擁護委員・法務局などに相談した	女性相談所、女性相談員に相談した	市役所の相談窓口相談した	その他の公共機関に相談した	民間の相談機関やカウンセラーに相談した	医師・カウンセラーに相談した	弁護士に相談した	学校の先生、スクールカウンセラーに相談した	家族や親族に相談した	友人や知人に相談した	その他	どこにも相談しなかった	無回答
女性	198	1.5	—	2.0	1.0	1.0	1.0	3.5	0.5	0.5	21.7	26.3	1.5	47.0	10.1
男性	82	1.2	1.2	—	—	—	—	1.2	1.2	—	4.9	7.3	1.2	62.2	23.2

問 15 あなたは、配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

**28.7%の人が「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」と回答**

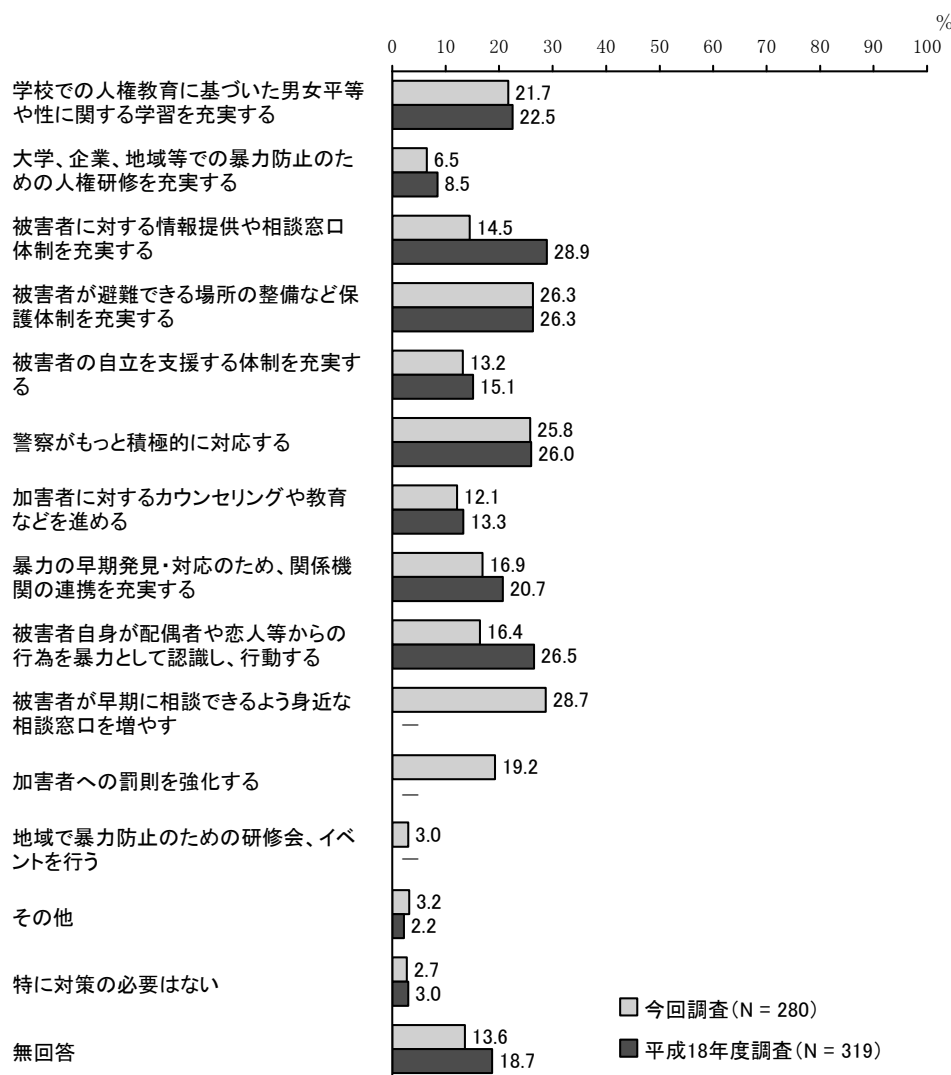
**○全体では**

「被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす」の割合が28.7%と最も高く、次いで「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が26.3%、「警察がもっと積極的に対応する」の割合が25.8%となっています。

**○平成18年度調査との比較**

今回調査で「被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する」で14.4ポイント、「被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する」の割合が10.1ポイント低くなっています。

**【全 体】**



※「—」は、平成18年度調査にはなかった選択肢です。



【性別】

男性に比べ、女性で「被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する」の割合が 5.5 ポイント、「加害者に対するカウンセリングや教育などを進める」の割合が 5.3 ポイント、「被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する」の割合が 5.0 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する」の割合が 8.1 ポイント、「暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する」の割合が 6.8 ポイント高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する	大学、企業、地域等での暴力防止のための人権研修を充実する	被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	被害者の自立を支援する体制を充実する	警察がもっと積極的に対応する	加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
女性	403	18.4	4.7	15.4	28.8	14.1	25.6	14.4
男性	287	26.5	9.1	13.6	23.3	12.2	26.1	9.1

区分	暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する	被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する	被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性	14.1	18.6	29.0	17.6	1.5	3.0	2.2	13.9
男性	20.9	13.6	28.6	21.6	4.9	3.5	3.5	12.2

【性別年齢別】

女性では20歳代、30歳代で「警察がもっと積極的に対応する」の割合が高くなっています。一方、男性では20歳代で割合が低くなっています。また、男性では20歳代で「加害者への罰則を強化する」の割合が36.0%となっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する	大学の暴力防止のための人権研修を充実する	被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する	被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する	被害者の自立を支援する体制を充実する	警察がもっと積極的に対応する	加害者に対する力ウンセリングや教育などを進める
女性 20歳代	28	14.3	3.6	7.1	39.3	21.4	46.4	17.9
30歳代	60	15.0	3.3	13.3	35.0	6.7	35.0	16.7
40歳代	58	15.5	8.6	20.7	39.7	15.5	24.1	8.6
50歳代	78	20.5	2.6	14.1	26.9	14.1	28.2	20.5
60歳代	104	25.0	4.8	16.3	30.8	18.3	18.3	18.3
70歳以上	75	13.3	5.3	16.0	10.7	10.7	18.7	4.0
男性 20歳代	25	8.0	4.0	4.0	32.0	8.0	4.0	20.0
30歳代	24	12.5	4.2	4.2	50.0	16.7	16.7	—
40歳代	36	16.7	2.8	8.3	50.0	2.8	44.4	16.7
50歳代	44	29.5	13.6	11.4	20.5	15.9	25.0	4.5
60歳代	80	32.5	13.8	20.0	8.8	15.0	31.3	6.3
70歳以上	78	33.3	7.7	16.7	16.7	11.5	23.1	10.3

区分	暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する	認識し、行動する	被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する	被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす	加害者への罰則を強化する	地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う	その他	特に対策の必要はない	無回答
女性 20歳代	14.3	17.9	21.4	21.4	—	—	3.6	3.6	
30歳代	10.0	28.3	26.7	30.0	—	1.7	—	10.0	
40歳代	13.8	17.2	29.3	20.7	1.7	8.6	1.7	8.6	
50歳代	14.1	19.2	34.6	14.1	—	1.3	2.6	12.8	
60歳代	15.4	20.2	26.0	14.4	1.0	2.9	3.8	10.6	
70歳以上	16.0	9.3	32.0	12.0	5.3	2.7	1.3	30.7	
男性 20歳代	8.0	32.0	24.0	36.0	8.0	4.0	4.0	16.0	
30歳代	12.5	25.0	33.3	25.0	—	16.7	4.2	—	
40歳代	19.4	16.7	22.2	30.6	5.6	—	—	5.6	
50歳代	6.8	11.4	25.0	27.3	4.5	2.3	4.5	9.1	
60歳代	27.5	13.8	35.0	20.0	3.8	2.5	5.0	10.0	
70歳以上	29.5	3.8	26.9	10.3	6.4	2.6	2.6	21.8	

## 6 社会活動への参加について

問 16 あなたは、次のような活動に参加していますか。(1)～(9)の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は1つずつ)

### (1) 趣味・学習・スポーツ活動

**38.0%の人が「まったく参加しない」と回答**

#### ○全体では

「まったく参加しない」の割合が38.0%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が34.0%、「よく参加する」の割合が20.8%となっています。

#### ○性別では

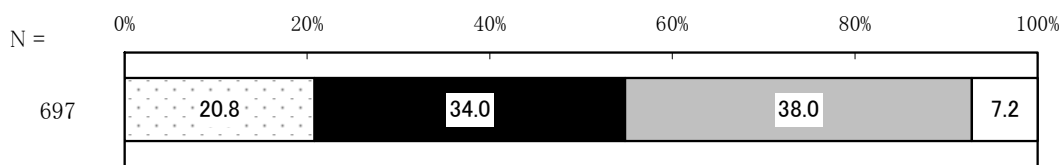
大きな差はありません。

#### ○平成18年度調査との比較

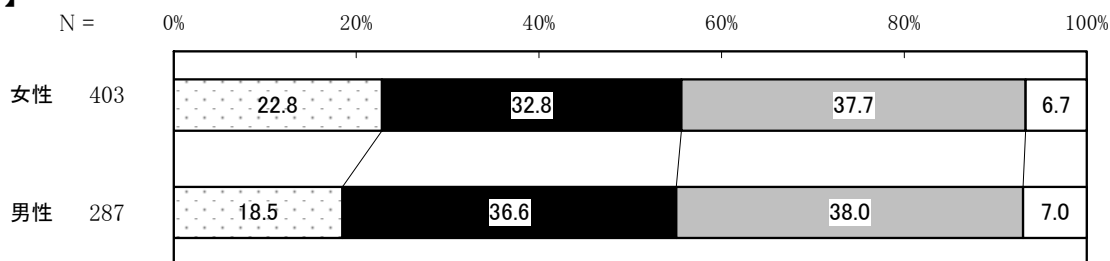
大きな変化はありません。

□よく参加する ■時々参加する ▨まったく参加しない □無回答

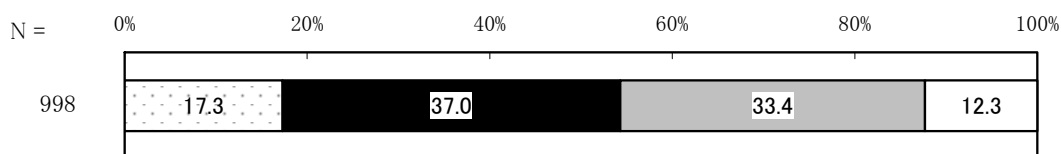
#### 【全 体】



#### 【性 別】



#### 【平成18年度調査 (全体)】



(2) 自治会などの役員活動

**48.4%の人が「時々参加する」と回答**

**○全体では**

「時々参加する」の割合が48.4%と最も高く、次いで「まったく参加しない」の割合が33.7%、「よく参加する」の割合が11.2%となっています。

**○性別では**

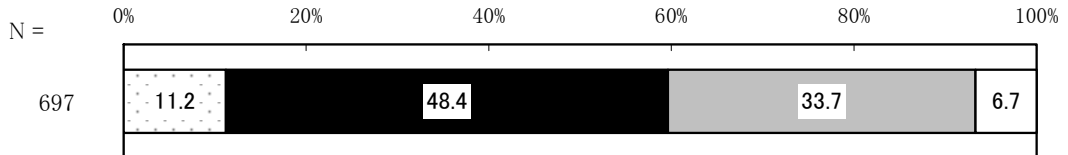
女性に比べ、男性で「よく参加する」の割合が5.4ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

今回調査で「時々参加する」の割合が9.8ポイント高くなっています。

□よく参加する    ■時々参加する    □まったく参加しない    □無回答

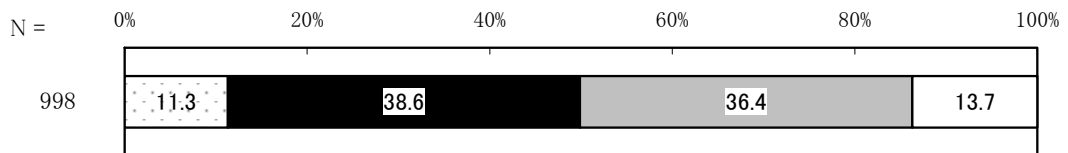
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査（全体）】**



(3) PTA、子ども会などの地域活動

46.1%の人が「まったく参加しない」と回答

**○全体では**

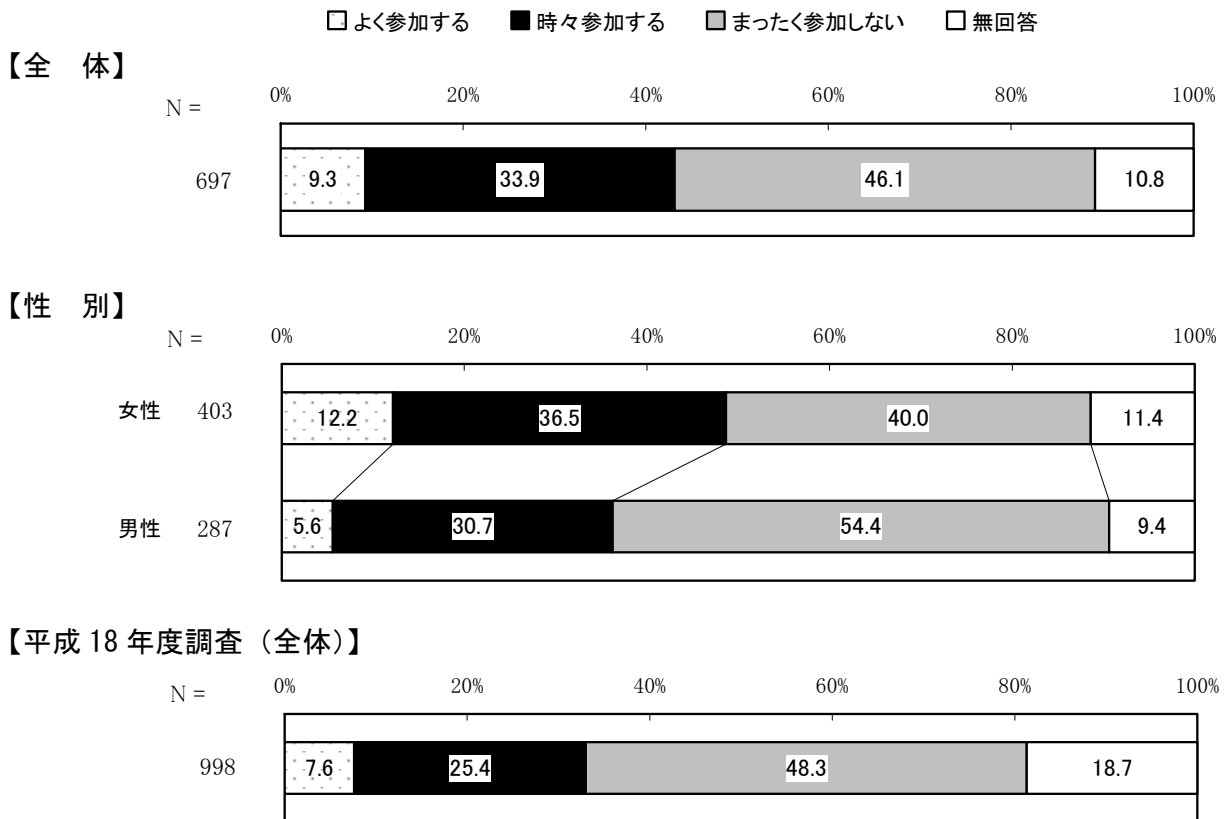
「まったく参加しない」の割合が46.1%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が33.9%となっています。

**○性別では**

男性に比べ、女性で「よく参加する」の割合が6.6ポイント、「時々参加する」の割合が5.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「まったく参加しない」の割合が14.4ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

今回調査で「時々参加する」の割合が8.5ポイント高くなっています。



(4) 消費生活活動や住民運動（共同購入やリサイクルなど）

**57.2%の人が「まったく参加しない」と回答**

**○全体では**

「まったく参加しない」の割合が 57.2%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が 25.8%となっています。

**○性別では**

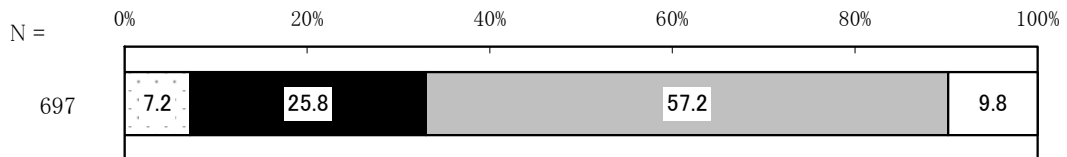
女性に比べ、男性で「まったく参加しない」の割合が 8.8ポイント高くなっています。

**○平成 18 年度調査との比較**

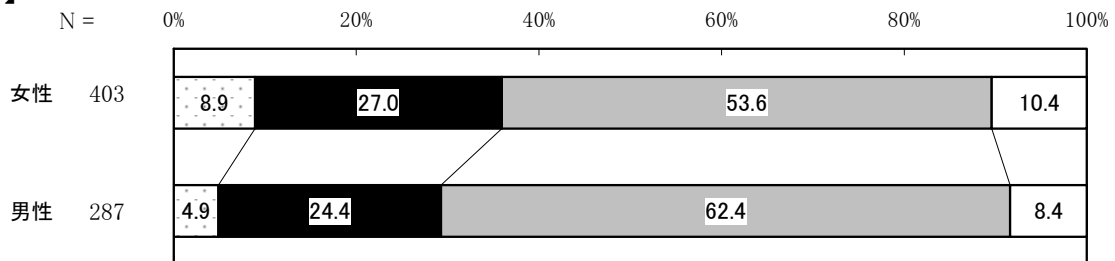
今回調査で「まったく参加しない」の割合が 6.0ポイント高くなっています。

□よく参加する ■時々参加する ▨まったく参加しない □無回答

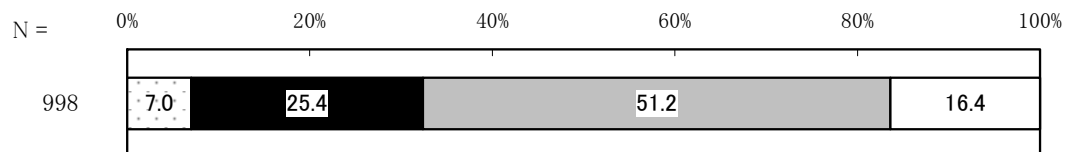
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成 18 年度調査（全体）】**



(5) 福祉・ボランティア活動

59.8%の人が「まったく参加しない」と回答

**○全体では**

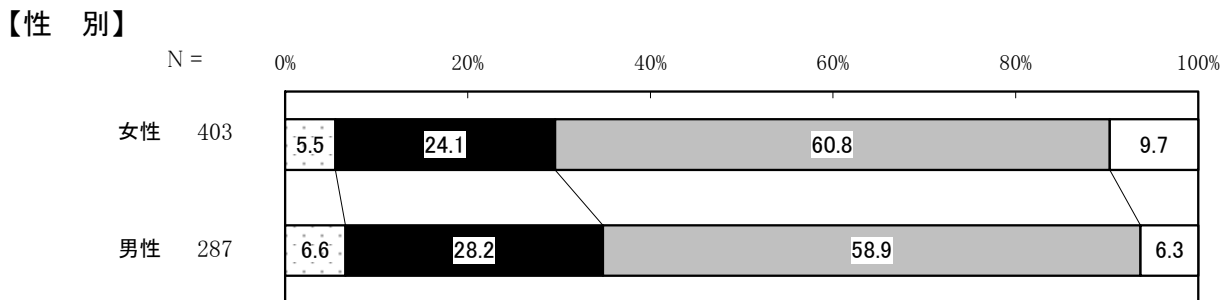
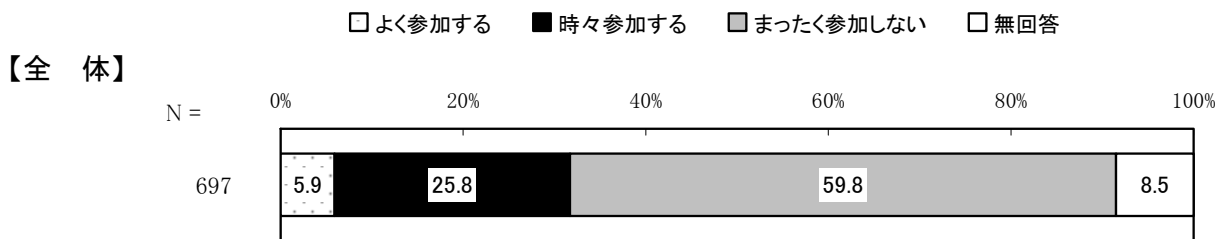
「まったく参加しない」の割合が59.8%と最も高く、次いで「時々参加する」の割合が25.8%となっています。

**○性別では**

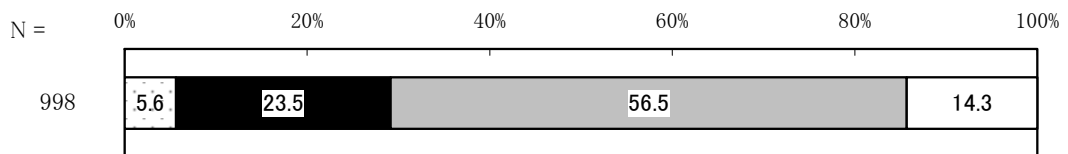
大きな差はありません。

**○平成18年度調査との比較**

大きな変化はありません。



【平成18年度調査 (全体)】



(6) 政治活動や労働組合活動

**78.8%の人が「まったく参加しない」と回答**

**○全体では**

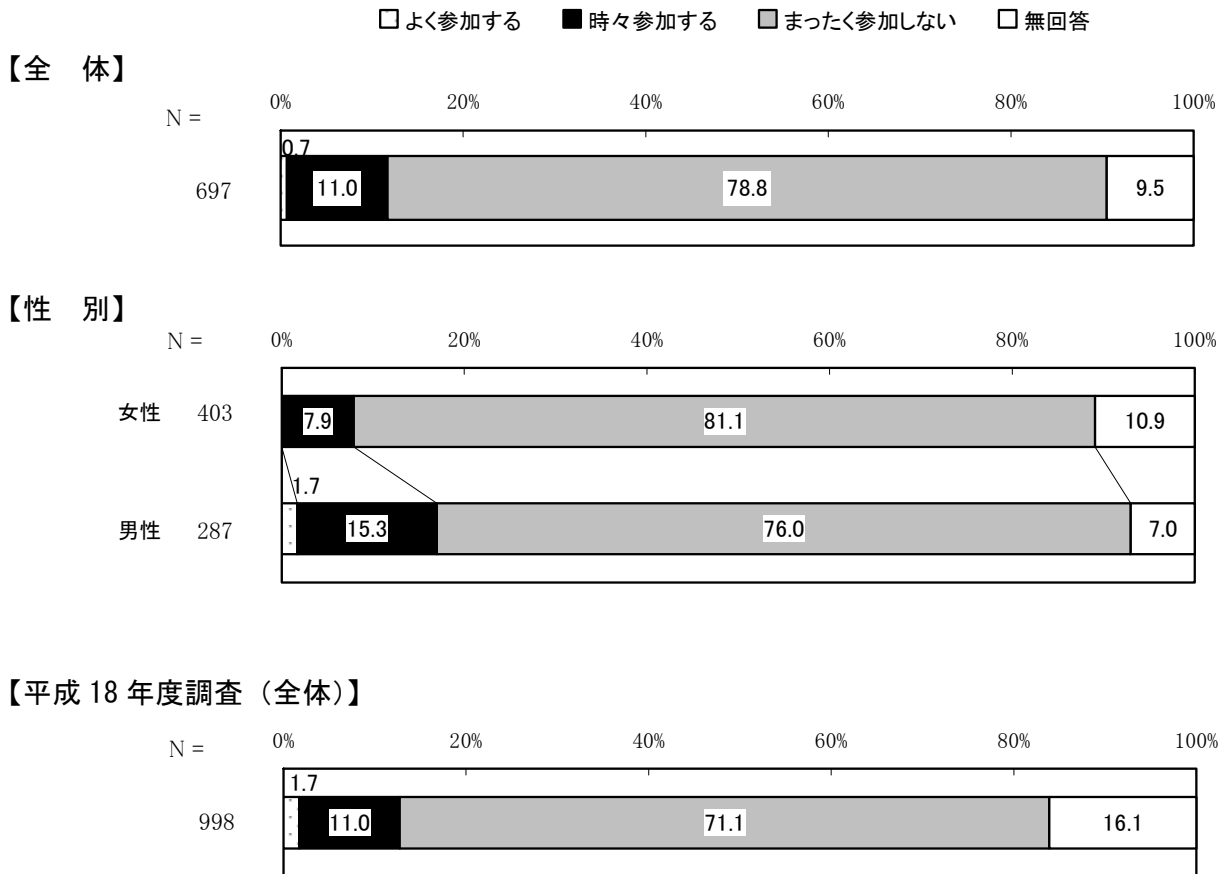
「まったく参加しない」の割合が78.8%と最も高くなっています。次いで「時々参加する」の割合が11.0%となっています。

**○性別では**

男性に比べ、女性で「まったく参加しない」の割合が5.1ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「時々参加する」の割合が7.4ポイント高くなっています。

**○平成18年度調査との比較**

今回調査で「まったく参加しない」の割合が7.7ポイント高くなっています。





(7) 宗教活動

**80.3%の人が「まったく参加しない」と回答**

**○全体では**

「まったく参加しない」の割合が80.3%と最も高くなっています。

**○性別では**

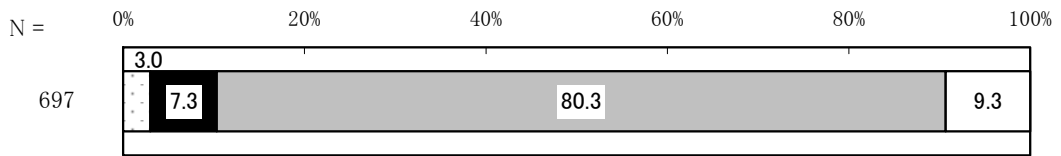
大きな差はありません。

**○平成18年度調査との比較**

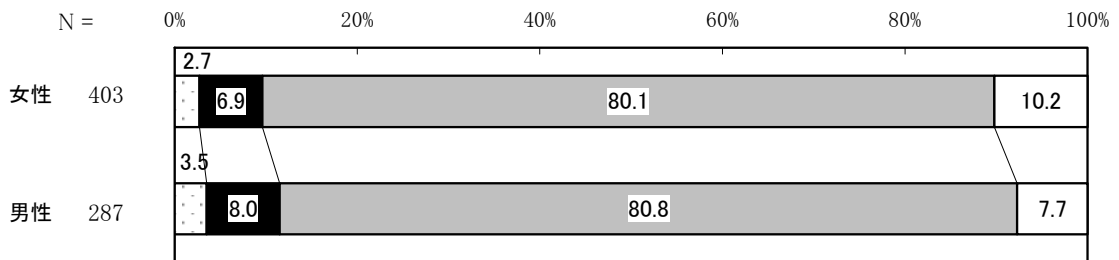
今回調査で「まったく参加しない」の割合が5.9ポイント高くなっています。

□よく参加する ■時々参加する ▨まったく参加しない □無回答

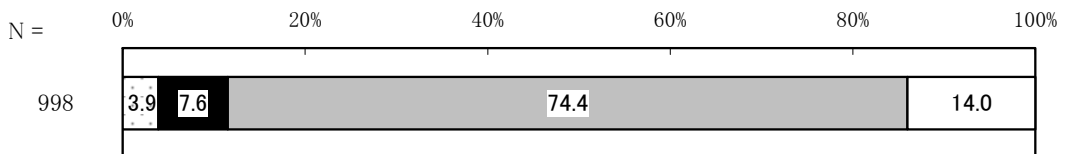
**【全 体】**



**【性 別】**



**【平成18年度調査 (全体)】**



(8) 審議会委員などの公的な委員活動

**86.2%の人が「まったく参加しない」と回答**

○全体では

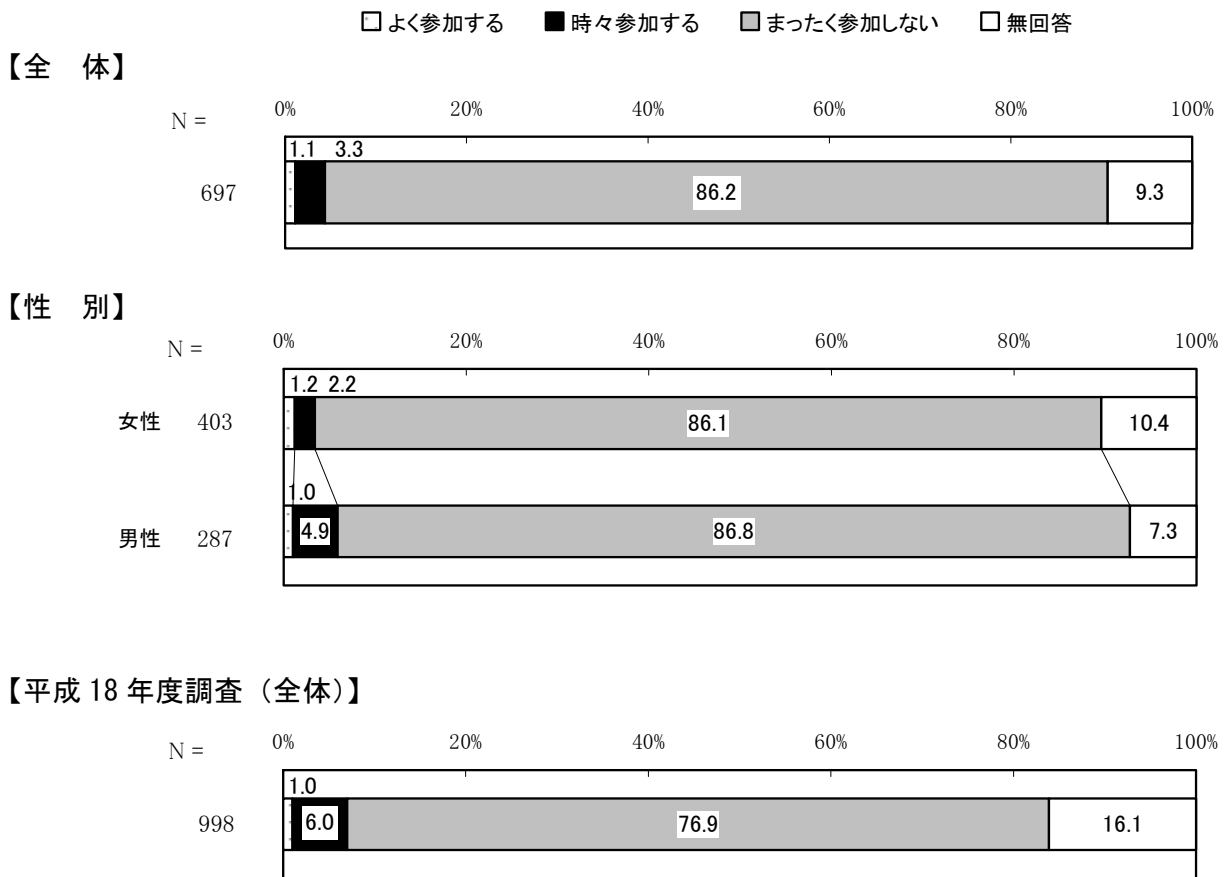
「まったく参加しない」の割合が86.2%と最も高くなっています。

○性別では

大きな差はありません。

○平成18年度調査との比較

今回調査で「まったく参加しない」の割合が9.3ポイント高くなっています。



(9) NPOの活動

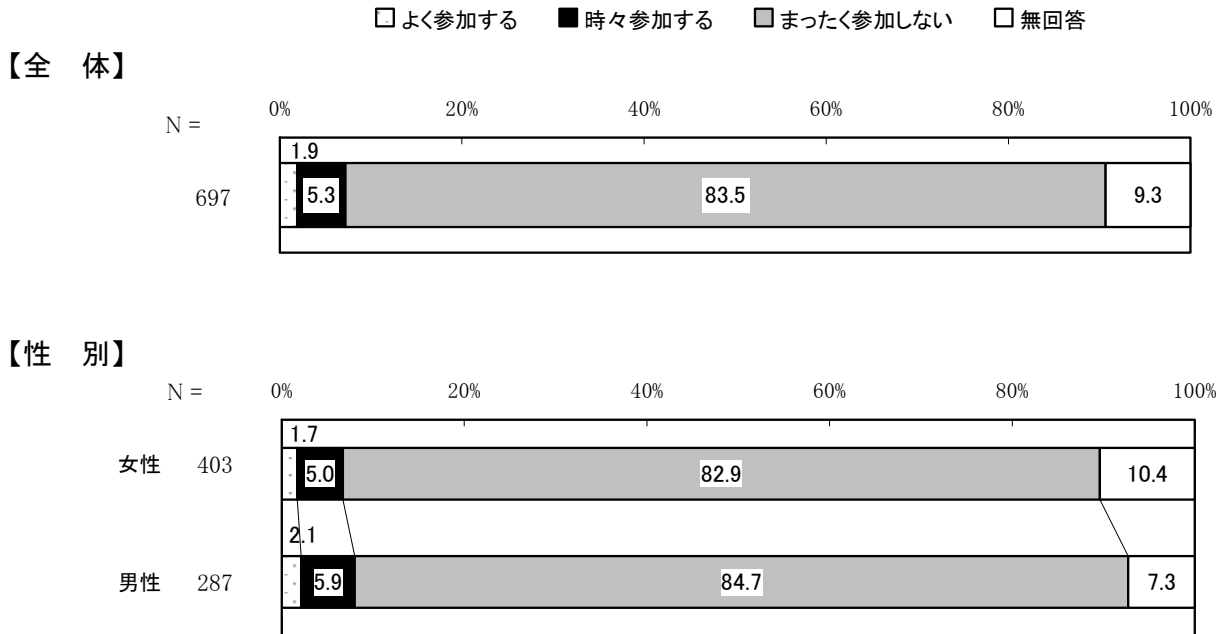
83.5%の人が「まったく参加しない」と回答

○全体では

「まったく参加しない」の割合が83.5%と最も高くなっています。

○性別では

大きな差はありません。



問 17 あなたが、社会的な活動に参加しようと思うとき、支障となることはどのようなことですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

### 42.6%の人が「仕事や家事が忙しい」と回答

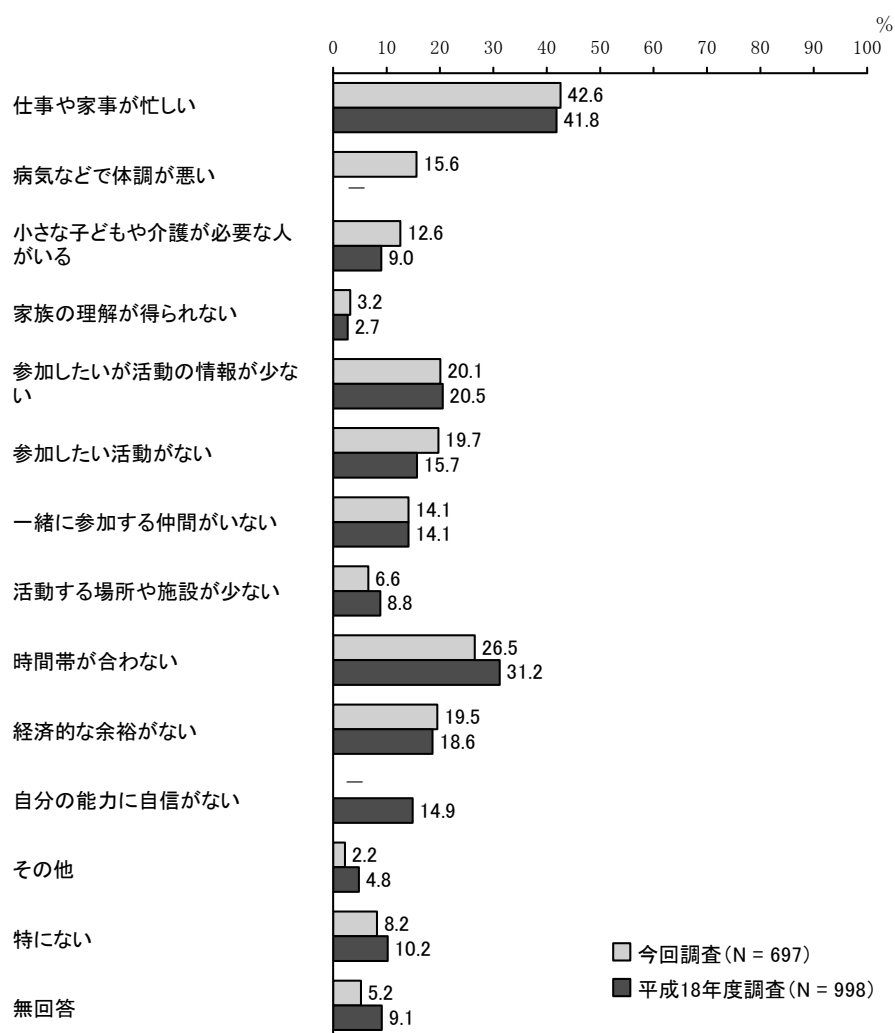
#### ○全体では

「仕事や家事が忙しい」の割合が42.6%と最も高く、次いで「時間帯が合わない」の割合が26.5%、「参加したいが活動の情報が少ない」の割合が20.1%となっています。

#### ○平成18年度調査との比較

大きな変化はありません。

#### 【全 体】



※「—」は、今回調査もしくは平成18年調査でなかった選択肢です。

※平成18年度調査では、「小さな子どもや介護が必要な人がいる」の選択肢は、「小さな子ども、病人がいる」でした。

## 【性別】

男性に比べ、女性で「小さな子どもや介護が必要な人がいる」の割合が13.5ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「参加したいが活動の情報が少ない」の割合が9.4ポイント高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事や家事が忙しい	病気などで体調が悪い	小さな子どもや介護が必要な人がいる	家族の理解が得られない	参加したいが活動の情報が少ない	参加したい活動がない	一緒に参加する仲間がない	活動する場所や施設が少ない	時間帯が合わない	経済的な余裕がない	その他	特になし	無回答
女性	403	40.9	16.1	18.4	3.5	16.4	19.4	14.1	5.5	27.0	19.6	1.5	7.4	5.0
男性	287	45.6	15.0	4.9	2.8	25.8	19.9	13.9	8.0	25.8	18.8	3.1	9.1	5.2

## 【性別年齢別】

女性では20歳代、男性では60歳代で「参加したいが活動の情報が少ない」の割合が高くなっています。また、女性では40歳代、男性では20歳代、30歳代で「参加したい活動がない」の割合が高くなっています。また、男女ともに20歳代で「一緒に参加する仲間がない」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	仕事や家事が忙しい	病気などで体調が悪い	小さな子どもや介護が必要な人がいる	家族の理解が得られない	参加したいが活動の情報が少ない	参加したい活動がない	一緒に参加する仲間がない	活動する場所や施設が少ない	時間帯が合わない	経済的な余裕がない	その他	特になし	無回答
女性 20歳代	28	21.4	10.7	17.9	—	32.1	21.4	28.6	—	28.6	25.0	—	7.1	3.6
30歳代	60	53.3	5.0	48.3	—	16.7	23.3	11.7	6.7	30.0	18.3	1.7	3.3	1.7
40歳代	58	62.1	6.9	13.8	6.9	8.6	31.0	13.8	8.6	31.0	31.0	—	5.2	—
50歳代	78	53.8	12.8	10.3	3.8	19.2	19.2	6.4	3.8	37.2	23.1	—	5.1	—
60歳代	104	34.6	17.3	19.2	4.8	15.4	16.3	19.2	3.8	26.0	16.3	1.0	8.7	3.8
70歳以上	75	17.3	36.0	5.3	2.7	14.7	10.7	12.0	8.0	12.0	10.7	5.3	13.3	18.7
男性 20歳代	25	60.0	8.0	4.0	—	24.0	44.0	28.0	4.0	28.0	16.0	4.0	—	—
30歳代	24	62.5	4.2	12.5	4.2	16.7	33.3	16.7	—	29.2	8.3	8.3	16.7	—
40歳代	36	75.0	8.3	13.9	2.8	22.2	13.9	11.1	8.3	41.7	25.0	2.8	5.6	5.6
50歳代	44	63.6	13.6	2.3	4.5	13.6	6.8	11.4	4.5	40.9	22.7	—	9.1	2.3
60歳代	80	37.5	11.3	1.3	2.5	36.3	27.5	12.5	11.3	26.3	20.0	3.8	11.3	—
70歳以上	78	20.5	28.2	3.8	2.6	26.9	10.3	12.8	10.3	7.7	16.7	2.6	9.0	15.4

## 7 災害について

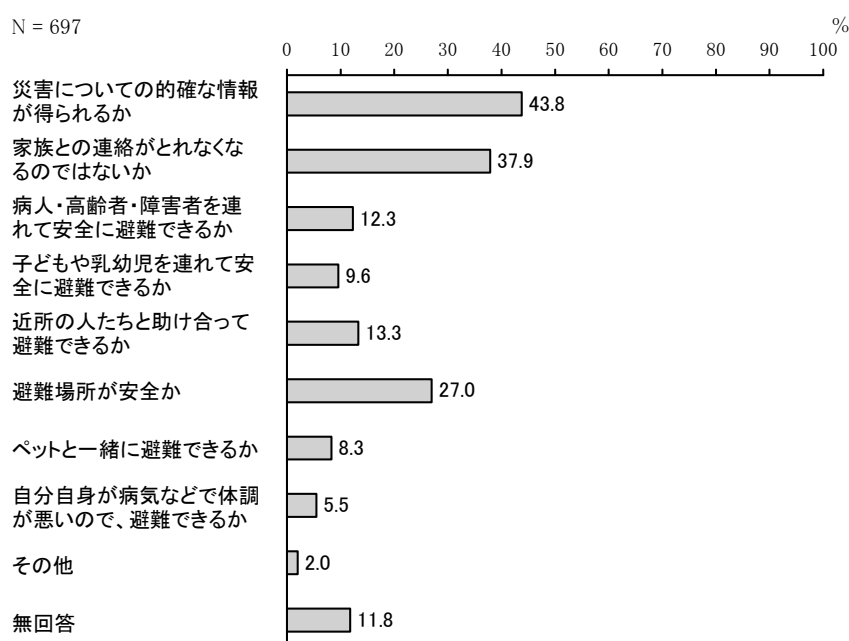
問 18 大災害が発生し避難が必要になった時、あなたはどのようなことが心配ですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は2つまで)

### 43.8%の人が「災害についての的確な情報が得られるか」と回答

#### ○全体では

「災害についての的確な情報が得られるか」の割合が43.8%と最も高く、次いで「家族との連絡がとれなくなるのではないか」の割合が37.9%、「避難場所が安全か」の割合が27.0%となっています。

#### 【全 体】



#### 【性 別】

男性に比べ、女性で「家族との連絡がとれなくなるのではないか」の割合が5.6ポイント、「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか」の割合が5.9ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	災害についての的確な情報が得られるか	家族との連絡がとれなくなるのではないか	病人・高齢者・障害者を連れて安全に避難できるか	子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか	近所の人たちと助け合って避難できるか	避難場所が安全か	ペットと一緒に避難できるか	自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか	その他	無回答
女性	403	43.9	40.4	11.4	12.2	11.4	25.6	9.4	6.2	1.0	11.7
男性	287	44.3	34.8	13.9	6.3	15.7	29.6	7.0	3.8	3.5	10.8

【性別年齢別】

他に比べ、女性の30歳代で「子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか」の割合が高く、4割を超えています。また、女性の20歳代、男性の40歳代で「家族との連絡がとれなくなるのではないか」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	災害についての確な情報が得られるか	家族との連絡がとれなくなるのではないか	病人・高齢者・障害者を連れて安全に避難できるか	子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか	近所の人たちと助け合っ て避難できるか	避難場所が安全か	ペットと一緒に避難できるか	自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか	その他	無回答
女性 20歳代	28	46.4	64.3	7.1	17.9	7.1	25.0	10.7	—	—	7.1
30歳代	60	31.7	41.7	5.0	43.3	1.7	15.0	6.7	1.7	1.7	21.7
40歳代	58	41.4	50.0	3.4	22.4	6.9	22.4	15.5	—	1.7	10.3
50歳代	78	55.1	51.3	14.1	—	3.8	32.1	11.5	3.8	—	6.4
60歳代	104	52.9	31.7	14.4	3.8	14.4	30.8	6.7	6.7	—	11.5
70歳以上	75	30.7	24.0	17.3	1.3	28.0	22.7	8.0	18.7	2.7	12.0
男性 20歳代	25	40.0	44.0	8.0	8.0	8.0	40.0	—	—	—	16.0
30歳代	24	50.0	54.2	4.2	16.7	12.5	20.8	8.3	—	—	4.2
40歳代	36	30.6	61.1	11.1	25.0	11.1	16.7	8.3	—	8.3	8.3
50歳代	44	47.7	36.4	18.2	4.5	11.4	27.3	13.6	—	4.5	4.5
60歳代	80	46.3	30.0	16.3	—	17.5	35.0	11.3	2.5	2.5	11.3
70歳以上	78	46.2	17.9	15.4	1.3	21.8	30.8	—	11.5	3.8	15.4

問 19 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つまで)

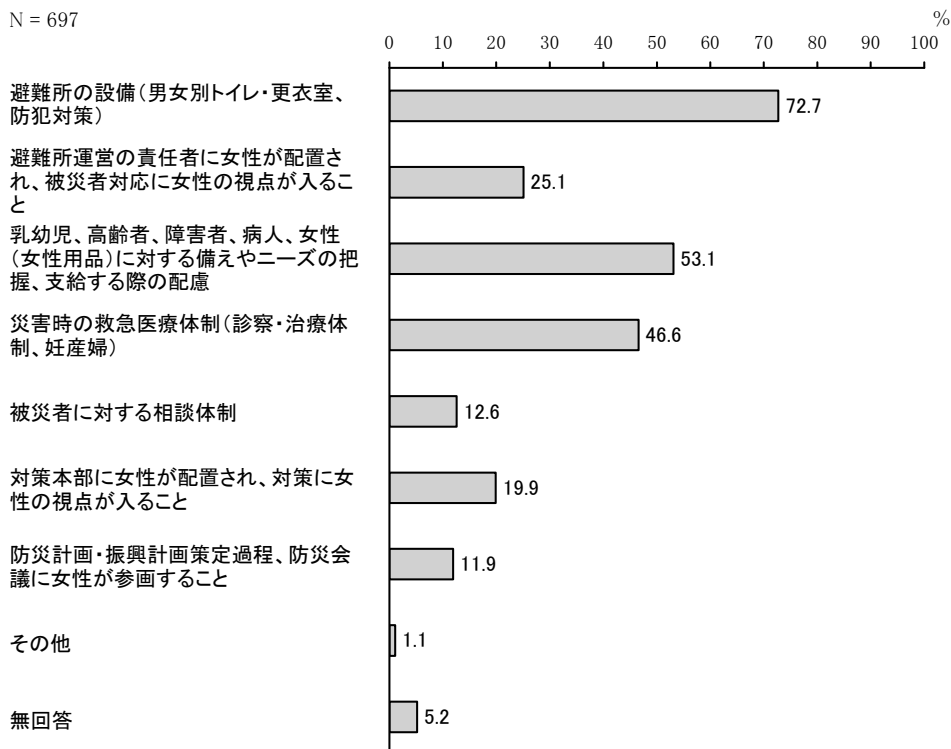
**72.7%の人が「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」と回答**

**○全体では**

「避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）」の割合が 72.7%と最も高く、次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が 53.1%、「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）」の割合が 46.6%となっています。

**【全 体】**

N = 697



**【性 別】**

男性に比べ、女性で「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が 10.8 ポイント高くなっています。女性に比べ、男性で「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）」の割合が 11.6 ポイント高くなっています。

単位：%

区分	有効回答数(件)	避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策)	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救急医療体制(診察・治療体制、妊産婦)	被災者に対する相談体制	対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	その他	無回答
女性	403	74.7	25.8	57.8	41.7	10.7	21.8	11.4	0.5	4.5
男性	287	70.7	24.7	47.0	53.3	14.6	17.4	12.9	2.1	5.6



【性別年齢別】

他に比べ、女性の30歳代で「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」の割合が高く、8割を超えています。また、男性の40歳代で「災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）の割合が高く、約6割となっています。

単位：%

区分	有効回答数（件）	避難所の設備（男女別トイレ・更衣室、防犯対策）	避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること	乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性（女性用品）に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮	災害時の救急医療体制（診察・治療体制、妊産婦）	被災者に対する相談体制	対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること	防災計画・振興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること	その他	無回答
女性 20歳代	28	75.0	21.4	67.9	57.1	3.6	32.1	7.1	—	—
30歳代	60	81.7	18.3	81.7	43.3	5.0	18.3	3.3	—	3.3
40歳代	58	82.8	25.9	72.4	32.8	3.4	25.9	8.6	—	1.7
50歳代	78	80.8	28.2	59.0	37.2	17.9	23.1	11.5	1.3	2.6
60歳代	104	71.2	32.7	42.3	44.2	14.4	26.9	14.4	—	4.8
70歳以上	75	61.3	21.3	44.0	42.7	10.7	9.3	17.3	1.3	10.7
男性 20歳代	25	72.0	24.0	36.0	64.0	12.0	24.0	8.0	4.0	—
30歳代	24	79.2	33.3	66.7	29.2	16.7	16.7	16.7	—	—
40歳代	36	61.1	19.4	55.6	61.1	16.7	19.4	11.1	5.6	5.6
50歳代	44	68.2	20.5	47.7	47.7	13.6	20.5	9.1	—	2.3
60歳代	80	72.5	28.8	51.3	46.3	13.8	13.8	13.8	2.5	6.3
70歳以上	78	71.8	23.1	35.9	64.1	15.4	16.7	15.4	1.3	10.3

## 8 男女共同参画に関する施策について

問 20 あなたは、男女共同参画に関する事項について、どの程度ご存じですか。(1)～(10) それぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

### (1) 男女共同参画社会

#### 50.2%の人が「見聞きしたことはある」と回答

##### ○全体では

「見聞きしたことはある」の割合が50.2%と最も高く、次いで「知らない」の割合が35.4%となっています。

##### ○性別では

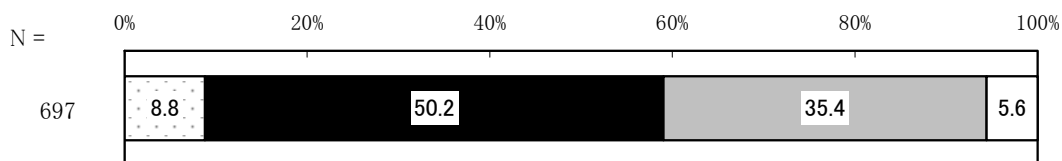
男性に比べ、女性で「知らない」の割合が12.8ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が6.3ポイント、「見聞きしたことはある」の割合7.1ポイントが高くなっています。

##### ○性別年齢別では

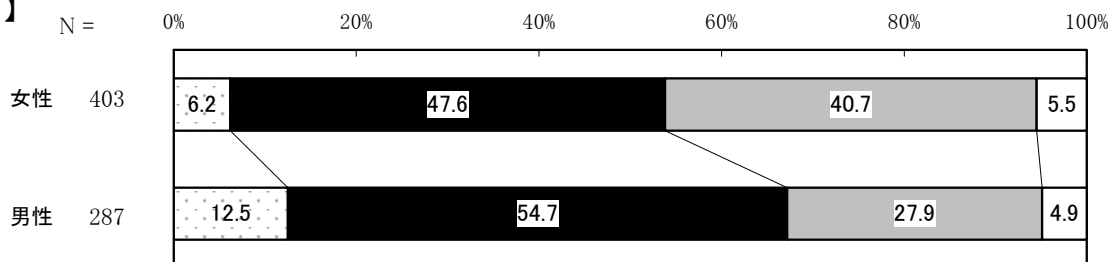
男女とも、20歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、女性の30歳代、男性の40歳代で「知らない」の割合が高く、5割を超えています。

□ 内容まで知っている ■ 見聞きしたことはある ▨ 知らない □ 無回答

#### 【全 体】

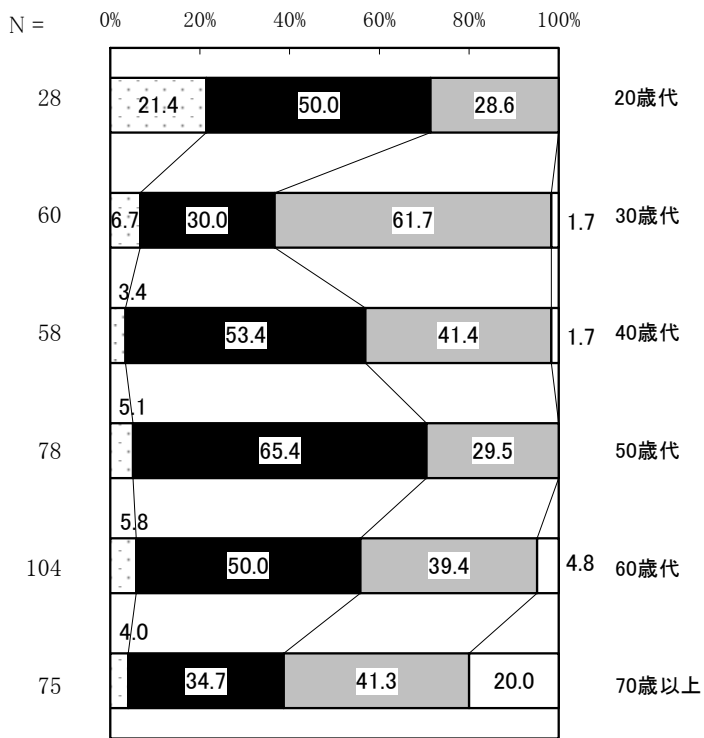


#### 【性 別】

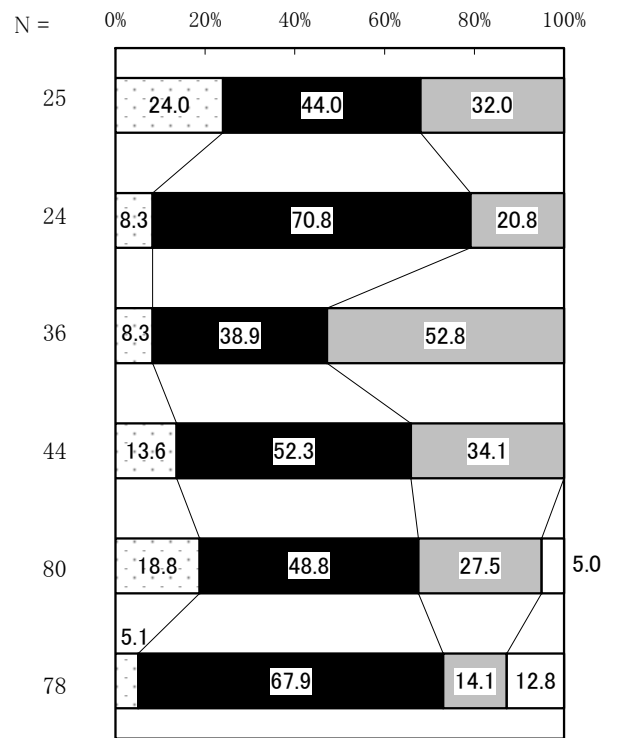


【性別年齢別】

＜女性＞



＜男性＞



(2) 男女雇用機会均等法

**57.1%の人が「見聞きしたことはある」と回答**

**○全体では**

「見聞きしたことはある」の割合が 57.1%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が 25.1%、「知らない」の割合が 12.3%となっています。

**○性別では**

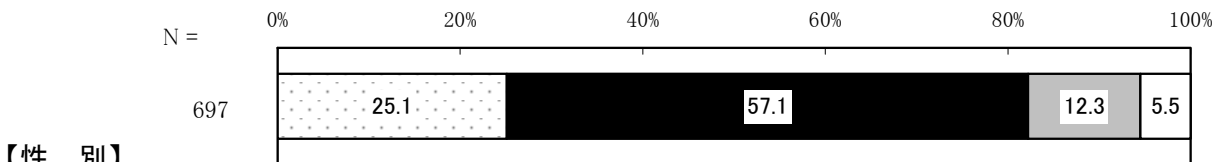
男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が 6.8 ポイント、「知らない」の割合が 5.3 ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が 13.2 ポイント高くなっています。

**○性別年齢別では**

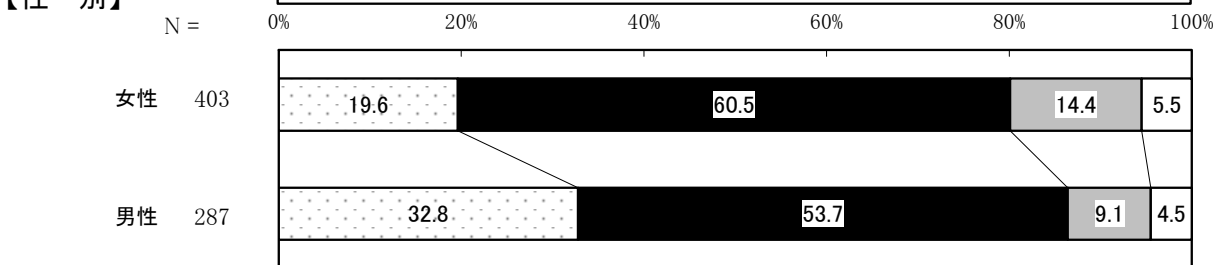
男性の 20 歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、女性の 70 歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。

**【全 体】**

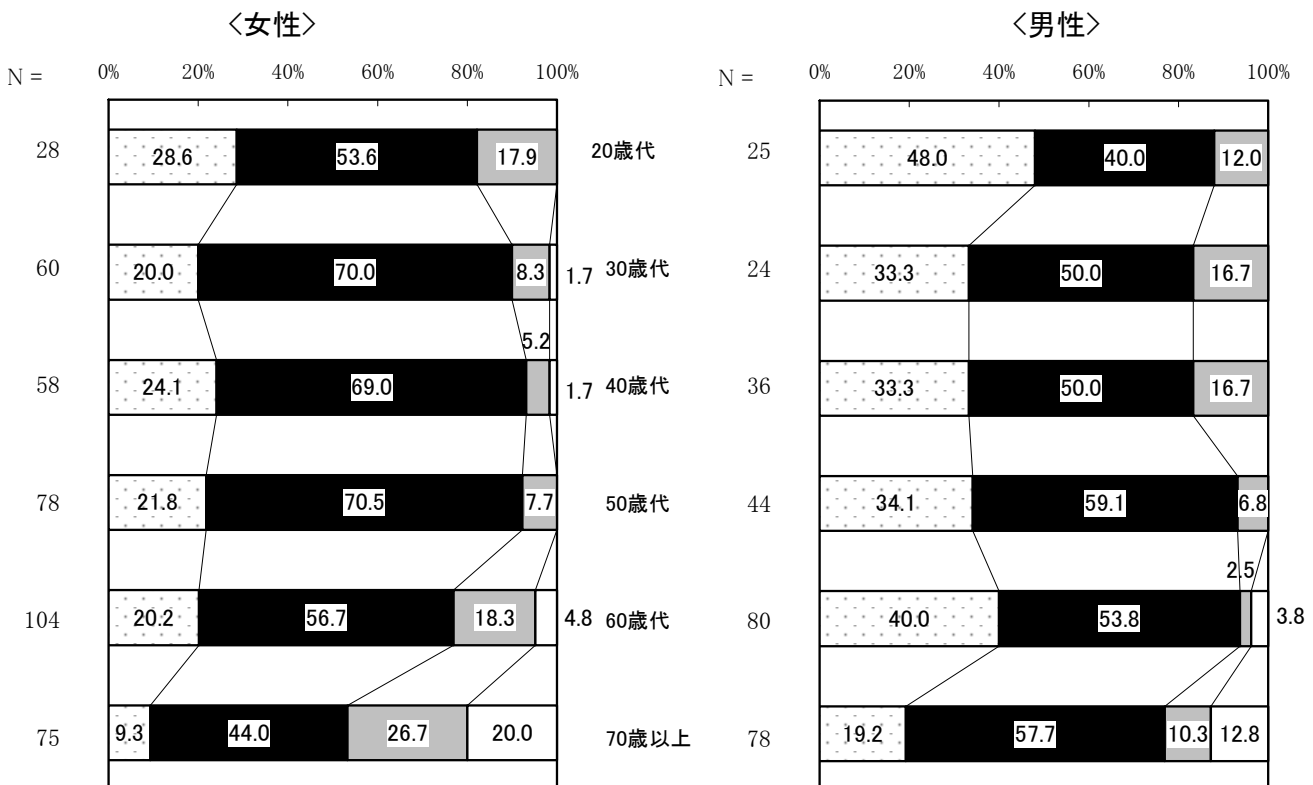
□ 内容まで知っている ■ 見聞きしたことはある ▨ 知らない □ 無回答



**【性 別】**



**【性別年齢別】**



(3) 女子差別撤廃条約

**49.1%の人が「知らない」と回答**

**○全体では**

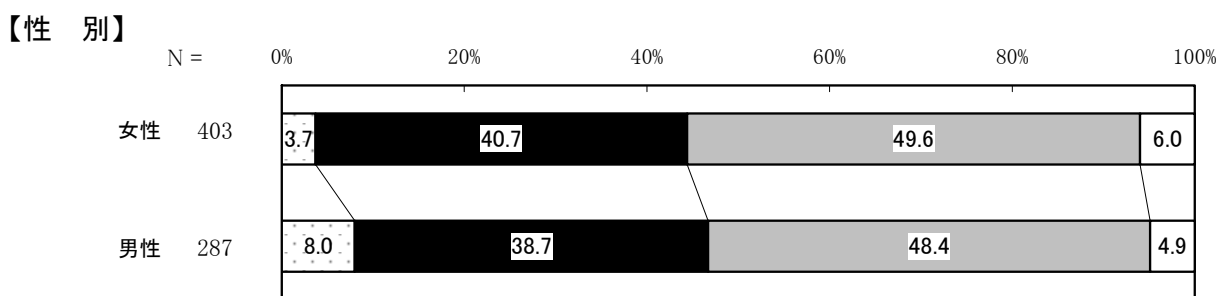
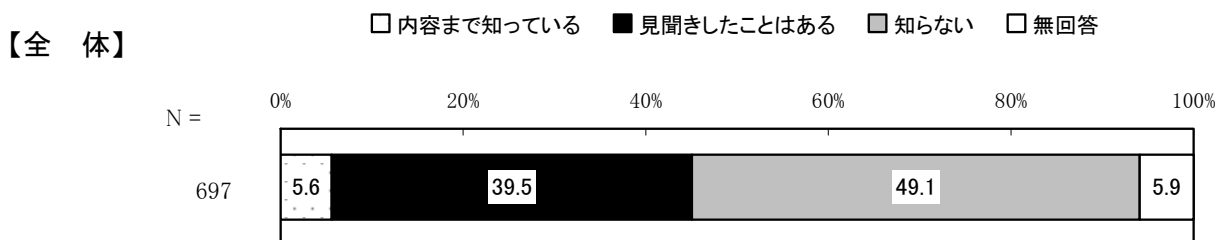
「知らない」の割合が49.1%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が39.5%となっています。

**○性別では**

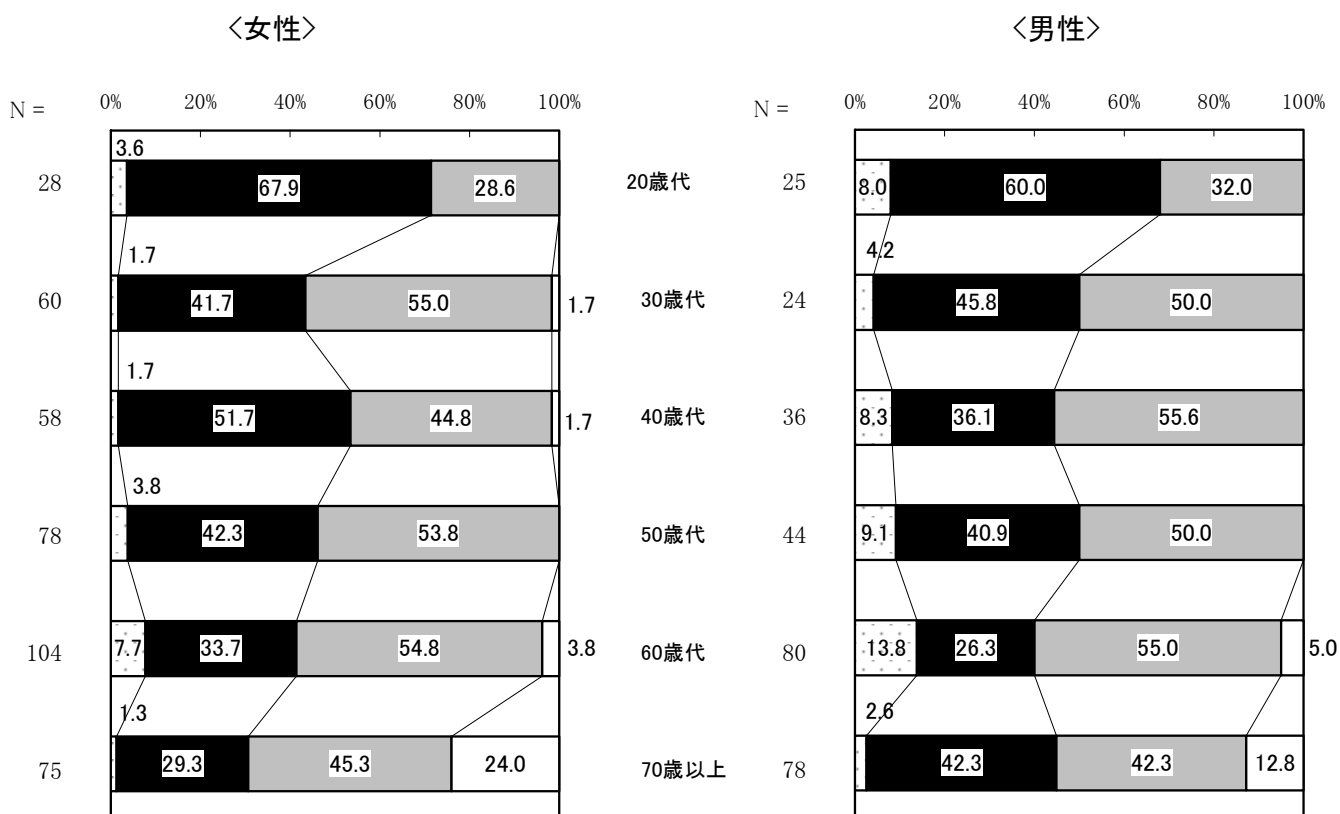
大きな差はありません。

**○性別年齢別では**

男女とも、20歳代で「見聞きしたことはある」の割合が高くなっています。



【性別年齢別】



(4) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）

**54.2%の人が「知らない」と回答**

**○全体では**

「知らない」の割合が54.2%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が31.4%となっています。

**○性別では**

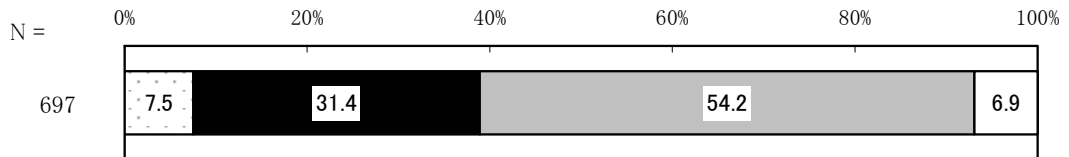
男性に比べ、女性で「知らない」の割合が5.6ポイント高くなっています。

**○性別年齢別では**

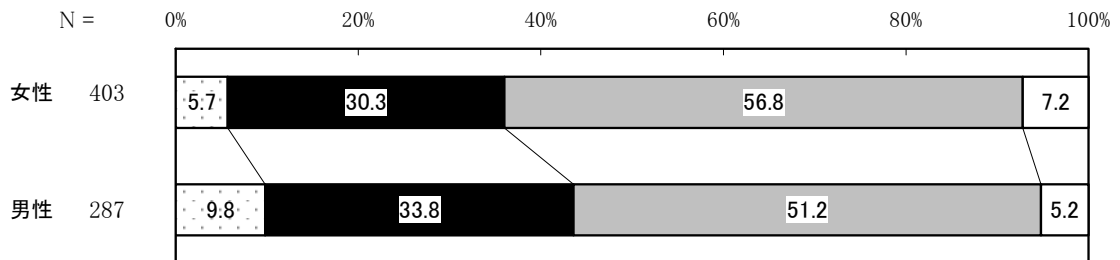
女性の40歳代、50歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

□ 内容まで知っている ■ 見聞きしたことはある ▨ 知らない □ 無回答

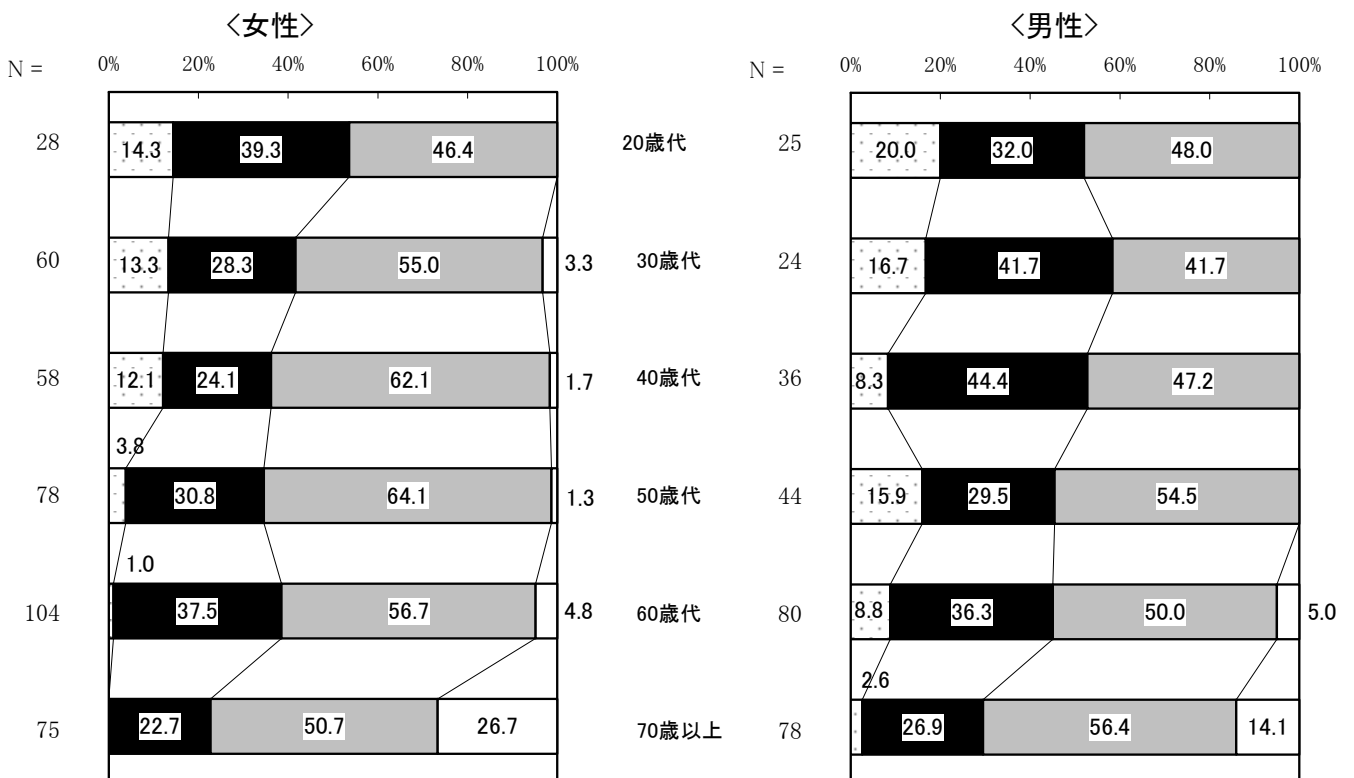
**【全 体】**



**【性 別】**



**【性別年齢別】**



(5) ストーカー規制法

**65.0%の人が「見聞きしたことはある」と回答**

**○全体では**

「見聞きしたことはある」の割合が 65.0%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が 21.1%となっています。

**○性別では**

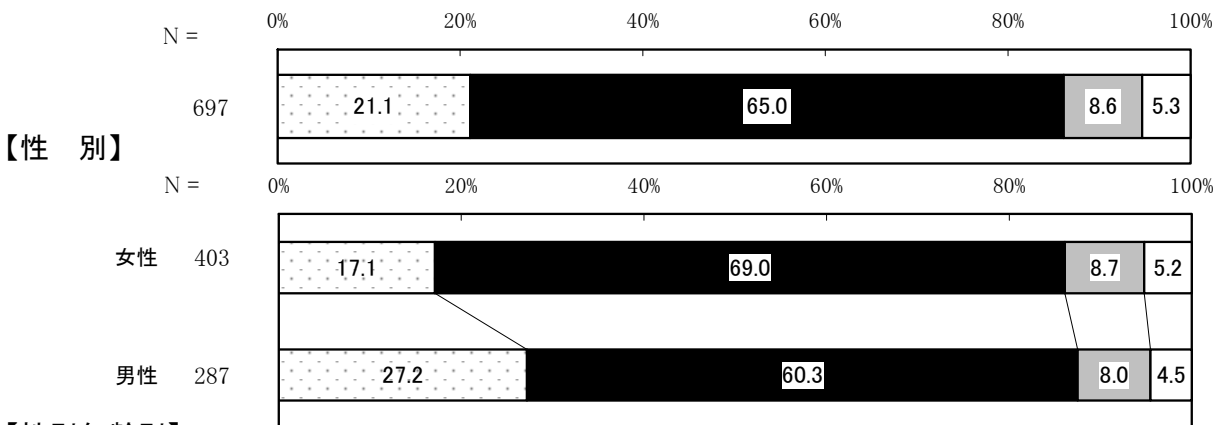
男性に比べ、女性で「見聞きしたことはある」の割合が 8.7ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が 10.1ポイント高くなっています。

**○性別年齢別では**

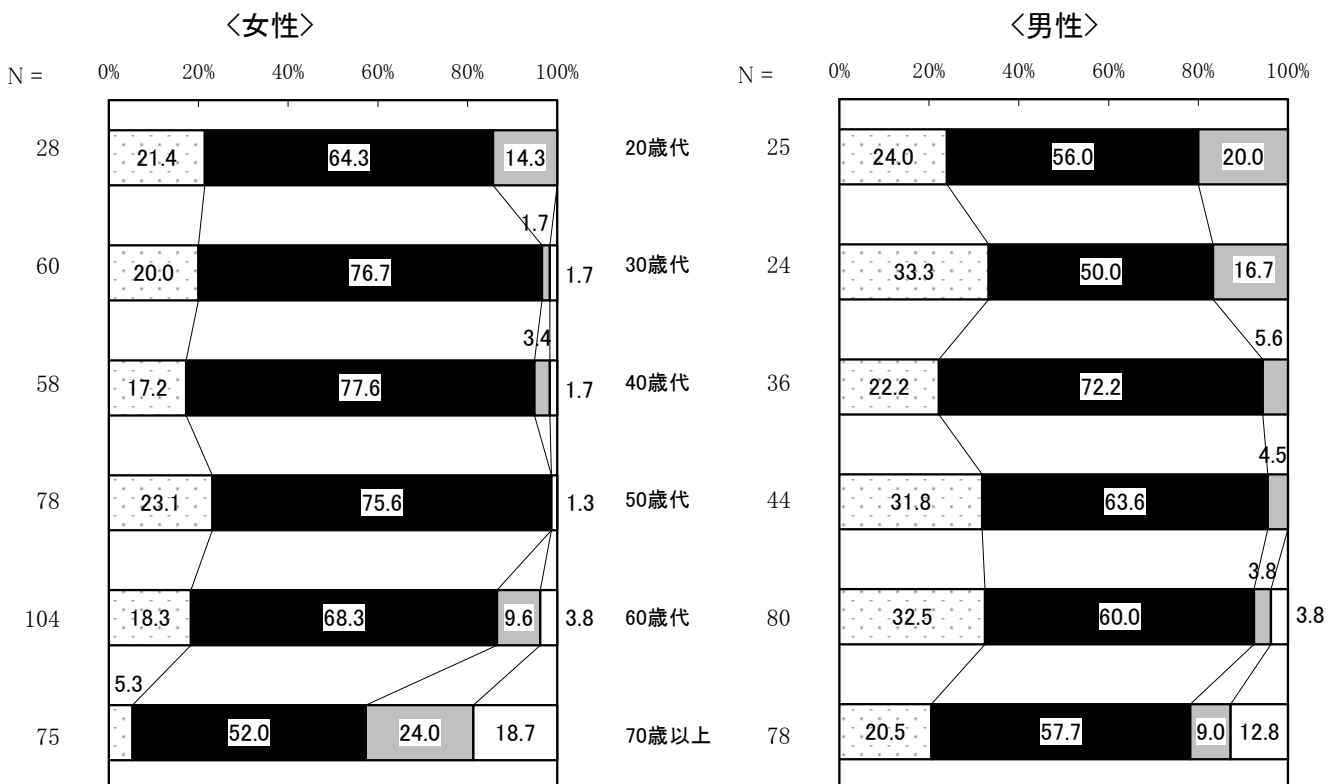
男性の 30 歳代、50 歳代、60 歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。また、女性位の 70 歳以上、男性の 20 歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

**【全 体】**

□ 内容まで知っている ■ 見聞きしたことはある ▨ 知らない □ 無回答



**【性別年齢別】**



(6) 配偶者暴力防止法(DV防止法)

**62.7%の人が「見聞きしたことはある」と回答**

**○全体では**

「見聞きしたことはある」の割合が62.7%と最も高く、次いで「内容まで知っている」の割合が17.5%、「知らない」の割合が13.5%となっています。

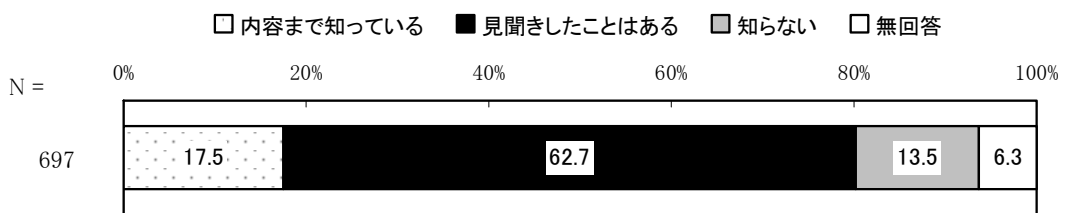
**○性別では**

女性に比べ、男性で「内容まで知っている」の割合が8.5ポイント高くなっています。

**○性別年齢別では**

男性の50歳代、60歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、女性の70歳以上、男性の20歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

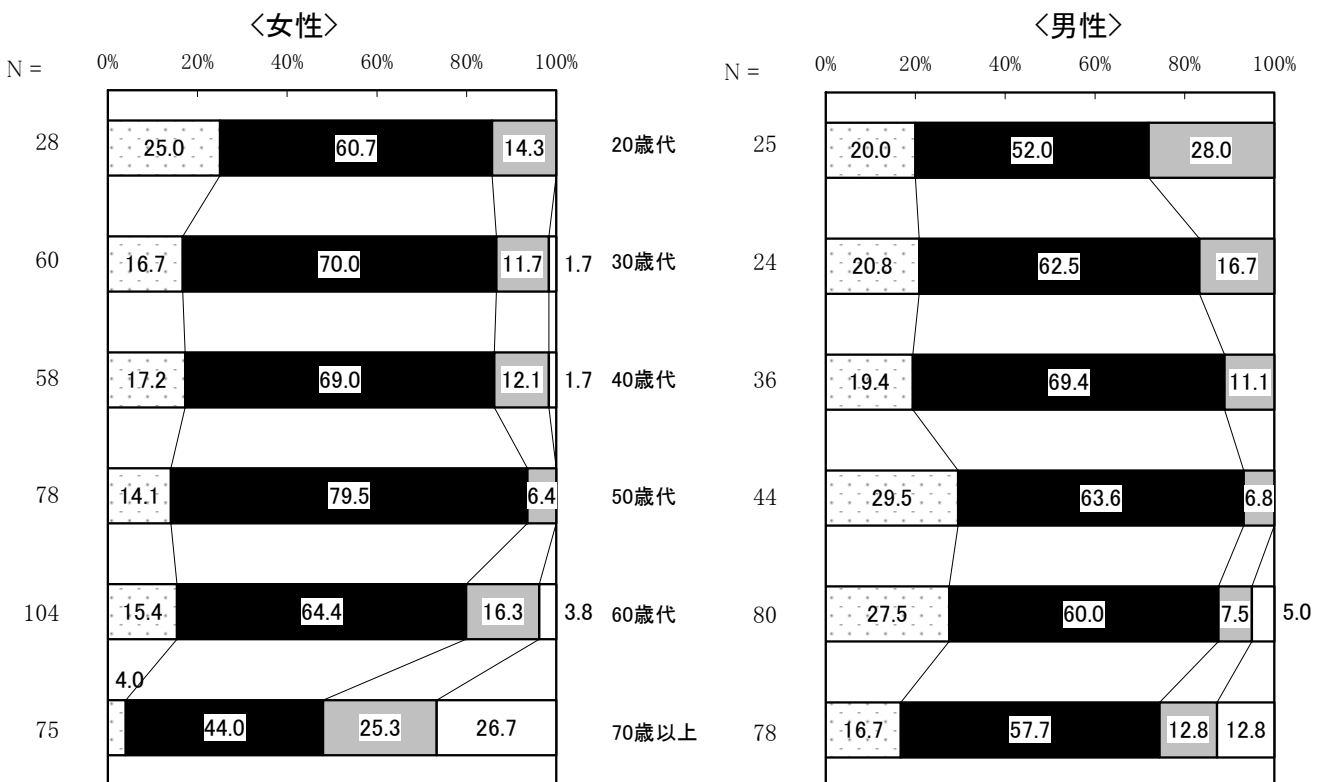
**【全 体】**



**【性 別】**



**【性別年齢別】**





(7) ポジティブ・アクション（積極的改善）

**69.4%の人が「知らない」と回答**

**○全体では**

「知らない」の割合が69.4%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が21.2%となっています。

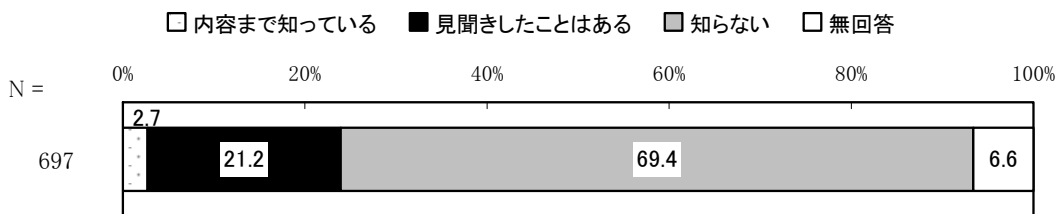
**○性別では**

男性に比べ、女性で「知らない」の割合が8.2ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「見聞きしたことはある」の割合が5.0ポイント高くなっています。

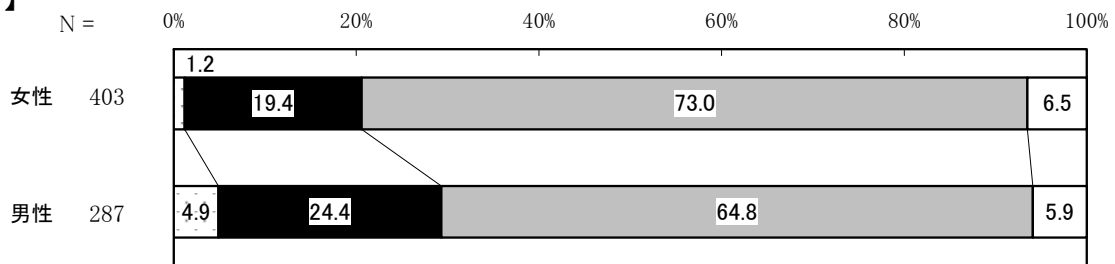
**○性別年齢別では**

女性の30歳代、50歳代、男性の30歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

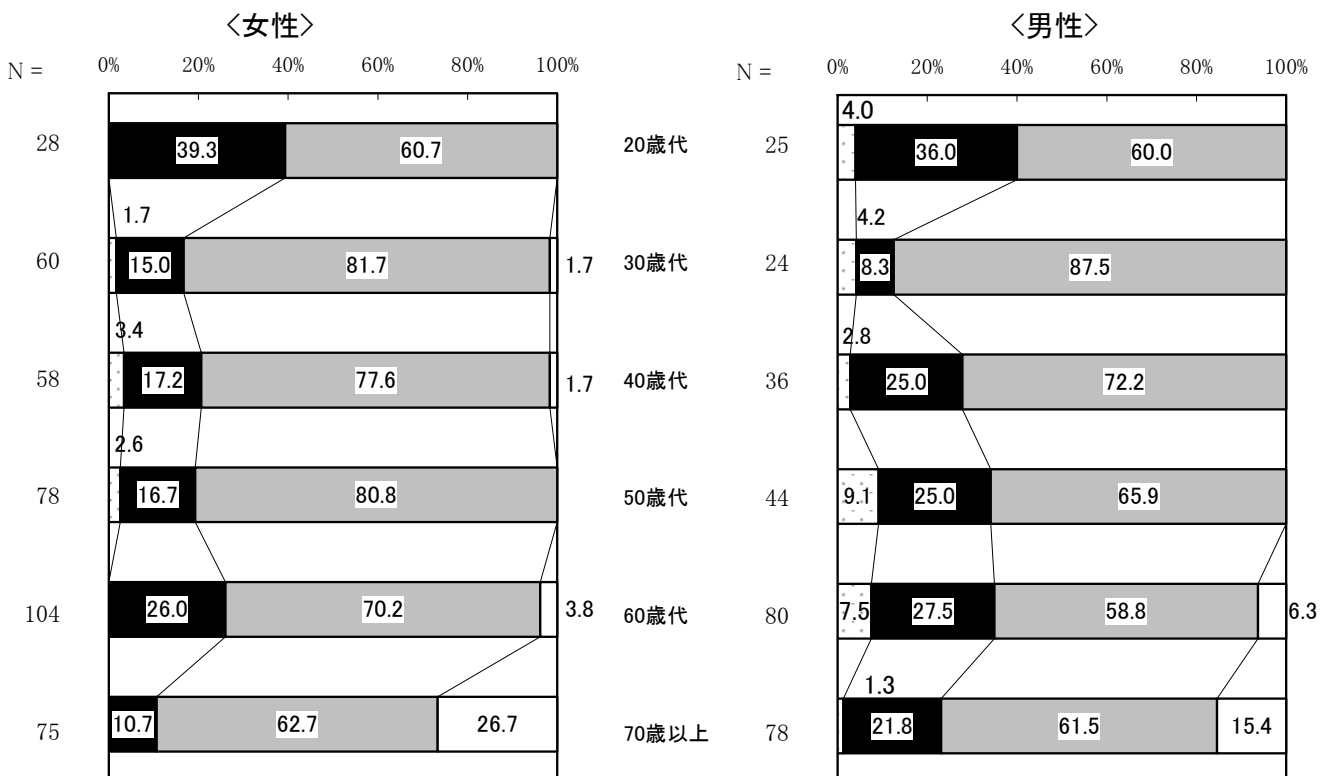
**【全 体】**



**【性 別】**



**【性別年齢別】**



(8) ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）

**53.2%の人が「知らない」と回答**

**○全体では**

「知らない」の割合が53.2%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が30.3%となっています。

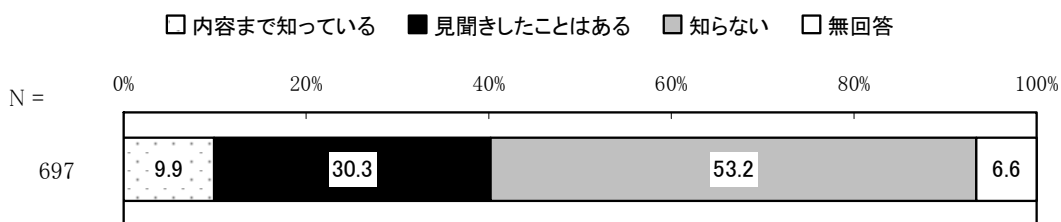
**○性別では**

大きな差はありません。

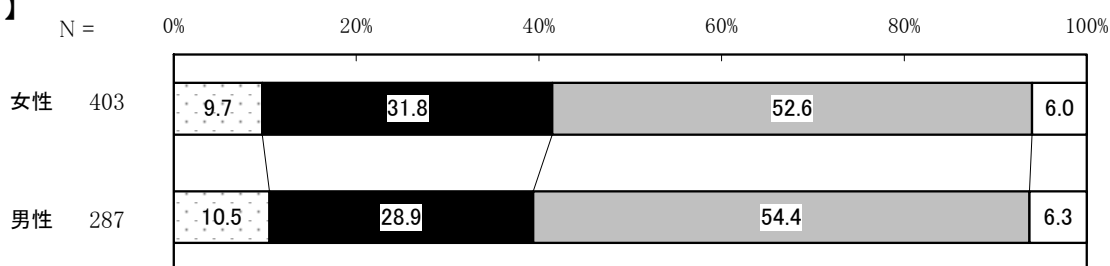
**○性別年齢別では**

男女とも、20歳代で「内容まで知っている」の割合が高くなっています。一方、女性の60歳代、70歳以上で「知らない」の割合が高くなっています。

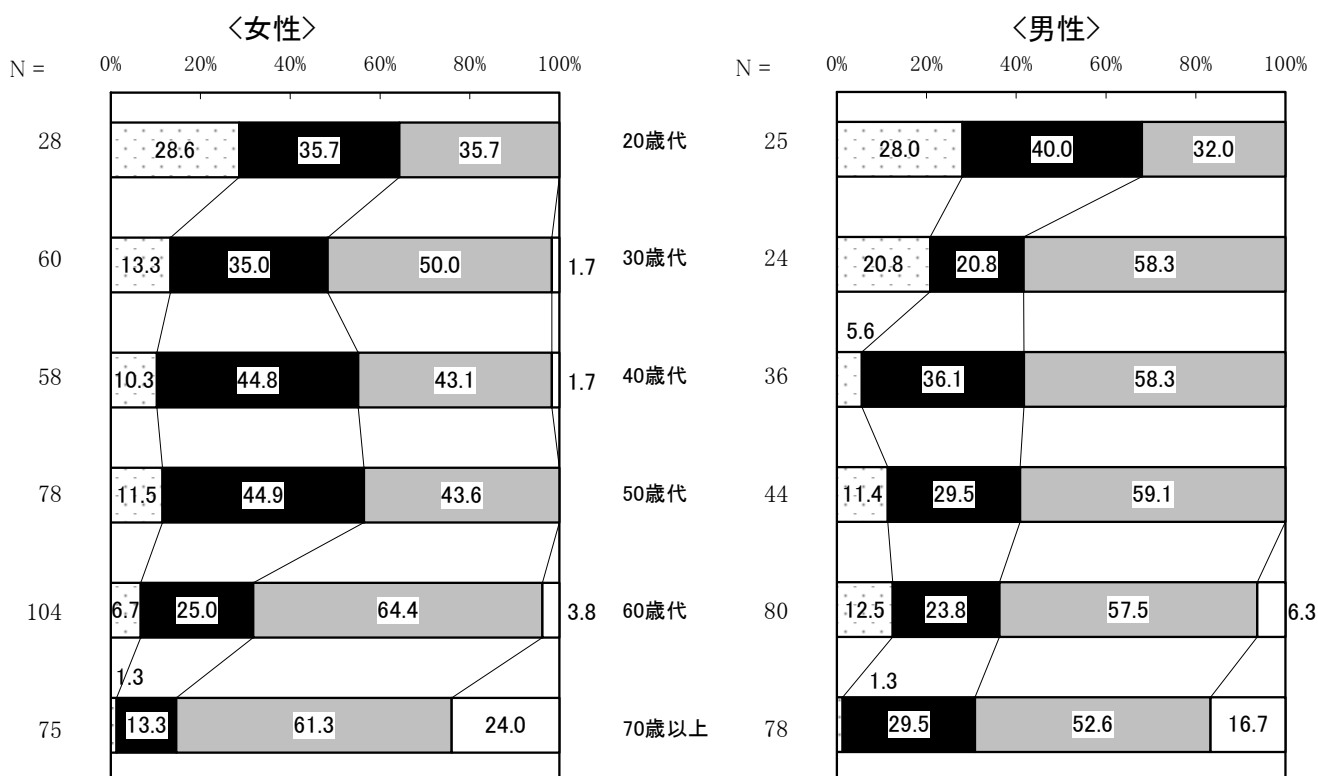
**【全 体】**



**【性 別】**



**【性別年齢別】**



(9) 亀岡市男女共同参画条例

**65.6%の人が「知らない」と回答**

**○全体では**

「知らない」の割合が65.6%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が26.1%となっています。

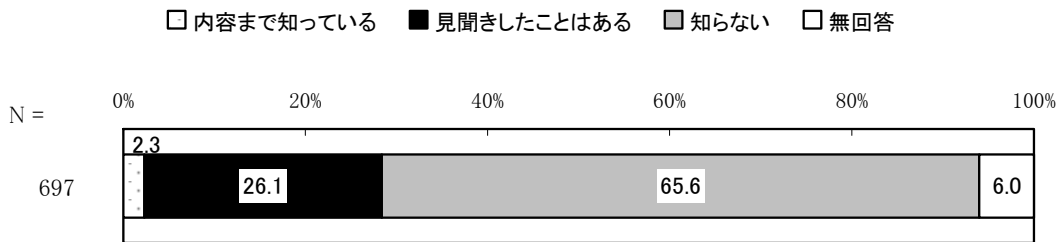
**○性別では**

大きな差はありません。

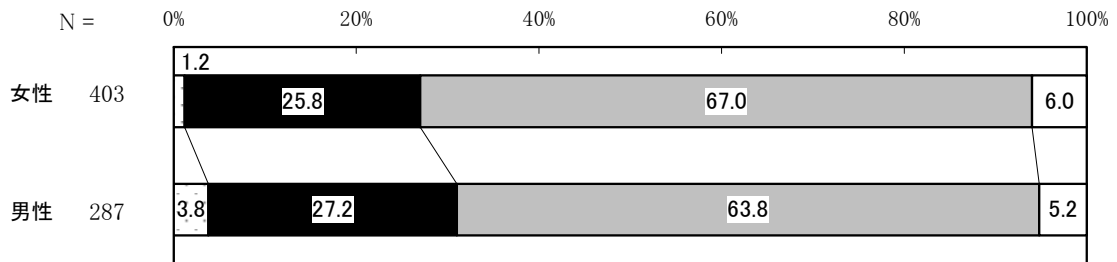
**○性別年齢別では**

女性の30歳代、男性の20歳代、30歳代、40歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

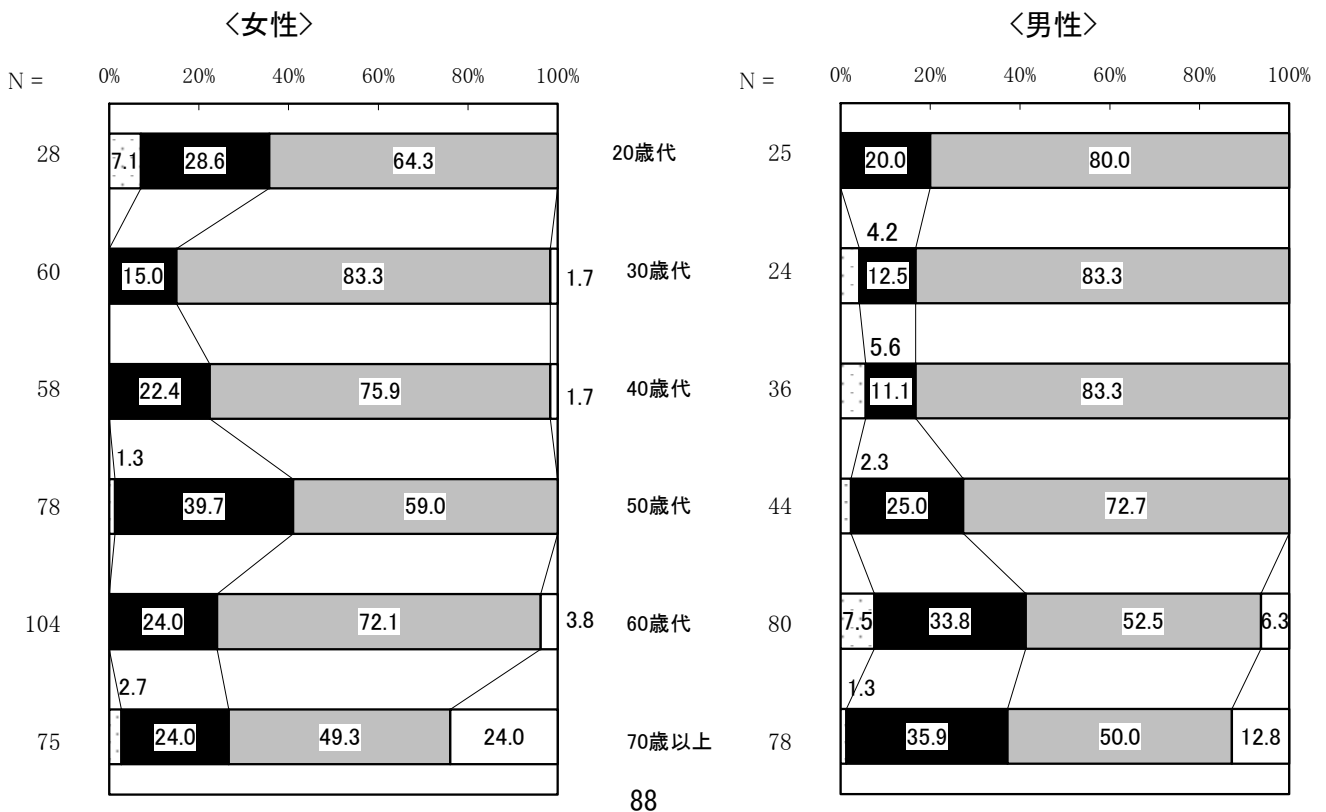
**【全 体】**



**【性 別】**



**【性別年齢別】**



(10) 亀岡市男女共同参画計画ゆう・あいステッププラン

**71.2%の人が「知らない」と回答**

**○全体では**

「知らない」の割合が71.2%と最も高く、次いで「見聞きしたことはある」の割合が21.2%となっています。

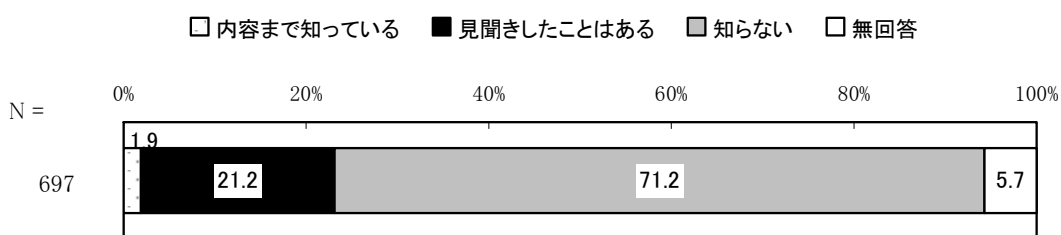
**○性別では**

大きな差はありません。

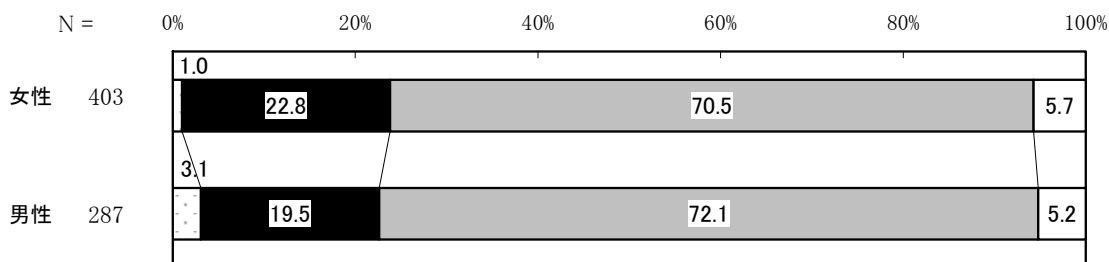
**○性別年齢別では**

女性の30歳代、男性の20歳代、30歳代、40歳代で「知らない」の割合が高くなっています。

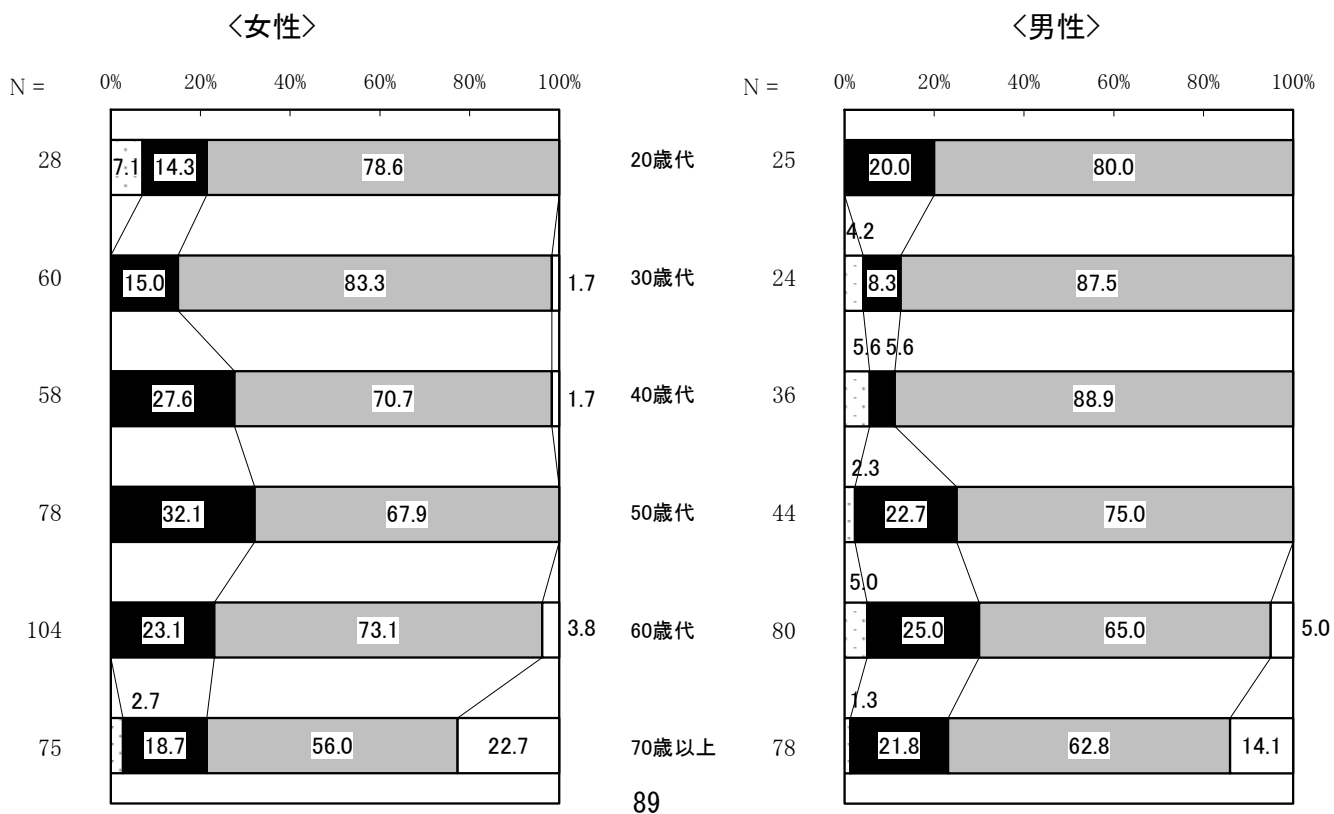
**【全 体】**



**【性 別】**



**【性別年齢別】**



## 9 男女共同参画の推進について

問 21 亀岡市は男女共同参画推進のためにこれまで様々な取組をしてきましたが、あなたは、取組が不十分な分野は何だと思えますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

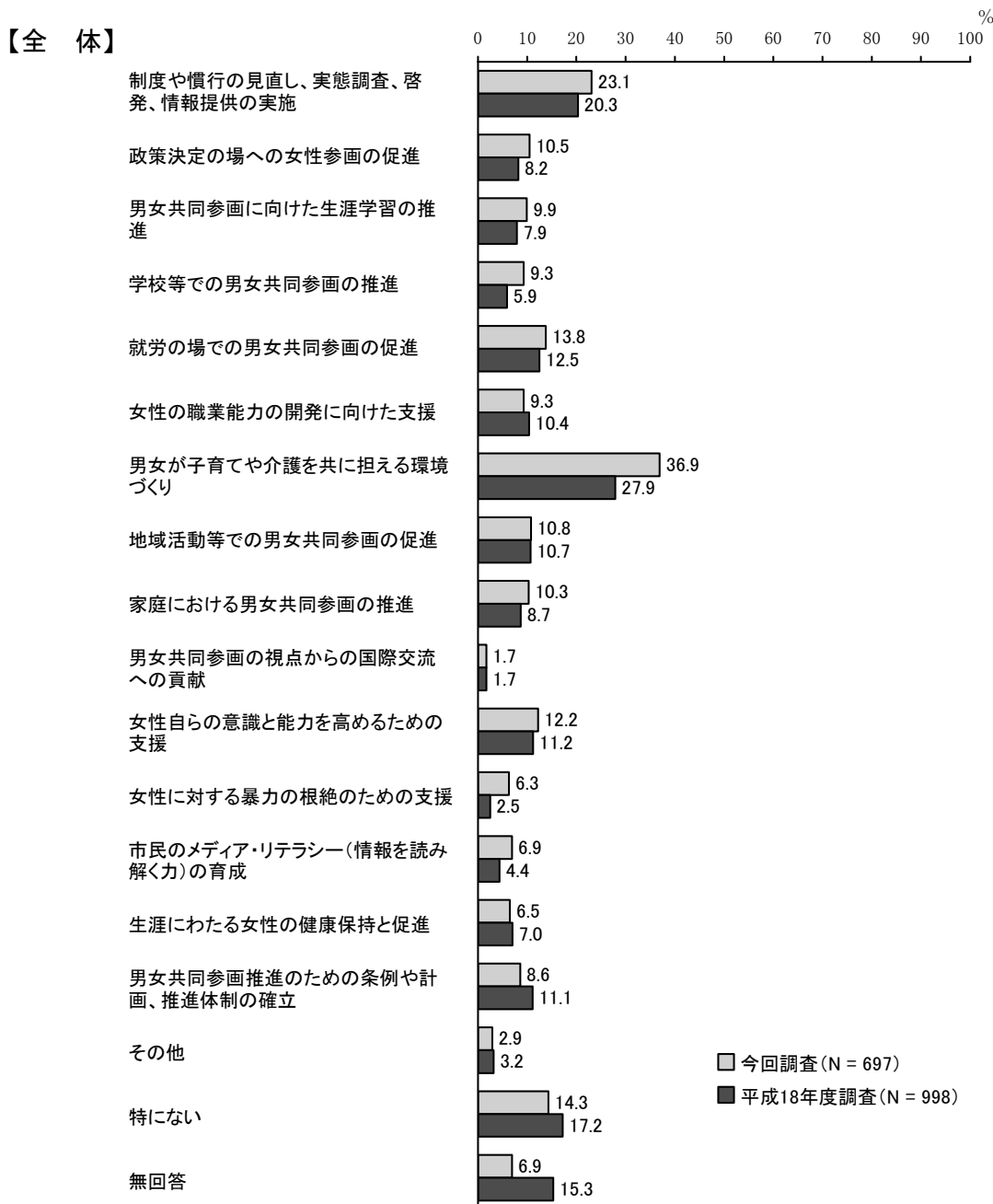
### 36.9%の人が「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」と回答

#### ○全体では

「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が36.9%と最も高く、次いで「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」の割合が23.1%、「特にない」の割合が14.3%となっています。

#### ○平成18年度調査との比較

今回調査で「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が9.0ポイント高くなっています。



## 【性別】

男性に比べ、女性で「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が12.2ポイント、「家庭における男女共同参画の推進」の割合が5.4ポイント高くなっています。また、女性に比べ、男性で「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」の割合が7.8ポイント、「就労の場での男女共同参画の促進」の割合が5.4ポイント、「地域活動等での男女共同参画の促進」の割合が9.3ポイント、「男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立」の割合が6.0ポイント高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施	政策決定の場への女性参画の促進	男女共同参画に向けた生涯学習の推進	学校等での男女共同参画の推進	就労の場での男女共同参画の促進	女性の職業能力の開発に向けた支援	男女が子育てや介護を共に担える環境づくり	地域活動等での男女共同参画の促進	家庭における男女共同参画の推進
女性	403	20.1	9.7	7.9	7.7	11.7	10.2	42.2	6.7	12.7
男性	287	27.9	11.8	12.5	11.8	17.1	8.4	30.0	16.0	7.3

区分	男女共同参画の視点からの国際交流への貢献	女性自らの意識と能力を高めるための支援	女性に対する暴力の根絶のための支援	市民のメディア・リテラシー(情報を読み解く力)の育成	生涯にわたる女性の健康保持と促進	男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立	その他	特になし	無回答
女性	1.5	13.6	6.7	6.7	8.2	6.2	2.2	12.2	8.4
男性	1.7	10.1	5.9	7.0	3.8	12.2	3.5	17.8	4.2

## コラム

### 男女共同参画推進のために 取組が不十分な分野について

国では、男性で「保育、高齢者の施設やサービスを充実」の割合(52.4%)、が、女性で「子育て中等に仕事が続けられる支援」の割合(62.7%)が高くなっています。

府では、男性で「子育てや介護等の施設・サービスの充実」の割合(24.0%)が、女性で「女性の就業、再就業の支援、働く女性への支援」の割合(40.7%)が高くなっています。

資料：国は、男女共同参画社会に関する世論調査(平成24年10月)、  
京都府は、男女共同参画に関する府民意識調査(平成21年12月)

【性別年齢別】

男女ともに「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が高くなっています。また、男女ともに20歳代で「就労の場での男女共同参画の促進」の割合が高くなっています。また、女性の50歳代で、男性の50歳代から70歳代で、「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」の割合が高くなっています。

単位：％

区分	有効回答数(件)	制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施	政策決定の場への女性参画の促進	男女共同参画に向けた生涯学習の推進	学校等での男女共同参画の推進	就労の場での男女共同参画の促進	女性の職業能力の開発に向けた支援	男女が子育てや介護を共に担える環境づくり	地域活動等での男女共同参画の促進	家庭における男女共同参画の推進
女性 20歳代	28	14.3	7.1	—	10.7	39.3	3.6	35.7	7.1	17.9
30歳代	60	20.0	10.0	1.7	3.3	15.0	20.0	48.3	1.7	16.7
40歳代	58	22.4	10.3	8.6	6.9	12.1	6.9	43.1	5.2	15.5
50歳代	78	30.8	12.8	9.0	10.3	16.7	9.0	42.3	6.4	7.7
60歳代	104	18.3	6.7	10.6	10.6	4.8	8.7	48.1	11.5	13.5
70歳以上	75	12.0	10.7	10.7	4.0	2.7	10.7	30.7	5.3	9.3
男性 20歳代	25	12.0	12.0	8.0	—	32.0	16.0	20.0	4.0	20.0
30歳代	24	20.8	—	8.3	8.3	20.8	4.2	25.0	8.3	8.3
40歳代	36	19.4	16.7	11.1	19.4	8.3	5.6	33.3	8.3	2.8
50歳代	44	31.8	15.9	4.5	13.6	18.2	13.6	29.5	15.9	6.8
60歳代	80	30.0	13.8	12.5	12.5	20.0	6.3	36.3	17.5	6.3
70歳以上	78	34.6	9.0	20.5	11.5	11.5	7.7	26.9	24.4	6.4

区分	男女共同参画の視点からの国際交流への貢献	女性自らの意識と能力を高めるための支援	女性に対する暴力の根絶のための支援	市民のメディア・リテラシー(情報を読み解く力)の育成	生涯にわたる女性の健康保持と促進	男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立	その他	特になし	無回答
女性 20歳代	—	14.3	7.1	7.1	3.6	10.7	—	25.0	3.6
30歳代	—	8.3	3.3	8.3	6.7	1.7	3.3	13.3	5.0
40歳代	—	20.7	6.9	1.7	10.3	12.1	5.2	10.3	—
50歳代	2.6	11.5	7.7	2.6	5.1	7.7	—	11.5	5.1
60歳代	1.0	14.4	6.7	10.6	7.7	5.8	3.8	9.6	6.7
70歳以上	4.0	13.3	8.0	8.0	13.3	2.7	—	12.0	25.3
男性 20歳代	8.0	12.0	4.0	16.0	4.0	4.0	8.0	20.0	—
30歳代	4.2	—	4.2	4.2	4.2	12.5	4.2	20.8	—
40歳代	—	2.8	13.9	5.6	5.6	13.9	2.8	27.8	2.8
50歳代	—	9.1	—	6.8	2.3	11.4	4.5	15.9	4.5
60歳代	2.5	7.5	8.8	8.8	2.5	13.8	3.8	16.3	1.3
70歳以上	—	19.2	3.8	3.8	5.1	12.8	1.3	14.1	10.3

問 22 亀岡市の男女共同参画社会づくりのために、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください。

## 1 男女平等に関する意識について

1	男女とは身体づくり、機能の違いもあり、最近では脳の作りさえも違うことが分かっています。それぞれの「違い」を認め尊重し、個人の得意な方面を伸ばし、協力して暮らしたら良いと思います。なんでもかんでも「平等」にするのに何かうんざりしています。(特に小学校) (40歳代 女性)
2	先行き遠い感が大いにあり、当問題の核心は人が他の人の人格を認める事が第一です。男女間を言うより先に職業職種に対する抜きがたい優越と劣等意識の撤廃が先決である。この世に不必要な職種はない。男女間の暴力も根底にはこれらの意識が(どこかに)あるから起こる。 (70歳以上 男性)
3	「男女共同」という語源が古めかしい感覚を思わせます。男女平等とは、男性が積極的に育児、家事をする事でなく、女性が精力的に社会参加をして「平等」になるのではないと考えます。「男女」という域を超えて、それぞれの性差を補えるような社会になるよう、期待しております。 (40歳代 女性)
4	私の意見として男と女は基本的に違うと言う事を理解することが平等であり、何でも同じ事ができるのが平等とは思っていません。 (40歳代 男性)
5	亀岡市の男女共同参画推進者の考え方や知識に偏見があると判断する。女性の収入見込みがないのに、言いたい放題、したい放題、お金の使い放題の人もいる事を知ってほしい。男性は相手にしていないが、たくさんの人から聞いている(私の目で見てもいる。男性は女性みたいにしつこく言わないから)。 (70歳以上 男性)
6	上辺だけの平等は必要ない。男の苦手な、女の苦手な分野をカバーするのが平等だと思う。 (30歳代 女性)
7	男女均等について、企業や社会のしくみが整備されても、女性自身が男性と同等に扱われることを望んでいない場合や、女性であることに甘えている(甘えたい)場合の方が多いように思います。均等を望んでいる女性にとっては、良い環境、時代になっているのではないかと。 (30歳代 男性)
8	女性で子どもの無い人は、男性と同じように活躍してください。子どものある人は、子どもさんを大切にしてほしいです。自分だけ良ければ、子どもは他人任せでは、心豊かな子どもにはなれないのではないのでしょうか。子どもさんが大きくなられた方は、男女共同参画社会づくりに協力してください。 (70歳以上 女性)
9	男女を同視するのは無理だと考えているし、それぞれの役割をはたすことの方が大切だと思う。 (50歳代 男性)
10	まずは、人の考え方です。 (60歳代 女性)
11	女性は個々人の意識改革をする必要があると思います。そのためにはいろいろな“余裕”が必要です。時間の余裕、経済的余裕など、余裕が無い場合は“学び”の意識になるのは難しいのではないのでしょうか。 (40歳代 女性)
12	私は女性で正社員(教育関係)として働いていますが、男女共同参画社会と言いつぎるのは、ちょっと違うと感じています。重い仕事は男性が進んでしてくれますし、あまり女性が差別されているとは思っていません。男・女それぞれに合った生き方が出来ることが望ましいと考えます。 (40歳代 女性)
13	男性には男性の、女性には女性の役割や向き・不向きがあるので、今の男女共同参画は不自然で歪な感じがする。むしろ現代の子どもの虐待やモラルの崩壊は、女性が権利を主張しすぎたために起きていると思う。 (40歳代 男性)



## 2 家庭生活（家事・育児・介護）における男女共同参画について

1	年寄りが幅をきかずこの田舎の亀岡では、あと100年は無理。嫁に入る女は夫の家の慣習に従うべきという感覚。亀岡に嫁いできて、心底後悔しています。 (40歳代 女性)
2	女性自ら平等を望まない女性がいる。楽な所だけ平等で都合の悪い所は女性だから、力仕事は無理、家事が忙しい、等を理由にして逃げる、男性でも力仕事は疲れるし、残業はしんどい、本当の男女平等が先決である、女性は優遇されすぎている。 (50歳代 男性)
3	男は強い、女は弱いとの従前の認識で統計数値ばかりみて一般論で取り組んでも仕方ないと思う。仮に女は家庭で健全な子育てに励み、人口も増加したという豊かな社会が育まれるとしたら、社会で対等に働くことのみが女の幸せにはならない。女の人が幸福と感じる社会であれば良い。女を男と読み替えても同じである。 (70歳以上 男性)
4	まだまだ男女平等ではありません。女性が社会進出できるように子育てに関することをもっとしっかりしてほしい。保育所も入所するための細かい条件を無くしてほしい。 (30歳代 女性)
5	自分自身がかつ健康であれば、違っていたかなと思う事があります。機会があっても積極的に参加できていない点がおおきくあった…仕事も子育ても元気に参加できていたのに、とっています。 (50歳代 女性)
6	女性にしかできない出産の事に対して、どのようなサポートが出来るかが課題として大きいと思います。少子化が進むようでは、問題がより大きいものになってしまう。今回のような実態調査をより進め分析する事が、良い結果を求められるために重要だと思います。 (40歳代 男性)
7	亀岡の市民の大部分（特に年配。50歳以上）は、男女の不平等な役割（女は家事）をあたりまえと思う人が多いのが残念です。 (40歳代 女性)
8	男性が子育てにどうやったら積極的に取り組めるのか、私も悩むところです。自営業には何の保証もない為、仕事を休むわけにもいかないのが現状です。 (30歳代 女性)
9	子育て中の方に訪問支援等があるとよいと思います。 (50歳代 女性)
10	女性の社会参加も大切ですが、子どもを家庭でしっかりと育てることも大切だと思います。子ども達の問題行動の中に「お母さん、私を見て。」と心の声で叫んでいる気がします。社会の最小単位の家庭を、もっと心豊かに生活できる環境の方が、もっとも必要だと思います。 (40歳代 女性)
11	男女が出産・子育て・介護等で、社会、会社などが共同に参加出来るような環境づくりの社会を作る。 (60歳代 男性)
12	ずっと専業主婦で、社会とのつながりのない所で生活して来ました。車に乗れないから、交通手段がないから、近くに利用できる公共施設もなく、狭い生活空間の中にいました。立派なものじゃなくていいので誰でも立ち寄れる地域交流の場があると、年令と共に孤立しなくて済むのではないのでしょうか。 (60歳代 女性)

## 3 男女共同参画による教育について

1	男女が互いに強みを生かして共に生きる共生の体験と、元々人は女性から世に生み出される感謝と尊敬の考えの基に、共にカバーし合える事が肝心である教育と、体感し育む事の出来る活動が重要。母の嘆く姿を見れば子どもも行動に自重する事も多くあると思う。 (50歳代 男性)
2	子どもの頃からの教育が積み重ねられたらと思います。 (60歳代 女性)
3	小学生への推進活動。 (40歳代 女性)
4	男女共同参画とはいえ、男性には、なんとなく理解できるといったレベルであり、まずは、すべて男性（女性抜き）で、DV、セクハラなど身近な課題で本音を語り合い、その意見と男女共同参画のあり方を学習するような機会があれば参加したいと思います。 (60歳代 男性)

#### 4 地域活動における男女共同参画について

1	普段の生活から活動をよく知ってもらうようにしたら良いと思う。(20歳代 男性)
2	社会づくりの為には、まず、家庭環境の充実、地域とのつながり等が大事だと思います。安心して生活できるからこそその男女共同参画社会だと思います。(30歳代 女性)
3	趣味、学習、スポーツ活動等を通じて、社会活動への参加を希望するにあたって、活動に入れるようにきっかけや、場面を作してほしい。(70歳以上 女性)
4	普段の生活、社会の中で、自立し地域に根ざした生活をしている女性たちを広く市民に知らせる等、やれるできる社会であることを啓蒙する活動があってもいいのでは。(起業や社会経営等、特別なものではなく普段の生活で生き生きやっている人)(60歳代 男性)
5	亀岡市に移住して2年程で亀岡市の市政、地域の活動等が把握できてなくて申し訳ありません。年齢を考えますと、気持ちはあっても、活動は無理かと思っています。地域の行事等は多く参加して楽しく過ごしたくと思っています。(70歳以上 女性)
6	60代母が言われた事です。地域の取り組みで新しい事を決める際、反対意見(その取り組みはやめてほしい等)を言ったら、「決まっていけないのに文句を言うな」と言われた。取り組みが行われる事になり、「参加しない」と言うのと、「決まったのだから、参加してもらわないと困る。夫に発言させろ。」と言われた。60代男性の中では、女性が発言する事を認めない人が、まだたくさんいると思います。60歳以上の方への推進活動を期待します。(40歳代 女性)
7	地域社会の中での女性の活用と、平等に発言の出来る社会の確立と、お互いに認め合う事が必要。(70歳以上 女性)
8	年寄りの戯言かも知れませんが、私は昔の様に横のつながりを密にして、相見互に助け合ってあたたかい世の中が出来たらと切に思います。(— —)

#### 5 職場における男女共同参画について

1	非正規職員に対して、もう少し賃金アップ等、一人で自立して生活できる環境作りを推進してほしいと思います。(30歳代 女性)
2	長い歴史の中で、男女平等にすぐなれると思いませんが、各自の意識が少しずつでも変われるようになればと思います。男女が平等な職場もあるかもしれませんが、まだほんのわずかだと思います。男女共同参画社会になるには、まだまだ何十年と先の事のように思いますが。啓発活動だけは頑張っていてほしいと思います。(40歳代 女性)
3	私は製造業に勤務して、海外外向や出張も多く、日本の製造業の未来が無い状況をよく見えています。子ども達の将来に仕事が無くなるか不安です。男女共同で益々人材が余剰にならないかという疑問があります。職場の確保等、企業に踏み込んだ法律や制度が実現するように期待します。(40歳代 男性)
4	平等な就労支援(公務員と平等に)。(50歳代 女性)
5	男女共に能力のある人は回りが応援し、または配置転換などして、その人の能力を伸ばしたら良いと思います。すべてを男女平等と言って、無理な部署に配置転換するのもどうかと思います。男女の能力の見極めが必要ではないでしょうか。(70歳以上 男性)
6	女性が子どもを出産しても、仕事が続けられるよう保育施設の充実強化が必要だと思います。(50歳代 男性)
7	子育てをしながらできる仕事(時間帯、曜日、子どもの行事に併せられる等)の紹介やあっせんをしてもらえるような部署や施設があればよいと思います。そのような物は、京都の烏丸御池まで行かないとないの。(30歳代 女性)
8	名目だけでなく、具体的な事例の改差を進めていくこと(事業所に立ち入る)。最低賃金(パート従業員)の底上げ。京都市内との格差訂正を。不当労働行為を許さぬ、監督的な役割を果たすこと。(20歳代 男性)

9	女性の働きやすい環境を作り、保育所など整備し、結婚育児などで仕事を辞めないですむようにする。能力ある女性は、昇進する道のあること。 (60歳代 女性)
10	年齢に関係なく、自分に合った仕事などがあればよい。 (50歳代 女性)
11	女性の視点からの平等を考えることも、当然大切な内容だと思いますが、男性からの立場で、職場における不平等を感じる事が多々あります。制度的にはどうしようもないことだと思いますが、一人ひとりの人間が、他人への思いやりや優しさをもって働くことができればよいと常に感じております。 (40歳代 男性)
12	女性であるというだけで優遇して出世させたりすると、女性が皆能力が足りてないのに出世していると思われてしまい、実力を備えた女性が不利益を被るし、男性のやる気を大きくそぐので、そのようなアフーマティヴ・アクションはすべきではない。 (20歳代 男性)
13	女性が社会へ出る内容が多くなっていますが、それによって、男性へのリスクや負担についての内容が薄い気がします。私の廻りでも正社員として働いてない男性が多くいます。家庭でのストレスで辞める方もいます。男性へのリスクについてももう少し取り上げてほしかったです。 (30歳代 男性)
14	社会保険労務士試験を過去に二度、受けています。男女雇用機会均等法については、条文レベルで理解しています。今、アベノミクスで女性活躍推進法案を準備中との事、期待しています。個人的には、最終的に子どもが手から離れてから、現在取得に励んでいる資格を活かして、再就職したいです。その為、今は毎日、勉強の日々です。結婚前に人事・労務部門で1年間勤務した実務経験と各種の資格を活かして、必ず再就職したいです。 (40歳代 女性)
15	男女では特に思い当たりませんが、年配の女性との職場で、子どもが熱を出しても休んだり帰ったりしにくい職場です。理解が得られないので、働きたくても正社員で働きません。保育園や小学校などでも、子どもを見てくれる制度をもっと作って欲しいです。熱が出た時や、運動会の振替の休みや、警報の休みの時です。 (30歳代 女性)

## 6 政策・方針決定の場への参画について

1	ネーミングの仕方が分かりにくい。色々な取り組みをしても、それが理解しにくい。もっと年齢に関係なく小学生から高齢者まで分かりやすいようにネーミングや説明をすべき。 (30歳代 女性)
2	関係者の方々は、それぞれ努力しているようだが、まだ、全く見えてこないのが、実状である。もう少しパンチのきいた施策が必要ではないか！！ (70歳以上 男性)
3	男女平等といいますが、女性も勝手なもので、ちょっとした力仕事等、なんで女の私たちがしなければいけないのか、男の仕事ではないかなど、わがままな人もいます。お互いにまだ勝手な部分もあります。リーダー的な人を男女から一人ずつ選出して、いろんな活動をしやすいようにしたら良いと思う。 (60歳代 女性)
4	古い考えの町なので、自治会の集いに行っても話が通じない。同じ事が男女間にもあるのでは？ (50歳代 女性)
5	政策決定の場への女性参画の促進を強く望みます。今の亀岡市も住みよい町ですが、女性市長になれば、亀岡市もまた違った女性目線でもらえた輝きを見せるのでは？期待しています。頑張ってください！！※学童保育6年生まで見ていただけるように早くして下さい！！子どもが安心して暮らせる町づくりを！！ (40歳代 男性)
6	市の施策にも女性の視点が入ることで、女性の働きやすい住みやすい環境ができること。女性がいきいきすると、町は活性化します。 (60歳代 女性)
7	女性差別なんて考えたことないですが、そもそも女性が政治の舞台にでて活躍することがあまりないのは、女性がそうしたくないというのが一番の理由だと思います。ですから、初等教育の段階で意識を高めさせるのが良いと思います。 (20歳代 男性)

## 7 男女共同参画の取り組みについて

1	当事業が形骸化することなく、今後も粘り強く、推進されていきますようお願いしております。 (60歳代 女性)
2	5、60代以上に伝わるような分かりやすい推進計画をして下さい。実際の職場や社会の場には何も響いていません。 (30歳代 女性)
3	亀岡市が今後男女共同参画の為ににより発展していくことを心より願っています。 (50歳代 女性)
4	男女で能力などでやっぱり違うと思うので、何でも平等に、休暇もおなじように取れるべきなどは違うと思う。それぞれの得意な部分や男性らしさ女性らしさの方が大切だと思う。 (20歳代 女性)
5	亀岡市では既に、男女共同参画社会づくりのために条例やプランがたてられているが、具体的な内容までは知らないので学習していきたい。一般市民の意識や制度横行の見直し啓発などで、長期にわたり取り組みが進められることが大切だと思います。男性の意識の底流には、セクハラやじに現れる差別意識がまだまだあると思います。 (70歳以上 男性)
6	亀岡市が男女共同参画推進のために、これまで取り組んでこられていたことを全く知りませんでした。このアンケート提出後、この取り組みがどのようになって行くのか知りたいと思います。 (30歳代 男性)
7	亀岡市の様々な取り組みは知っていますが、各団体の主だった人だけの会が多すぎるように思います。 (60歳代 女性)
8	亀岡市が、男女共同参画社会の実現を目指しておられることを知りませんでした。 (70歳以上 女性)
9	今頃ではもう遅いのではないのでしょうか。 (60歳代 女性)
10	亀岡市でどのようなことがされているのか、具体的には全く分からない。 (60歳代 男性)
11	男女の自然の調和を望みます。意見の違いだけで区別をしないこと。気持ち良く安心できる制度を望みます。仲良しでいたい。 (60歳代 男性)
12	私は今まで男女差別や暴力に困った経験なく生きて来られました。ですので、あまり実感がないまま回答してしまいましたが、本当に困った経験をお持ちの方が積極的に意見を述べられる機会を増やしていき、そういう方たちに社会に対してどんどんと問題提起をしていただければ良いのではないのでしょうか。 (50歳代 女性)
13	「男女共同参画」について、全くとっていい程知りませんでした。 (60歳代 女性)

## 8 相談・情報について

1	情報提供をもっと実施してください。 (40歳代 男性)
2	金がかからない程度、チラシ等配布、情報を多く出して欲しい。(不用なことで金を使わない) (有効な情報提供を考えてください) (60歳代 男性)
3	亀岡市は男女共同参画推進のために、様々な取り組みをしてきたとあるが、ほとんど目にしないというか、情報が届かない。私の周りでも、このことに関して話題にもならない。啓発力が弱いのではないかな。 (60歳代 男性)
4	知らなかったので、男女共同参画に関する条例がある事を広く周知してほしいと思います。 (20歳代 女性)
5	職場が亀岡市以外であったため、どのような取り組みと成果があったのか、よく分からないので、情報のあり方に工夫が必要ではないのでしょうか。 (50歳代 男性)

6	高齢化が進む中、介護が必要になったときに支援の手がある事、一人で抱え込まない様に身近な相談窓口を充実してください。 (50 歳代 女性)
7	男女共同参画社会づくりをしている事を広く知ってもらう方法があったら。 (60 歳代 男性)

## 9 市政について

1	本アンケートをきっかけに市の活動をもっと知りたいという気持ちになりました。何にかきっかけとなるか分からないので、継続的に進めていってほしいと思います。 (30 歳代 女性)
2	亀岡市が市民生活向上の為の事業に取り組まれているのは、意義あることと思います。 (60 歳代 女性)
3	国の行政が決まってから市として、市民としても考える事があると思います。 (40 歳代 男性)
4	色々な感性が有るので推進は大変な努力が必要と思いますが、一つ一つ良い亀岡市になる為に確実に歩んでください。 (40 歳代 男性)
5	亀岡市役所も、もっと家の事を分かってほしいと思います。どこの家も、いろんなことがあります。 (70 歳以上 男性)
6	口先だけの人気取りの政治屋を、的確に識別する力を国民が持てるように、マスコミが、その本来のジャーナリズムの精神と態度を取り戻すこと以外にない。見下されない国民になること。 (70 歳以上 男性)
7	市長部局と教育部局の連携を密に。それぞれのよい所を生かしてよりよい亀岡市を築いてください。 (30 歳代 男性)
8	趣旨は違いますが、亀岡市に小児科の夜間救急外来がないのが不便でたまりません。南丹病院まで車の運転ができない者にとっては遠すぎます。ぜひ市立病院などで対応して頂けますようにご検討ください。ママ友みんなの願いです。 (30 歳代 女性)
9	わざわざ“課”までつくり人を増やすような事柄とは思えない。男だの女だの片意地張り合っていれば何をしても実らない。各自の問題であり人となりを考え、行動していければいい。どのように男が行動しようとも、女性は絶対的な力を持っていることを、男は自覚すべき。 (60 歳代 男性)

## 10 アンケートについて

1	人権啓発に係る予算とその効果のフィードバックを精査し、費用対効果を検証されてますか？チラシのバラマキや前例踏襲のシンポジウム等の予算消化の施策で終わっていませんか？このアンケートもアンケートの集計の公表だけで終わらない事を希望します。 (40 歳代 男性)
2	問 21 と同じ (40 歳代 女性)
3	各家庭への聞き取り、問 9 の設問の中での (6) などの相談などを、何処にしてよいか、友達等に聞いてもらっても、解決に至らない、配偶者 (問 13) 違った意見での暴力で、行政等には相談できない。 (50 歳代 女性)
4	男女共同参画社会づくりに関する意見ではないが、最近、亀岡市では、様々なアンケートが行われているが、協力者へのフィードバックがない。(広報誌等ではなく、真の分析結果) 本アンケートについても、設問と回答などにつながりがないものもあるので、回答について勉強されたい。 (60 歳代 男性)

5	<p>広報不足も甚しい、上記内容も題目の羅列にしか感じられないアンケート内容、項目も完全でなく、アンケート調査作業を行ったと言う大義名分的ゼスチャーの様である。どのように行えば明確に伝わるのか、再考されたい。亀岡市の大切な業務でありながら自ら努力をせず、南丹市に頼っている業務で、雑している項目もあると思う。もっと真摯に願いたい。</p> <p>(50 歳代 男性)</p>
6	<p>このアンケートで初めて知る事が多かったので、もう少し自分自身が制度についてや地域について、知ることが大事だと感じました。</p> <p>(30 歳代 女性)</p>
7	<p>今回のアンケート内容は男性の意見を無視する内容（女性の意見重視と判断する）。</p> <p>(70 歳以上 男性)</p>
8	<p>（問 16 から 18 の設問について、表題と関連性が低いと感じました。）男女共同参画社会の必要性が分からない。</p> <p>(40 歳代 男性)</p>
9	<p>女性の視点からの平等を考える設問が多かったように感じました。</p> <p>(40 歳代 男性)</p>
10	<p>この度のアンケートについて、質問の内容がもう少しわかり易いと早く記入出来たと思います。非常に面倒臭さを感じました。</p> <p>(50 歳代 男性)</p>

## 11 その他

1	<p>人生も後半になって来まして、これからどれだけ、一市民として役に立てるか分かりませんが、自分でできる事はたとえ少しでも仕事していきたいと思います。どうか元気で生きていけるのも、皆さまのおかげとっております。</p> <p>(60 歳代 女性)</p>
2	<p>パートナーいない方々が多いと思います。出会いの場を宜しく願います。孤独死が少なくないようです。ご近所の協力・確認をよろしく願います。</p> <p>(40 歳代 男性)</p>
3	<p>私は何も分からないです。</p> <p>(70 歳以上 女性)</p>
4	<p>税金のムダ遣いをする。ただの外郭団体にはならないでください。</p> <p>(— —)</p>

### Ⅲ 調査結果のまとめと課題

各分野における男女の地位の平等感については、平成 18 年度調査に引き続き、他の分野に比べて「学校教育の場」において「平等」と感じる人の割合が高くなっています。一方、「政治の場」「社会通念・慣習・しきたりなど」においては、男性優遇の割合が高くなっています。平成 18 年度調査からは、「家庭生活」「職場」「自治会やNPOなどの地域活動の場」でわずかに男性優遇の割合が低くなっており、身近なところで男女共同参画が徐々に進んできていることがうかがえます。

一方で、すべての分野において、女性は男性に比べて“男性が優遇されている”と感じ、男性は女性に比べて「平等」と感じていることから、男女感で意識の差があることがわかります。特に、「家庭生活」「法律や制度のうえ」「社会全体のなか」では、女性が“男性が優遇されている”と感じている傾向がみられます。今後も、市民の身近な場面において、一人ひとりの実践につながる男女共同参画の啓発を進めていくことが必要です。

国や府、市ではさまざまな男女共同参画を推進していくための制度や施策を行っていますが、男女共同参画に関する事項の認知度は、「男女雇用機会均等法」「ストーカー規制法」で「内容まで知っている」の割合が2割以上となっているほかは、2割未満の認知度となっており、特に「女子差別撤廃条約」「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」「ポジティブ・アクション（積極的改善）」「ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）」「亀岡市男女共同参画条例」「亀岡市男女共同参画計画ゆう・あいステッププラン」で、「知らない」の割合が高い傾向にあります。

このため、今後は男女共同参画に関する事項について、多くの市民にわかりやすく理解が深まる啓発や情報提供、年齢や地域に応じた施策を推進していくことが必要です。

亀岡市の男女共同参画推進のために取組が不十分だと思うことについて、「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」の割合が最も高くなっています。性別でみると、男性に比べ、女性で「男女が子育てや介護を共に担える環境づくり」「家庭における男女共同参画の推進」の割合が高くなっています。また、女性に比べ、男性で「制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施」「就労の場での男女共同参画の促進」「地域活動等での男女共同参画の促進」「男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立」の割合が高くなっています。

今後、亀岡市において男女共同参画を推進していくためにも、年齢や性別、地域などに応じた取組を促進していくとともに、男女共同参画に関する啓発、情報提供などを行っていくことが必要です。

## IV アンケート調査票

### 調査票

### 「男女共同参画に係る市民の意識と実態調査」

市民の皆様には、日頃から市政の推進について、ご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。亀岡市では、男女共同参画社会の実現をめざして、様々な事業に取り組んでいるところです。

この調査は、市民の皆様にも男女共同参画に関する意識や実態についてお伺いし、今後の取り組みの資料として、活用させていただくことを目的に実施するものです。

この調査の実施にあたり、市内にお住まいの20歳以上の方の中から、2,000人を無作為に選ばせていただき、あなた様のご意見をお伺いすることになりました。

つきましては、お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

- この調査では、あなたのお名前やご住所をお答えいただく必要はございません。
- ご回答いただいた内容は、秘密を厳守し、すべて統計的に処理し、行政上の基礎資料として活用させていただきます。

2014年（平成26年）10月

亀岡市

#### ご記入にあたってのお願い

- ご記入は、あて名のご本人にお願いいたします。
- 1つだけ回答していただくものと、複数（あてはまるものすべて）を回答していただくものがあります。また、「その他」にあてはまる場合は、（ ）内にその内容を具体的に記入ください。
- 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、注意書きをよくお読みください。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

**10月24日（金）までに投函してください。**

（お名前やご住所の記入は不要です。）

#### 〈問い合わせ先〉

亀岡市 生涯学習部 人権啓発課 男女共同参画推進係

TEL 25-5075（直通） FAX 22-6372

E-mail: jinken-keihatsu@city.kameoka.kyoto.jp



## あなたご自身のことについて、おたずねします

問1 あなたの性別をお書きください。

性別 ( )

※性同一性障害などの人たちの人権問題を認識していますが、この調査では、男女の意識や行動の違いを把握する必要があるために伺っています。

問2 あなたの年齢をお書きください。

年齢 ( ) 歳

問3 あなたは結婚されていますか。(1つだけに○印)

- |                        |           |
|------------------------|-----------|
| 1 結婚している               | 4 死別した    |
| 2 結婚していないがパートナーと暮らしている | 5 結婚していない |
| 3 離別した                 |           |

問4 あなたの現在の世帯構成は次のどれにあてはまりますか。(1つだけに○印)

- 1 単身世帯 (一人住まい)
- 2 1世代世帯 (夫婦のみ) (事実婚などを含む)
- 3 2世代世帯 (親と子ども)
- 4 3世代世帯 (親と子どもと孫)
- 5 その他 (具体的に )

問5 あなたの職業をお答えください。(1つだけに○印)

※2つ以上あてはまる場合は、そのうち主なもの1つに○印をつけてください。

- 1 正社員・正職員
- 2 非正規社員・非正規職員 (パート・アルバイト・契約社員、派遣社員など)
- 3 役員 (法人・団体役員など)
- 4 自営業、自由業
- 5 学生
- 6 家事専業 (主婦、主夫)、家族従業者
- 7 無職 (上記を除く)
- 8 その他 ( )

だんじょびょうどう かん いしき  
**男女平等に関する意識について、おたずねします**

問6 あなたは、現在の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。(1)～(8)のそれぞれについて、あなたの考えに近いものを選んでください。(それぞれ1つずつに○印)

項目	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
(1) 家庭生活で	1	2	3	4	5	6
(2) 職場で	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場で	1	2	3	4	5	6
(4) 自治会やNPOなど地域活動の場で	1	2	3	4	5	6
(5) 政治の場で	1	2	3	4	5	6
(6) 法律や制度のうえで	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・慣習・しきたりなどで	1	2	3	4	5	6
(8) 社会全体のなかで	1	2	3	4	5	6

問7 あなたは、男女共同参画社会を目指すためには、どのようなことが重要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

1	法律や制度のうえでの見直しを行い、女性差別につながるものを改める
2	女性に対する偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改める
3	女性を政策決定の場に積極的に登用する
4	各諸団体の女性のリーダーを養成する
5	職場における男女の均等な取扱いについて周知徹底する
6	女性の社会進出を促進するための職業教育や職業訓練を充実する
7	仕事と家庭生活などの両立支援制度を充実する
8	女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る
9	学校教育や社会教育・生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力について学習を充実する
10	女性の健康増進と母性保護の充実を一層進める
11	男女共同参画についての相談窓口を充実する
12	男女の平等と相互の理解や協力についての広報・啓発を進める
13	男性の家事、子育て、介護、地域活動への参加を促す
14	わからない
15	その他(具体的に

問8 「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方がありますが、あなたはこの考えに同感しますか。(1つだけに○印)

- 1 同感する (賛成)
- 2 どちらかといえば賛成
- 3 どちらかといえば反対
- 4 同感しない (反対)
- 5 わからない

**家庭生活・子育てについて、おたずねします**

問9 あなたの家庭では、(1)～(8)のそれぞれについて、主に男性、女性のどちらが行っていますか。あてはまる番号に○印をつけてください。(それぞれ1つずつに○印)

項目	主に女性	共同して分擔	主に男性	その他	該当しない
(1) 家事 (炊事・洗濯・掃除など)	1	2	3	4	5
(2) 子育て (子どもの世話、しつけ、教育など)	1	2	3	4	5
(3) 介護 (介護が必要な親の世話、病人の介護など)	1	2	3	4	5
(4) 地域の行事への参加、自治会活動	1	2	3	4	5
(5) PTA活動	1	2	3	4	5
(6) 生活費 (年金を含む) の確保	1	2	3	4	5
(7) 会計の管理	1	2	3	4	5
(8) 高価な商品や土地、家屋の購入決定	1	2	3	4	5

問10 あなたは、今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。  
 あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

- 1 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
- 2 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
- 3 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること
- 4 年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担等についての当事者の考え方を尊重すること
- 5 社会のなかで、男性による家事、子育て、介護、地域活動についても、その評価を高めること
- 6 労働時間の短縮や休暇制度を普及することで、仕事以外の時間を多く持てるようにすること
- 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に関心を高めるよう啓発や情報提供を行うこと
- 8 国や地方自治体などの研修等により、男性の家事や子育て、介護等の技能を高めること
- 9 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
- 10 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
- 11 その他(具体的に )
- 12 特に対策の必要はない

## しごと 仕事について、おたずねします

問11-1 勤めている人(パート・アルバイトなどを含む)におたずねします。  
 あなたの職場の男女構成について、あてはまる番号に○印をつけてください。  
 (1つだけに○印)

- 1 女性だけの職場
- 2 男性だけの職場
- 3 女性と男性が同じくらいの職場
- 4 女性が多い職場
- 5 男性が多い職場

問11-2 問11-1で「女性と男性が同じくらいの職場」、「女性が多い職場」、「男性が多い職場」のいずれかに○印をつけた人におたずねします。（「女性のみの職場」、「男性のみの職場」のどちらかに○印をつけた人は、問12に進んでください。）  
あなたの職場では、次のようなことがありますか。（1）～（11）の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は1つずつ）

項目	そう思う	そう思う どちらかといえ ば	そう思わない どちらかといえ ば	そう思わない
(1) 採用条件が女性に不利	1	2	3	4
(2) 女性は男性より賃金が低い、昇進が遅い	1	2	3	4
(3) 能力評価が男女平等ではない	1	2	3	4
(4) 女性は管理職に登用されにくい	1	2	3	4
(5) 配置転換に性別による差がある	1	2	3	4
(6) 能力のある女性でも、男性より就きにくい職種がある	1	2	3	4
(7) 補助的な仕事や雑用が女性に偏っている	1	2	3	4
(8) 結婚や出産に際して、女性が働き続けることが難しい	1	2	3	4
(9) 男性の方が育児休暇や介護休暇がとりにくい	1	2	3	4
(10) 男性の方が残業が多い	1	2	3	4
(11) 人員削減する場合、男性より女性の方が解雇されやすい	1	2	3	4

問12 あなたは、男女がともに働きやすい環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は3つ以内）

1 育児・介護休業などの休業中に所得保障があること	
2 保育サービスなどの子育て支援策を充実すること	
3 地域で自主的な子育てや介護支援ができるようなネットワークをつくること	
4 在宅勤務やフレックスタイム制など柔軟な働き方ができること	
5 長時間労働を容認する職場の雰囲気是正すること	
6 介護負担を軽減するための介護サービスを充実すること	
7 一度、職を離れても、子育て後には職場復帰しやすくすること	
8 再就職、再チャレンジに関する施策が充実すること	
9 セクシュアル・ハラスメントなど職場の中の性的な嫌がらせをなくすこと	
10 家族の積極的な支援や協力があること	
11 男女の待遇を均等にすること	
12 パート・アルバイトなどの待遇を改善すること	
13 その他（具体的に	
14 わからない	

はいぐうしゃ こいびとどう ぼうりよく  
**配偶者・恋人等からの暴力について、おたずねします**

問13 あなたはこれまでに、あなたの配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

(1)～(12)の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は1つずつ)

項目	何度もあった	一、二度あった	まったくない	もしかしたら そうかもしれない
(1) 命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	1	2	3	4
(2) 医師の治療が必要となるような暴行を受けた	1	2	3	4
(3) 医師の治療が必要ではない程度の暴行を受けた	1	2	3	4
(4) いやがっているのに、性的な行為を強要された	1	2	3	4
(5) 目の前で家具や物を壊したり、投げつけたりして 威嚇された	1	2	3	4
(6) 避妊に協力しなかった	1	2	3	4
(7) 何を言っても、無視され続けた	1	2	3	4
(8) 交友関係や電話、郵便物を細かく監視された	1	2	3	4
(9) 「誰のおかげで生活できるのか」や「役立たず」など、 人格を否定することを言われた	1	2	3	4
(10) 大声でどなられた	1	2	3	4
(11) 生活費を渡さないなど、経済的に押さえつけられた	1	2	3	4
(12) 子どもの前で暴力を振るう、子どもに自分の悪口 を言うなどされた	1	2	3	4

問14 問13で「何度もあった」、「一、二度あった」、「もしかしたらそうかもしれない」に○をつけた人におたずねします。（「まったくない」に○をつけた人は、問15に進んでください。）  
あなたは、その行為について、誰かにうちあけたり相談したりしましたか。  
あてはまる番号に○印をつけてください。

- 1 警察に連絡・相談した
- 2 人権擁護委員・法務局などに相談した
- 3 女性相談所、女性相談員に相談した
- 4 市役所の相談窓口相談した
- 5 その他の公共機関に相談した
- 6 民間の相談機関やカウンセラーに相談した
- 7 医師・カウンセラーに相談した
- 8 弁護士に相談した
- 9 学校の先生、スクールカウンセラーに相談した
- 10 家族や親族に相談した
- 11 友人や知人に相談した
- 12 その他（具体的に
- 13 どこにも相談しなかった

問15 あなたは、配偶者や恋人等からの暴力をなくすためには、どのようなことが必要だと思いますか。あてはまる番号に○印をつけてください。（○印は3つ以内）

- 1 学校での人権教育に基づいた男女平等や性に関する学習を充実する
- 2 大学、企業、地域等での暴力防止のための人権研修を充実する
- 3 被害者に対する情報提供や相談窓口体制を充実する
- 4 被害者が避難できる場所の整備など保護体制を充実する
- 5 被害者の自立を支援する体制を充実する
- 6 警察がもっと積極的に対応する
- 7 加害者に対するカウンセリングや教育などを進める
- 8 暴力の早期発見・対応のため、関係機関の連携を充実する
- 9 被害者自身が配偶者や恋人等からの行為を暴力として認識し、行動する
- 10 被害者が早期に相談できるよう身近な相談窓口を増やす
- 11 加害者への罰則を強化する
- 12 地域で暴力防止のための研修会、イベントを行う
- 13 その他（具体的に
- 14 特に対策の必要はない

しゃかいかつどう      さんか  
**社会活動への参加について、おたずねします**

問16 あなたは、次のような活動に参加していますか。

(1)～(9)の項目について、あてはまる番号に○印をつけてください。

(○印は1つずつ)

項 目	参加する よく	参加する 時々	参加しない まったく
(1) 趣味・学習・スポーツ活動	1	2	3
(2) 自治会などの役員活動	1	2	3
(3) PTA、子ども会などの地域活動	1	2	3
(4) 消費生活活動や住民運動(共同購入やリサイクルなど)	1	2	3
(5) 福祉・ボランティア活動	1	2	3
(6) 政治活動や労働組合活動	1	2	3
(7) 宗教活動	1	2	3
(8) 審議会委員などの公的な委員活動	1	2	3
(9) NPOの活動	1	2	3

問17 あなたが、社会的な活動に参加しようと思うとき、支障となることはどのようなことですか。

あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

1	仕事や家事が忙しい	
2	病気などで体調が悪い	
3	小さな子どもや介護が必要な人がいる	
4	家族の理解が得られない	
5	参加したいが活動の情報が少ない	
6	参加したい活動がない	
7	一緒に参加する仲間がいない	
8	活動する場所や施設が少ない	
9	時間帯が合わない	
10	経済的な余裕がない	
11	その他(具体的に	)
12	特にない	



さいがい  
災害について、おたずねします

問18 大災害が発生し避難が必要になった時、あなたはどのようなことが心配ですか。  
あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は2つまで)

- 1 災害についての的確な情報が得られるか
- 2 家族との連絡がとれなくなるのではないか
- 3 病人・高齢者・障害者を連れて安全に避難できるか
- 4 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか
- 5 近所の人たちと助け合って避難できるか
- 6 避難場所が安全か
- 7 ペットと一緒に避難できるか
- 8 自分自身が病気などで体調が悪いので、避難できるか
- 9 その他 ( )

問19 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。  
あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つまで)

- 1 避難所の設備 (男女別トイレ・更衣室、防犯対策)
- 2 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること
- 3 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性 (女性用品) に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
- 4 災害時の救急医療体制 (診察・治療体制、妊産婦)
- 5 被災者に対する相談体制
- 6 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
- 7 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
- 8 その他 ( )

だんじょきょうどうさんかく かん しさく  
**男女共同参画に関する施策について、おたずねします**

問20 あなたは、男女共同参画に関する事項について、どの程度ご存じですか。

(1)～(10)それぞれについて、あてはまる番号に1つつ0印をつけてください。

こ う 項 目	ないよう 内容 まで 知 つ て い る	み き 見 聞 き し た こ と は あ る	し ら な い 知 ら な い
(1) だんじょきょうどうさんかくしゃかい 男女共同参画社会	1	2	3
(2) だんじょこようきかいきんとうほう 男女雇用機会均等法	1	2	3
(3) じょしさをべつてつばいじょうやく 女子差別撤廃条約	1	2	3
(4) ワーク・ライフ・バランス (しごと せいかつ ちょうわ) 仕事と生活の調和	1	2	3
(5) ストーカーきせいほう ストーカー規制法	1	2	3
(6) はいぐうしゃぼうりょくぼうしほう ぼうしほう 配偶者暴力防止法(DV防止法)	1	2	3
(7) ポジティブ・アクション (せつきよくてきかいぜん) 積極的改善	1	2	3
(8) ジェンダー (しゃかいてき ぶんかてき せいべつ) 社会的・文化的につくられた性別	1	2	3
(9) かめおかしだんじょきょうどうさんかくじょうれい 亀岡市男女共同参画条例	1	2	3
(10) かめおかしだんじょきょうどうさんかくけいかく 亀岡市男女共同参画計画ゆう・あいステッププラン	1	2	3

だんじょきょうどうさんかく すいしん  
**男女共同参画の推進について、おたずねします**

問21 亀岡市は男女共同参画推進のためにこれまで様々な取組をしてきましたが、あなたは、取組が不十分な分野は何だと思いますか。

あてはまる番号に○印をつけてください。(○印は3つ以内)

- 1 制度や慣行の見直し、実態調査、啓発、情報提供の実施
- 2 政策決定の場への女性参画の促進
- 3 男女共同参画に向けた生涯学習の推進
- 4 学校等での男女共同参画の推進
- 5 就労の場での男女共同参画の促進
- 6 女性の職業能力の開発に向けた支援
- 7 男女が子育てや介護を共に担える環境づくり
- 8 地域活動等での男女共同参画の促進
- 9 家庭における男女共同参画の推進
- 10 男女共同参画の視点からの国際交流への貢献
- 11 女性自らの意識と能力を高めるための支援
- 12 女性に対する暴力の根絶のための支援
- 13 市民のメディア・リテラシー（情報を読み解く力）の育成
- 14 生涯にわたる女性の健康保持と促進
- 15 男女共同参画推進のための条例や計画、推進体制の確立
- 16 その他（具体的）
- 17 特にない

問22 亀岡市の男女共同参画社会づくりのために、ご意見やご要望がありましたら、自由にご記入ください。

---



---



---



---

ご協力ありがとうございました。

ご多用のところ恐縮ですが、ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、

がつかきんとうかん  
**10月24日（金）までに投函してください。**

（お名前やご住所の記入は不要です）

男女共同参画に係る市民の意識と実態調査結果報告書  
平成27年2月

発行：亀岡市 生涯学習部 人権啓発課 男女共同参画推進係  
〒621-8501 亀岡市安町野々神8番地  
TEL 0771-25-5075 / FAX 0771-22-6372  
E-mail [jinken-keihatsu@city.kameoka.kyoto.jp](mailto:jinken-keihatsu@city.kameoka.kyoto.jp)